

医療福祉論 I

担当教員 樋口 美智子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ・保健医療分野におけるソーシャルワーカーの機能と役割を理解する。
- ・保健医療サービスにおける多職種協働について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	医療福祉の概念、医療における尊厳と権利
2	医療ソーシャルワークの歴史と動向
3	医療政策の動向、国民の健康と疾病、医療保険制度・診療報酬制度の概要
4	保健医療サービスの概要、医療施設の機能
5	医療ソーシャルワーカーの業務指針、医療ソーシャルワーカーの業務と役割
6	保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、医療ソーシャルワーク業務の実際
7	医療ソーシャルワーカーの援助過程、記録
8	患者・家族とのコミュニケーション
9	保健医療サービス関係者との連携、チーム医療における医療ソーシャルワーカーの役割
10	救急医療における医療ソーシャルワーカーの役割
11	小児医療における医療ソーシャルワーカーの役割
12	在宅医療における医療ソーシャルワーカーの役割
13	緩和医療における医療ソーシャルワーカーの役割
14	地域医療における連携、多職種と協働する地域活動
15	これからの保健・医療・福祉サービスの動向
16	補講・試験・追試験

【履修上の注意事項】

- ・医療ソーシャルワーカー志望者は履修が望ましい。

【評価方法】

- ・出席日数、レポート、授業への参加姿勢等を総合的に評価する。

【テキスト】

- ・特に指定はない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

- ・(社)日本医療社会事業協会、『日本の医療ソーシャルワーク史』、川島書店、2003年
- ・川村隆彦著、『支援者が成長するための50の原則—あなたの心と力を築く物語—』、中央法規、2007年

介護概論

担当教員 長嶺 利子

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

少子・高齢社会の進展に伴い介護問題は、社会福祉事業の重要な課題とされる。そのことから、社会福祉構造の変遷と介護の推移、介護問題（フォーマル・インフォーマル）や介護の専門性・理論性・原理性と要介護者の理解、生活（QOL、自立）支援並びに関係職種・関係機関とのチームワーク・ネットワークの関わりや地域福祉との今後の課題等々を理解し、人間福祉に関する専門知識、援助態度を養う。

【授業の展開計画】

テキストによる講義主体とする。テキストにない授業内容については、プリント資料をもって行う。介護の基本・地域保健・福祉の理解を深めるため、課題提出とグループワークやミニテストを行う。

週	授 業 の 内 容
1	登録・オリエンテーション・学生理解（アンケート）、社会福祉士が介護を学ぶ意義
2	介護の目的（原則、倫理）自立に向けた介護、尊厳を支える介護、歴史、提供場所や対象等
3	介護と社会福祉、家政、看護・医療との関係
4	援助関係の基本（援助関係の理解、利用者の理解）
5	介護関係維持のための技法、観察、コミュニケーション
6	記録と情報の共有（目的、留意点、種類等）、医療・看護・福祉専門職との連携
7	介護過程（意義、目的、必要性、基本的要素や展開、チームアプローチ等）
8	生活支援技術の基本、自立支援と介護、住生活環境の整備
9	福祉用具の活用と関連する法律、目的、種類等
10	食事の介護、排泄の介護
11	衣服の着脱、清潔、体位変換・移動の介護
12	社会生活の維持、健康な生活習慣、医療的対応が必要な利用者への介護
13	緊急事故時の対応、介護家族への支援、終末期の支援
14	障害の理解と対応（視覚・聴覚に障害のある人への理解と対応）
15	精神に障害のある人への理解と対応、認知症高齢者の理解と対応
16	学期末試験（筆記）

【履修上の注意事項】

テキスト持参、予習・復習、提出物、目的意識を持って参加する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、筆記試験の得点、課題及びレポートを総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉学習双書2014《第15巻》「介護概論」 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 2014年

【参考文献】

新しい介護 講談社 2007年、介護実習指導者テキスト 全国社会福祉協議会 2012年
介護福祉士初任者のための実践ガイドブック日本介護福祉士会初任者研修テキスト 中央法規2007年

介護技術 I

担当教員 未定

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

介護技術Ⅱ

担当教員 未定

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

家族社会学

担当教員 -具志堅 邦子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「家族」とは何かを考え、どのようにして現在の家族が構築されたのかを考える。

【授業の展開計画】

- 01 ガイダンス、家族研究の展開
- 02 定常型社会と現代の家族
- 03 家族とコミュニティ
- 04 生と死と老い
- 05 社会史からみた家族
- 06 ヴィクトリア朝時代と近代家族
- 07 日本型近代家族の生成
- 08 近代の産物としての位牌継承慣行型家族
- 09 戦後の日本の社会変動と家族
- 10 戦後の沖縄の社会変動と家族
- 11 守姉
- 12 家族システムとダブルバインド
- 13 アクションと家族
- 14 機能不全家族
- 15 家族の再構築
- 16 テスト

【履修上の注意事項】

毎回の積み重ねが重要です。

【評価方法】

出席、リアクション・ペーパー、テスト等から総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

講義時に随時紹介する。

家族社会学Ⅱ

担当教員 具志堅 邦子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「家族」を社会的に読み取る力をつける。

【授業の展開計画】

01. ガイダンス
02. 家族を読み解く理論①
03. 凶像から家族を読み解く①
04. 凶像から家族を読み解く②
05. 家族を読み解く理論②
06. 家族を読み解く理論③
07. 社会変動と家族①
08. 社会変動と家族②
09. 家族を読み解く理論④
10. 家族を読み解く理論⑤
11. 家族を読み解くレッスン①
12. 家族を読み解くレッスン②
13. 家族を読み解くレッスン③
14. 家族を読み解くレッスン④
15. 家族を読み解くレッスン⑤
16. テスト

【履修上の注意事項】

毎回の積み重ねが力をつけます。

【評価方法】

出席、リアクション・ペーパー、テスト等から総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

講義時に随時紹介する。

外国語演習 I

担当教員 大兼 千津子

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

学生らが英語で書かれた心理学の文献を読みこなすことができることがこの講義のねらいである。簡単な心理学用語を学びながら講読していき、原書でしか読み取れないニュアンスを学びながら心理学を学んでいく。英語で書かれた心理学の文献を読むことによって、原書を読む楽しさを学び、理解を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	登録・オリエンテーション
2	精神保健
3	精神保健
4	精神保健
5	心理アセスメント
6	心理アセスメント
7	カウンセリング
8	カウンセリング
9	カウンセリング
10	集団心理療法
11	集団心理療法
12	集団心理療法
13	虐待、DV、神話
14	虐待、DV、神話
15	全体のまとめ
16	

【履修上の注意事項】

遅刻や欠席をしないこと。英語辞書等を持参すること。意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題及び小テストを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。授業は配布資料を用いて行われる。

【参考文献】

Gelso, C. J. & Fretz, B. R. (1992) Counseling Psychology. Harcourt Brace College Publisher.
その他、参考文献は講義の中で紹介する。

外国語演習 I

担当教員 新里 健

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業では、心理学の入門書『The social animal』（英文）を読み、そこで使われる文法や用語の用い方を理解して、語学力を身に付けることを第一の目的とする。まずは、語学力を身に付けることを目的としているが、同時に、心理学の専門的知識を得ることも目指したい。語学の授業であるので、特に、授業への積極的参加を期待したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	授業概要の説明。オリエンテーション。
2	英文法の重要部分の振り返り。
3	Self-Justification の143ページの最初のページ～145ページ上から10行目まで
4	Self-Justification の145ページ上から11行目～146ページの下から6行目まで
5	Self-Justification の146ページ下から5行目～148ページ下から3行目まで
6	Self-Justification の148ページ下から2行目～150ページ下から9行目まで
7	Self-Justification の150ページ下から8行目～152ページ上から23行目まで
8	Self-Justification の152ページ上から24行目～154ページ上から18行目まで
9	Self-Justification の154ページ上から19行目～156ページ上から27行目まで
10	Self-Justification の156ページ上から28行目～158ページ上から7行目まで
11	Self-Justification の158ページ上から8行目～160ページ上から4行目まで
12	Self-Justification の160ページ上から5行目～162ページ上から4行目まで
13	Self-Justification の162ページ上から5行目～163ページ下から3行目まで
14	Self-Justification の163ページ下から2行目～165ページ上から30行目まで
15	Self-Justification の165ページ上から31行目～167ページ上から3行目まで
16	試験

【履修上の注意事項】

必ず辞書を持参すること（電子辞書可。携帯電話は不可）

【評価方法】

試験（30点）、小テスト10回程度（各3点、合計30点）、課題（30点）主席状況等の平常点（10点）等を総合的に考慮して評価する。5回以上欠席した場合は、単位は与えられない。20分以上遅刻した場合は欠席扱いとする。また、遅刻の場合は、3回で1回欠席とする。

【テキスト】

Elliot Aaronson 2011 The Social Animal 11th Edition Woth Pub

【参考文献】

必要に応じて、授業の際に紹介する。

外国語演習 I

担当教員 柳田 正豪

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

外国語演習Ⅱ

担当教員 大兼 千津子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

外国語演習Ⅰで学んだものを元に、英語で書かれた研究論文を読みこなすことができることがこの授業のねらいである。さらに、最新の心理学情報や研究論文を原書で読みこなすことを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	登録・オリエンテーション
2	心理学関連トピック 原書講読
3	心理学関連トピック 原書講読
4	心理学関連トピック 原書講読
5	心理学関連トピック 原書講読
6	DSM5 原書講読
7	DSM5 原書講読
8	DSM5 原書講読
9	DSM5 原書講読
10	研究論文 原書講読
11	研究論文 原書講読
12	研究論文 原書講読
13	研究論文 原書講読
14	研究論文 原書講読
15	全体のまとめ
16	

【履修上の注意事項】

遅刻や欠席をしないこと。英語辞書等を持参すること。意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題及び小テストを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。授業は配布資料を用いて行われる。

【参考文献】

参考文献は講義の中で適宜紹介する。

外国語演習Ⅱ

担当教員 柳田 正豪

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

外国語演習Ⅱ

担当教員 新里 健

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

学習心理学 I

担当教員 遠藤 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学習とは、経験によって生ずる比較的永続的な行動の基礎過程の変化である。本講義では、学習心理学の歴史や現状について概説した上で、基本的な学習形態の1つである古典的条件づけを中心に、基本原理や関連する基本的概念及び最近の理論的問題について概説する。また、臨床への応用や日常生活との関連性についても理解を深めることを目標とする。また、学習心理学と関連の深い記憶研究についても概説する。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション/学習心理学とは
- 2 学習心理学の歴史と心理学の中での位置づけ
- 3 //
- 4 記憶の情報処理モデル（感覚記憶・短期記憶・長期記憶）
- 5 //
- 6 記憶の定着（リハーサルと符号化）
- 7 記憶の忘却
- 8 生得的行動パターン
- 9 馴化の基本原理
- 10 古典的条件づけの基本原理
- 11 //
- 12 高次条件づけ
- 13 古典的条件づけの臨床への応用
- 14 //
- 15 古典的条件づけにおける生物学的制約 16回目にテストを行う

【履修上の注意事項】

学習心理学 I、II を続けて履修することが望ましい。

【評価方法】

期末テストの結果により評価する。テストは持ち込み不可。なお、出席日数が 2 / 3 に満たない場合は単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

「メイザーの学習と行動」ジェームズ・E・メイザー著 磯博行/坂上貴之/川合伸幸訳 二瓶社
「コンパクト新心理学ライブラリ 2 学習の心理」 実森正子/中島定彦 著 サイエンス社

学習心理学Ⅱ

担当教員 遠藤 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、基本的な学習形態の1つであるオペラント条件づけに関して概説する。また、より洗練された学習形態である観察学習についても概説する。それぞれにおいて基本原理や基本概念、臨床への応用や、我々の日常生活との関連性についても理解を深めることを目標とする。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 オペラント条件づけの基本原理
- 3 "
- 4 オペラント条件づけの生物学的制約
- 5 "
- 6 強化スケジュール
- 7 "
- 8 回避と罰
- 9 "
- 10 オペラント条件づけの理論と研究
- 11 "
- 12 模倣理論
- 13 パーソナリティ形成と観察学習
- 14 恐怖症や認知的発達と観察学習
- 15 観察学習の臨床への応用 16回目にテストを行う

【履修上の注意事項】

学習心理学Ⅰを先に履修することが望ましい。

【評価方法】

期末テストの結果により評価する。テストは持ち込み不可。なお、出席日数が2/3に満たない場合は単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

「メイザーの学習と行動」 ジェームズ・E・メイザー著 磯 博行/坂上貴之/川合伸幸 訳 二瓶社
「コンパクト新心理学ライブラリ2 学習の心理」 実森正子/中島定彦 著 サイエンス社

学校臨床心理学

担当教員 牛田 洋一

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、学校における児童・生徒の成長・発達への臨床心理学的援助や学校コミュニティへの援助を進めるための基礎的知識を習得することを目的としている。また、スクールカウンセラーとしての視点から援助を進める上で、学校組織とどのように協調していくかについても検討していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 学校臨床心理学とは
2	沖縄県における小中学校の不登校、いじめなどの態様（1）
3	沖縄県における小中学校の不登校、いじめなどの態様（2）
4	学校臨床心理学の先進国（1）：アメリカにおける学校心理学
5	学校臨床心理学の先進国（2）：アメリカのスクールサイコジストとスクールカウンセラー
6	学校コミュニティにおける緊急支援（1）
7	学校コミュニティにおける緊急支援（2）
8	学校臨床最前線から（1）いじめ
9	学校臨床最前線から（2）スクールカウンセラーと学校現場
10	学校臨床最前線から（1）不登校
11	学校臨床最前線から（1）思春期の自傷行為
12	学校での今日の問題（1）：発達障害
13	学校での今日の問題（2）：選択性緘黙
14	学校での今日の問題（3）：その他の問題
15	まとめ：学校臨床心理学とは
16	試験

【履修上の注意事項】

臨床心理学Ⅰ・Ⅱを受講していることが望ましい。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

特にテキストは使用しない。講義の単元ごとに資料を配付する予定である。

【参考文献】

講義時に適宜紹介していく。

基礎演習

担当教員 岩田 直子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態

単位数 2

【授業のねらい】

本演習の目的は各自の大学生活へのスムーズな適応や、有意義な大学生活が送れるよう、基礎的能力を養うこととする。

【授業の展開計画】

演習計画については、初回の演習時に説明を行う。講義期間中には「合同ゼミ」が何度か予定されている。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	文献を使いこなす・文献の探し方 I
3	研究論文の読み方 I
4	研究論文の読み方 II
5	レポートを書く技術 I
6	レポートを書く技術 II
7	専門演習について I
8	専門演習について II
9	口頭発表の仕方
10	グループ発表 I
11	グループ発表 II
12	グループ発表 III
13	グループ発表 IV
14	グループ発表についての振り返り
15	講義全体の振り返り
16	

【履修上の注意事項】

遅刻や欠席をしない。

【評価方法】

出席状況、演習中の議論、発表の内容など授業への参加意欲を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

よくわかる学びの技法第2版（ミネルヴァ書房）田中共子編 2009年

【参考文献】

よくわかる卒論の書き方（ミネルヴァ書房）白井利明・高橋一郎著 2010年
演習に応じて適宜紹介する。

基礎演習

担当教員 知名 孝

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人間福祉学科社会福祉専攻1年生を対象としたこの科目は、これから福祉を学んでいくための基礎的な学力、大学で学ぶこととこれまでの学び方（文化）のちがいを習得することを目的とする。義務教育とはことなるゼミ活動を経験することで、今後の福祉の学びの基盤を築いていく。

【授業の展開計画】

専攻主任を中心に専攻教員が作成した合同ゼミ、全体企画と個別の担当教員の作成するものとで授業が展開される。全体ゼミ確定次第、個別ゼミにおいて具体的なスケジュールを報告していく。

【履修上の注意事項】

調べ学習、発表、グループワーク、ボランティア実習などさまざまなゼミ活動を行っていく。

【評価方法】

ゼミ活動への参加、出席、課題の提出状況などを総合的に評価する。

【テキスト】

それぞれの授業のなかで紹介していく。

【参考文献】

それぞれの授業のなかで紹介していく。

基礎演習

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

基礎演習（桃原ゼミ）では、前期の「フレッシュマンセミナー」で学んだ「聞く力」から引き続き、学士力（ジェネリックスキル）を身につけるための共同学習を行う。学士力において重要なキーワードとなるのが「リサーチリテラシー」（研究のための基礎力）であり、それは聞く力のほかに課題発見力、情報収集力、情報整理力、読む力、データ分析力、書く力、プレゼンテーション力が鍵となる。以上8つの力を総じて、初年次で大学生のための基礎力修得を目標とする。

【授業の展開計画】

基礎演習では、フレッシュマンセミナー（前期）で身につけた学士力およびリサーチリテラシーの柱の一つである聞く力に引き続き、以下の7つのスキル（課題発見力、情報収集力、情報整理力、読む力、データ分析力、書く力、プレゼンテーション力）をグループで共同学習していく。

- ①課題発見力：大学生がもっとも苦手になっているが、社会学、心理学、社会福祉学など具体的なものを題材に問いの立て方などのコツを身につけていく。
- ②情報収集力：文献検索と収集の方法、図書館の使い方、インターネットの活用法を身につける。
- ③情報整理力：書類整理のコツやパソコンを使った情報管理などを身につける。
- ④読む力：学術書などの読み方を段階的に学んでいく。
- ⑤書く力：レポートや論文の書き方について、問題提起と結論、そして結論を支える理由といった学術的文章の仕組みを意識した書き方を学んでいく。
- ⑥データ分析力：データを分析して解釈する手続きを学びつつ、データに騙されないための視点を身につける。
- ⑦プレゼンテーション力：自分の考え、意見を人にわかりやすく伝えるための方法を身につける。

また、基礎演習では2年次の専門演習に向けたオリエンテーションや、桃原ゼミ2～4年次との親睦交流および情報交換の場をつくり、ゼミが大学生活の拠り所になるようなプログラムも予定している。

【履修上の注意事項】

フレッシュマンセミナーにおいて、桃原ゼミを履修した学生のみが登録できることを原則とする。

【評価方法】

以下の構成で総合的に評価する。平常点（受講姿勢等）が20点、グループ学習および発表への取り組み姿勢が20点、グループおよび個人に課せられた課題の提出状況が60点という構成となる。

【テキスト】

適宜資料等を配布し、文献等を紹介する。

【参考文献】

適宜資料等を配布し、文献等を紹介する。

基礎演習 A

担当教員 前堂 志乃

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義は、大学生活への適応支援と大学で学ぶための基本的なスキルを身につけることを目的とする。前期は大学で学ぶための基礎力を身につけるためのゼミ活動が主となる。学びの基本的なスキルとは、必要な情報を探し、収集する力、文献を読む力、文章を書く力、自分の考えを発表する力、討論する力（相手の意見を良く聞き、自分の意見をきちんと述べる）、などである。ゼミの参加者全員で、色々なテーマについて、読み、書き、考え、発表し、話し合い、主体的に取り組みながら、学びの基礎力を身につけていく。

【授業の展開計画】

講義計画については初回の講義時に説明する。

【履修上の注意事項】

基礎演習の登録に関しては、オリエンテーション時の説明を受けてから登録するようにしてください。

【評価方法】

ゼミへの参加度、課題発表、レポート等の課題提出などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

テキストはとくに指定しない

【参考文献】

参考図書は講義時に、適宜紹介する。

基礎演習 A

担当教員 井村 弘子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この演習では、大学で学ぶための基本的なスキルを身につけることを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、聞いたことや調べたことを文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、相手の意見を聞き討論する力などである。ゼミ生全員で1つのテーマについて語り合ったり、個別テーマを設定してレポートを書き、発表したりする機会を通して学ぶことの面白さを発見しながら、心理カウンセリング専攻学生としての基本的・総合的な学びの力を修得していきたい。

【授業の展開計画】

演習の展開計画については、初回時に提示・説明する。
心理カウンセリング専攻全体での合同ゼミを2～3回含む。

【履修上の注意事項】

毎回出席が原則である。積極的に演習に参加する態度・姿勢が大切である。

【評価方法】

出席状況、演習への参加態度、課題発表の仕方、レポートなどを総合的に判断して評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

基礎演習 A

担当教員 平山 篤史

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とします。
大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。テーマに対する自分自身の問題意識や疑問をもち、それを明らかにするために必要な情報を集め、自分で考え、検討し、それをまとめ上げ、発表することも含めたものをさします。
基礎演習では、「学ぶ」ための基本的スキルを習得し、「学ぶ」ことの面白さを体験することを目指します。

【授業の展開計画】

講義計画については、初回の講義のときに説明する。
以下のプログラムを企画している。

- 1、コミュニケーションスキルを身につけるためのワーク
 - 2、情報収集・まとめる力・発表する力を身につけるためのワーク
 - 3、レポートの書き方についてのワーク
 - 4、大学で「学ぶ」とは
 - 5、キャリア形成についてのワーク
- 他のゼミとの合同ゼミも企画している。

【履修上の注意事項】

基本的に毎回出席することを原則とする。受身的ではなく、積極的に演習に参加する態度を求める。

【評価方法】

出席状況、演習参加の態度、課題発表、レポートなどを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

基礎演習 A

担当教員 泊 真児

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、大学生活への適応支援と大学で学ぶための基本的なスキルを身につけることを目的とします。前・後期を通じて、大学で学ぶための基礎力を身につけるためのゼミ活動が主になります。大学生としての学びの基本的なスキルとは、必要な情報を探し、収集する力、文献を読む力、文章を書く力、自分の考えを発表する力、討論する力（相手の意見を良く聴き、自分の意見をきちんと述べる）、などがあげられます。

ゼミの参加者全員で、色々なテーマについて、読み、書き、考え、発表し、話し合い、主体的に取り組みながら、学びの力を身につけていくのが目標です。

【授業の展開計画】

講義計画については初回の講義時に説明します。

【履修上の注意事項】

基礎演習の登録に関しては、オリエンテーション時の説明を受けてから登録するようにしてください。

【評価方法】

ゼミへの参加度、課題発表、レポート等の課題提出などを総合的に判断し、評価します。

【テキスト】

テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。

【参考文献】

参考図書は講義時に適宜紹介しますが、さしあたり次の2冊をあげておきます。

藤田哲也 編著 2006 大学基礎講座—改増版 北大路書房

溝上慎一 2006 大学生の学び・入門 有斐閣アルマ

基礎演習 B

担当教員 前堂 志乃

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義は、大学生活への適応支援と大学で学ぶための力（基本的スキル）と心理学と日常を結びつけて考える視点を身につけることを目的とする。

後期は、大学で学ぶための力をさらに高めていく。特に、心理学の知識と日常を結びつけて考える課題に取り組むゼミ活動が主となる。前期に身につけた学びの力を活用し、心理学の主要なテーマについて、調べ、読み、考え、話し合い、書き、発表する。ゼミの参加者全員で、課題に主体的に取り組むことで、大学生活への適応を促し、学ぶ力を高め、心理学と日常を結びつけて考える視点を身につけていく。

【授業の展開計画】

講義計画については初回の講義時に説明する。

【履修上の注意事項】

基礎演習の登録に関しては、オリエンテーション時の説明を受けてから登録するようにしてください。

【評価方法】

ゼミへの参加度、課題発表、レポート等の課題提出などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

テキストは、特に指定しない。

【参考文献】

参考文献は、講義時に適宜紹介する。

基礎演習 B

担当教員 平山 篤史

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とします。大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。テーマに対する自分自身の問題意識や疑問をもち、それを明らかにするために必要な情報を集め、自分で考え、検討し、それをまとめ上げ、発表することも含めたものをさします。基礎演習では、「学ぶ」ための基本的スキルを習得し、「学ぶ」ことの面白さを体験することを目指します。特に、基礎演習 B では、A の「書く」力に加えて、心理学の重要用語を取り上げて「調べる」「まとめる」「発表する」力をつけることを目指します。

【授業の展開計画】

講義計画については、初回の講義のときに説明する。
以下のプログラムを企画している。

- 1、コミュニケーションスキルを身につけるためのワーク
- 2、情報収集・まとめる力・発表する力を身につけるためのワーク
- 3、レポートの書き方についてのワーク
- 4、キャリア形成のワーク

他のゼミとの合同ゼミも企画している。

【履修上の注意事項】

基本的に毎回出席することを原則とする。受身的ではなく、積極的に演習に参加する態度を求める。

【評価方法】

出席状況、演習参加の態度、課題提出・発表、レポートなどを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

適宜、紹介する。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

基礎演習 B

担当教員 井村 弘子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期で身につけた基本的な学習スキルを活用して、さらに学びを深めていくことを目的とする。後期は、心理学の理論・学術用語をわかりやすく解説したり、日常生活で体験する出来事を心理学の理論・学術用語で説明したりするような課題を通して、必要な情報を収集・検索する力、文献を読みこなす力、調べたことをまとめたり、発表したりする力、相手の意見を聞き討論する力などを育成する。これらの課題を通して、心理カウンセリング専攻学生としての基本的・総合的な学びの力をより向上させていきたい。

【授業の展開計画】

演習の展開計画については、初回時に提示・説明する。
心理カウンセリング専攻全体での合同ゼミを2～3回含む。

【履修上の注意事項】

毎回出席が原則である。積極的に演習に参加する態度・姿勢が大切である。

【評価方法】

出席状況、演習への参加態度、課題発表の仕方、レポートなどを総合的に判断して評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

基礎演習 B

担当教員 泊 真児

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、大学生活への適応支援と大学で学ぶための基本的なスキルを身につけることを目的とします。前期の学びを通して、大学への適応力と大学で学ぶための基礎力とを身につけてきていると思われます。後期のゼミでは、心理学の理論や用語、思考法を用いて、日常の心理学的現象を説明する力を身につけます。具体的には、個別ゼミでグループごとに調べ学習を行い、学習成果の発表会を行います。その際、(1)心理学理論を日常の心理現象に適用する課題と、(2) (1)とは逆に日常の心理現象から心理学の概念や理論を導く課題、この2種類をグループワークを通して学んでいきます。

【授業の展開計画】

講義計画については、初回の講義時に説明します。

【履修上の注意事項】

基礎演習の登録に関しては、オリエンテーション時の説明を受けてから登録するようにしてください。

【評価方法】

- ・ゼミへの参加度、課題発表、レポート等の課題提出などを総合的に判断し、評価します。
- ・遅刻や欠席等、出欠状況が特に重視されます。
- ・ライティング課題など、きちんと課題をこなし、提出することが評価の前提となります。

【テキスト】

テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。

【参考文献】

参考図書は講義時に適宜紹介しますが、さしあたり次の2冊をあげておきます。

藤田哲也 編著 2006 大学基礎講座一増版 北大路書房

溝上慎一 2006 大学生の学び・入門 有斐閣アルマ

キャリア・カウンセリング

担当教員 大兼 千津子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、キャリア・カウンセリングを学ぶのに不可欠な心理学的な視点を理解し、心理学の基礎知識を持つことを目的とします。講義の中では、キャリア・カウンセリングの土台となるキャリアに関する心理学の理論やアプローチを学びます。キャリア教育や産業カウンセリングを学ぶことにより、キャリア・カウンセリングの実践・応用について理解を深めます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	登録・オリエンテーション
2	キャリア発達の各アプローチ
3	ドナルド・スーパー 「ライフ・スパン/ライフ・スペース理論的アプローチ」
4	ジョン・ホーランド 「6角形モデル」
5	ジョン・クルンボルツ 「学習理論」「社会的学習理論」
6	ハリィ・ジェラット 「意思決定アプローチ」
7	エドガー・シャイン 「組織心理学」「キャリア・アンカー」
8	ナンシー・シュロスバーグ 「トランジッション」
9	ダグラス・ホール 「関係性アプローチ」
10	サニィ・ハンセン 「統合的生涯設計」
11	マーク・ザビカス 「キャリア構築理論」
12	キャリア教育
13	キャリア教育
14	産業カウンセリング
15	産業カウンセリング
16	

【履修上の注意事項】

遅刻や欠席をしないこと。授業中の携帯使用不可。意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

出席状況，受講態度，課題を総合的に評価する。

【テキスト】

渡辺 三枝子 (2007) 「新版 キャリアの心理学—キャリア支援への発達のアプローチ」
ナカニシヤ出版

【参考文献】

Richard N Bolles (2011) What Color Is Your Parachute? 2011: A Practical Manual for Job-Hunters and Career-Changers

教育心理学 I

担当教員 新里 健

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業を通して、教育心理学の基礎知識を習得し、教育心理学的な視点から、『授業』や「教育活動」を分析し、効果的な指導方法を創意工夫できるようになる。加えて、学級経営や生徒指導等に知識を活用できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	本授業の説明、教育心理学とは何か
2	今、教師に求められているもの
3	発達①発達とは何か
4	発達②発達課題
5	発達③身体、認知、思考、情動、社会性
6	学習①学習とは何か
7	学習②記憶と忘却
8	学習③学習指導の形態と学習指導法、授業の個別化と最適化
9	学級集団の心理と教育
10	パーソナリティ
11	適応（基本的欲求、欲求不満、葛藤、適応機制、適応障害など）
12	教育評価（妥当性と信頼性、絶対評価と相対評価など）
13	障害者の心理と教育（発達障害などを含む）
14	教育相談の実際
15	まとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

指定したテキストを読んで授業に臨むこと

【評価方法】

評価は、期末試験、課題、授業への参加状況や授業への意欲・関心などを総合的に判断して評価して行う。課題については、授業の際に説明する。授業に20分以上遅れた場合は、遅刻ではなく欠席扱いとする。3分の一以上欠席した場合は、単位の取得はできない。

【テキスト】

『教育心理学』米澤富士雄・足立正常・倉盛一郎編著 2006 北王路書房

【参考文献】

『生徒支援の教育心理学』前原竹子編著 2007 北王路書房

『新・教育心理学』伊藤隆二編著 2003 八千代書房

『ベーシック現代心理学 教育心理学』子安増生他編 2009 有斐閣

グループアプローチ

担当教員 平山 篤史

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

グループアプローチとは個人の心理的治療・教育・成長・個人間のコミュニケーションと対人関係の発展と改善、および組織の開発と変革などを目的として、グループの機能・過程・ダイナミクス・特性などを用いる各種技法の総称とされている。この講義では、主に対人親密化過程の促進、シャイネスや対人緊張の改善など、コミュニケーションの問題に焦点を当て、実技を通して体験的に学ぶことをねらいとする。実技では、対人交流を焦点にあてた技法を用いるが、後半は心理劇的ロールプレイング技法を用いた技法も紹介する。グループアプローチの技法を身につけたい方、自分自身のコミュニケーションの課題を改善したい方にぜひ受講してほしい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	対人交流の促進を目的としたグループワーク①
3	対人交流の促進を目的としたグループワーク②
4	対人交流の促進を目的としたグループワーク③
5	対人交流の促進を目的としたグループワーク④
6	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク①
7	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク②
8	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク③
9	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク④
10	ロールプレイングを用いた技法①
11	ロールプレイングを用いた技法②
12	ロールプレイングを用いた技法③
13	心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法①
14	心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法②
15	心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法③
16	まとめ（グループアプローチの理論とレポート課題の説明）

【履修上の注意事項】

講義は実習を中心に行われる。場所は厚生会館のホールを使用することが多い。多少体を動かすプログラムが予定されているため、それにふさわしい服装で参加すること。プログラムへの参加を通して、受講学生同士が互いに交流する機会も多い。グループアプローチの理論や技法を学びたい学生はもちろんのこと、シャイネスや対人緊張の改善や、他者との関わりの中での自己への気づきを目的に受講する学生も歓迎している。就職活動の自己分析にも利用してほしい。

【評価方法】

体験型の講義であるため、まずは実習で行うプログラムに参加することが重要となる。プログラムにおける他者の関わりのある方については、評価の対象としない。どのようにかかわったのかという目に見える結果より、プログラムを通して何を感じ、何を考えたのかを重視する。毎回のプログラムでの体験の振り返りシートおよび、講義終了後の感想レポートを総合して評価する。

【テキスト】

講義では使用しない。
適宜、プリント資料を配布する。

【参考文献】

サイコドラマの技法 高良聖 岩崎学術出版

ケアマネジメント論

担当教員 安次富 郁哉 (2) 安慶名真樹 (7) 大城則子 (7)

対象学年 2年

開講時期 前期

単位区分 選択

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、種々多様なニーズを抱える利用者をより効果的に支援していくためのケアマネジメントの理解と実践のあり方をわかりやすく解説します。また、近い将来構築される「地域包括ケアシステム」を見据えて、医療と福祉（介護保険制度からみた）のそれぞれのケアマネジメントのあり方と、両者の連携の重要性について学んでもらいます。

医療・高齢者・障害等あらゆる相談援助の場面で「ケアマネジメント」は重要です。是非履修してください。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス・はじめに 安次富
2	人口構造からみた高齢社会と病院機能変化 医療におけるケアマネジメント 安慶名
3	地域包括ケアシステム～医療の視点から～ 安慶名
4	支援プロセス、アセスメントについて 安慶名
5	事例検討：グループワーク 安慶名
6	ストレンクス視点 安慶名
7	リフレミング 安慶名
8	死への体験旅行 安慶名
9	ケアマネジメントとは 大城
10	ケアマネジメントの必要性 大城
11	事例検討：ケアマネジメント過程 大城
12	要援護高齢者の在宅支援の現状と課題 大城
13	ケアマネージャーの役割と課題 大城
14	医療と介護の連携 大城
15	地域包括ケアシステム～福祉の視点から～ 大城
16	総括 期末試験 安次富

【履修上の注意事項】

- ・前半と後半の講師及び内容がことなりますが、関連づけて理解するようにしてください。
- ・私語を慎むこと
- ・よほどの事がない限り欠席しないこと

【評価方法】

- ・評価は客観的評価とします。期末試験、場合によっては単元ごとの確認試験を実施します。

【テキスト】

テキストは特に指定しません。原則として、毎回資料を配付します。

【参考文献】

講義の中で、随時紹介します。

健康スポーツ科学論

担当教員 一笹澤 吉明

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

健康・スポーツ科学に関する基礎的理論、すなわち、健康、体力、肥満・痩せ、栄養、運動・トレーニング等を学び、自身や家族の生涯に亘る健康管理に役立て、将来、健康・スポーツ関連の指導者としての実践に応用する基礎を養う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（スポーツ科学、健康科学に関する理論の必要性とその意義）
2	健康とは①（健康の背景、新健康フロンティア戦略、健康日本21）
3	健康とは②（健康の背景、新健康フロンティア戦略、健康日本21）
4	適切な生活習慣①（生活習慣病、死の四重奏、メタボリックシンドローム、健康診断・保健指導）
5	適切な生活習慣②（生活習慣病、死の四重奏、メタボリックシンドローム、健康診断・保健指導）
6	肥満・痩せと生活習慣病（生活習慣病と肥満、肥満を解消する運動と食事）
7	健康・体力の維持増進①（体格・体力の測定評価、運動の仕組み、トレーニング）
8	健康・体力の維持増進②（体格・体力の測定評価、運動の仕組み、トレーニング）
9	競技スポーツのトレーニング①（競技スポーツの分類、専門的トレーニングの要素及び方法）
10	競技スポーツのトレーニング②（競技スポーツの分類、専門的トレーニングの要素及び方法）
11	栄養と健康・スポーツ①（栄養とは、食生活の見直し、健康のための食事と健康）
12	栄養と健康・スポーツ②（栄養とは、食生活の見直し、健康のための食事と健康）
13	運動・スポーツの安全性（体温調節、熱中症、ウォーミングアップ、ストレッチング）
14	運動・スポーツによる外傷、障害（スポーツ障害と予防、救命救急、応急処置）
15	女性・高齢者の健康とスポーツ（女性・高齢者の運動の重要性、女性、中・高齢者の生理的特徴）
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席状況（5回以上の欠席は単位取得不可とする）、レポート、期末試験、授業態度を総合評価する

【テキスト】

健康・スポーツ科学の基礎 出村慎一著 杏林書院

【参考文献】

講義で適宜紹介

芸術療法

担当教員 中山 さおり

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

芸術療法とは、様々な表現活動をとおして行う心理療法の方法です。「芸術」というと人によっては高尚なものをイメージするかもしれませんが、子どもが絵をかき歌い工作することを楽しむような、人の自然な活動を生かしていこうとするものです。芸術療法には多くの種類がありますが、本講義では、絵画・コラージュ・詩歌などの技法を中心に解説し実習を行い、表現することが心にとって持つ意味、非言語的な人とのやりとりについて、体験的に学習することを目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、芸術療法概説
2	芸術療法概説
3	絵画療法
4	絵画療法
5	絵画療法
6	絵画療法
7	絵画療法
8	コラージュ療法
9	コラージュ療法
10	コラージュ療法
11	コラージュ療法
12	詩歌療法
13	詩歌療法
14	詩歌療法
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・実習では共同作業や話し合いを行うことがあります。他学生の作品を批判したり軽んじたりせず、肯定的に受けとめあい、ともに楽しむ態度を望みます。
- ・文房具や画材の持参を求めることがあります。（サインペン、クーピーや色鉛筆など彩色できるもの、はさみ、のり、古雑誌など）。
- ・授業の展開計画は適宜変更する可能性もあります。なお抽選となった場合は4年次より優先して行います。

【評価方法】

授業への参加姿勢、実習時のミニレポート、期末試験を総合的に評価します。

【テキスト】

指定なし。適宜レジュメを配布します。

【参考文献】

授業で紹介していきます。

現代社会と福祉

担当教員 前期：保良(16)後期：岩田(16)

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 通年

授業形態

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

更生保護制度

担当教員 比嘉 昌哉、その他非常勤教員

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

法を犯した者が償いを終えて生きる場は、社会・地域であり、その人たちの立ち直りは地域で完結する。更生保護とは、犯罪や非行をした人の立ち直りを支援し、地域生活を定着してもらうための支援あり方である。本科目では、那覇保護観察所からの講師派遣協力のもと、司法機関・制度、更生保護施設、精神科医療における医療観察制度、就労支援を含む地域生活支援のための支援機関と更生保護行政について学ぶ。

【授業の展開計画】

本科目は、1単位・全8回の講義を予定している。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・更生保護制度とは
2	更生保護制度の概要Ⅰ：刑事司法の中の更生保護など
3	更生保護制度の概要Ⅱ：保護観察、生活環境の調整、仮釈放など
4	更生保護制度の概要Ⅲ：更生緊急保護、犯罪被害者施策、恩赦、犯罪予防活動など
5	更生保護制度の担い手と関係機関・団体との連携
6	医療観察制度の概要
7	更生保護の実際と今後の展望
8	テスト等
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。毎回講師(那覇保護観察所職員)が異なるので質問等があれば、その都度、積極的に尋ねること。新聞等で取りあげられる更生保護に関する記事には関心をもち、可能ならばスクラップすることを望む。

【評価方法】

授業態度、出欠状況、レポート、テスト等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委(最新年)：『新・社会福祉士養成講座20 更生保護制度(最新版)』、中央法規。

【参考文献】

授業時に適宜示します。

行動療法

担当教員 上田 幸彦

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

行動療法・認知行動療法の基本的な考え方、技法、対象について概説する。認知行動療法は、近年、その効果が科学的に実証され世界的に最も用いられることが多い心理療法である。他の心理療法との違いも踏まえながら、精神科領域に止まらず、一般医療、教育、福祉など広範囲に適用されている所以を理解することをねらいとする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	行動療法とは
2	行動療法の歴史
3	行動療法の基礎となる学習理論
4	行動療法の技法①系統的脱感作法
5	事例
6	行動療法の技法②リラクゼーション法
7	行動療法の技法③暴露反応妨害法
8	事例、行動療法の技法④応用行動分析・事例
9	社会的学習理論、行動療法の技法④ソーシャルスキルトレーニング
10	認知行動療法とは、
11	うつ病の認知行動療法：認知の歪み
12	認知行動療法の技法①：非機能的思考記録
13	認知行動療法の技法②：セルフモニタリング、思考停止法、他
14	アルコール依存の認知行動療法①
15	アルコール依存の認知行動療法②
16	テスト

【履修上の注意事項】

授業の事前準備として、参考文献は一読しておくこと。
 板書されたことはもちろん、授業中に話したことは、必ずノートに取ること。
 授業中の私語、携帯電話の使用は当然、認められない。

【評価方法】

成績は、授業への参加状況、学年末試験によって総合的に判断する。

【テキスト】

【参考文献】

行動療法 内山喜久雄 著 日本文化科学社 1700円
 認知行動療法の理論と実際 岩本隆茂・大野 裕・坂野雄二 共編 培風館 3700円

高齢者に対する支援と介護保険制度

担当教員 安次富 郁哉 (16) 金城 (16)

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目は前期／高齢者の特性を中心とした講義を展開し、後期は介護保険制度を中心とした講義を展開する。なお、介護保険制度については「社会保障」でも概説する

【授業の展開計画】

講義の展開については、前期後期共に第1回目の講義オリエンテーション時に説明する。

【履修上の注意事項】

前期・後期の初回の講義オリエンテーションには必ず出席すること。出席しない場合には登録を取り消すことがあるので注意してください。

【評価方法】

原則として、前期・後期あるいは通年を通して講義の3分の1以上の欠席があった場合には、たとえ客観試験の成績が60点以上あった場合でも不可とする。

【テキスト】

新・社会福祉士養成講座13「高齢者に対する支援と介護保険制度」を指定教科書とする。購入の時期については第一回目のオリエンテーションにてアナウンスする。

【参考文献】

参考文献等については、講義の中で随時紹介する。

国連の機構と活動

担当教員 高嶺 豊

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

社会科学研究法

担当教員 崎濱 佳代

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義の目的は、社会の出来事を論理的に考察し、表現するための技能を習得することである。専門的な分野も含めた情報収集の方法や、集めた情報をもとに考察したことを論文として書き表す方法を学び、社会福祉士として必要なレポート作成力を身につける。

【授業の展開計画】

本講義では、宿題も活用しながら、実際に情報を収集し、整理、考察を行い、論文として表現する練習を行う。最初に学術論文を読んでどんな文章を書けばよいかを把握し、論文の書き方について講義した後、各々のテーマで文献調査し、レポートを作成する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（宿題あり。配布された卒業生の卒論コピーを読んでくること。）
2	宿題に出した卒論を解説
3	社会的な出来事について「知り」「考え」「伝える」とはどういうことか
4	社会的な出来事について「知る」方法（1）—リアリティの捉え方
5	社会的な出来事について「知る」方法（2）—文献調査のしかた
6	社会的な出来事について「考える」方法—どう情報を整理するか
7	社会的な出来事について「伝える」方法—効果的な論文執筆のルール（3～7週にかけて宿題あり。）
8	「今、自分が興味を持っていること」について1分スピーチ
9	文献調査～レポート作成の作業
10	文献調査～レポート作成の作業
11	文献調査～レポート作成の作業
12	文献調査～レポート作成の作業
13	文献調査～レポート作成の作業
14	文献調査～レポート作成の作業
15	授業の最後に期末レポート提出
16	期末レポート返却・講評

【履修上の注意事項】

授業では実際に論文を作成する作業をしている時間が長いので、その作業にきちんと参加すること。

【評価方法】

課題（学期途中での提出物）を30%、期末レポートを70%とし、出席状況も考慮しながら評価する。

【テキスト】

適宜、配布する。

【参考文献】

朝日新聞社『勉強のやり方がわかる』AERA Mook ; 98、2004年。
今田高俊編『社会学研究法・リアリティの捉え方』有斐閣、2000年。

社会学概論 I

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

「社会学」と聞くと、「社会科」を思い起こす者が少なくない。しかし、社会学は社会科とは異なる知識や思考作業が必要となる。自身が生きる日常世界とそれを取り巻く社会との関係に対し疑問や関心をもち、「社会学的な視点」でその関係の仕組みを解明する学問なのである。「わたしはこの世の中でどう生き／生かされているのか」という問いが大切である。「自己」「他者」「自明性」について考えるための方向感覚を身につける作業プロセスそのものが、社会学といえる。

社会学概論 I は導入部分となるため、主に社会学的視点の基礎、基本概念、基礎理論を学ぶ。

【授業の展開計画】

講義は基本的に教員からの「発話」で進行するが、毎回リアクション・ペーパーを配布し、その内容に関する応答も講義の冒頭で行う。また、講義内で「現代社会を考える学習課題」（計3回）を課す。

週	授 業 の 内 容
1	社会学概論 I への招待
2	社会学の歴史—デュルケム、ジンメル、ヴェーバーを中心に
3	自我とアイデンティティの社会学①—欲望と社会
4	自我とアイデンティティの社会学②—フロイトの自我論とミードの主我／客我論
5	自我とアイデンティティの社会学③—パーソナリティと行為の複数文脈性
6	現代社会を考える学習課題①
7	演技と語彙の社会性①—ゴフマンの演技論
8	演技と語彙の社会性②—公共空間と親密空間
9	演技と語彙の社会性②—文化資本としてのパフォーマンス
10	現代社会を考える学習課題②
11	「権力」から読み解く現代社会学①—ヴェーバーの権力論
12	「権力」から読み解く現代社会学②—フーコーの権力論
13	「権力」から読み解く現代社会学③—記号とシンボルの権力作用
14	「権力」から読み解く現代社会学④—代補と痕跡の問題
15	現代社会を考える学習課題③
16	予備日

【履修上の注意事項】

毎回出席確認を行う。またリアクション・ペーパーへの記入内容や「現代社会を考える学習課題」（計3回）への取り組み内容などを中心に評価を行うので、提出課題は漏らさず注意すること。後期開講の「社会学概論 II」から受講することも可能だが、I は入門的な内容のため、なるべく I（前期）→II（後期）の順番で受講することが望ましい。

【評価方法】

受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「現代社会を考える学習課題」①～③の提出と内容評価が各10点（計30点）、期末レポート課題の提出と内容評価が50点という構成で総合評価する。

【テキスト】

テキストの指定はとくにないので、適宜参考文献を紹介していく。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介していく。

社会学概論Ⅱ

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

前期のⅠでは社会学の基本的な視点、概念、理論を紹介するが、後期のⅡではそれらを応用したかたちで現代社会の諸相を解説する内容となる。とくに日常に見受けられる具体的な問題を提起していく。

【授業の展開計画】

講義は基本的に教員からの「発話」で進行するが、毎回リアクション・ペーパーを配布し、その内容に関する応答も講義の冒頭で行う。また、講義内で「現代社会を考える学習課題」（計3回）を課す。

週	授 業 の 内 容
1	社会学概論Ⅱへの招待
2	社会学概論Ⅰのおさらい
3	現代社会とメディア①－エンコーディング/デコーディング
4	現代社会とメディア②－ステレオタイプと擬似環境、アジェンダ・セッティング、沈黙の螺旋
5	現代社会を考える学習課題①
6	モノと消費をめぐる社会的探求①－消費概念の変遷
7	モノと消費をめぐる社会的探求②－ボードリヤールの消費概念とヨコナラビの消費
8	ジェンダーとセクシュアリティ①－ジェンダー概念の変遷
9	ジェンダーとセクシュアリティ②－家父長制と性別役割分業
10	ジェンダーとセクシュアリティ③－メディアから読み解く戦後日本のジェンダー規範
11	現代社会を考える学習課題②
12	現代社会と差別①－差別論の基礎
13	現代社会と差別②－ネットウヨクとヘイトスピーチ
14	現代社会と差別③－傷つきやすさと抑圧移譲
15	現代社会を考える学習課題③
16	予備日

【履修上の注意事項】

毎回出席確認を行う。またリアクション・ペーパーへの記入内容や「現代社会を考える学習課題」（計3回）への取り組み内容などを中心に評価を行うので、提出課題は漏らさず注意すること。「社会学概論Ⅱ」から受講することも可能だが、Ⅰは入門的な内容のため、なるべくⅠ（前期）→Ⅱ（後期）の順番で受講することが望ましい。

【評価方法】

受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「現代社会を考える学習課題」①～③の提出と内容評価が各10点（計30点）、期末レポート課題の提出と内容評価が50点という構成で総合評価する。

【テキスト】

テキストの指定はとくにないので、適宜参考文献を紹介していく。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介していく。

社会心理学Ⅱ

担当教員 泊 真児

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会心理学の領域で扱われている主要な研究知見、理論、研究方法、ならびに、著名な研究者などについて概説していきます。テーマとしては、援助・攻撃行動、集団内・集団間関係、コミュニケーション行動、消費行動、文化や社会と人間心理の関係などを取り上げます。受講生の要望等もふまえながら、なるべく日常的な心理現象や話題を取り扱っていく予定です。そうした身近な事象を社会心理学的視座から読み解くことを通して、科学的・客観的なものの見方、考え方を身につけていくことを目標としています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	履修登録・授業契約・オリエンテーション；本講義の進め方・注意事項等の説明（※出席必須）
2	人を助ける心とは？(1) ～援助行動の心理学～
3	人を助ける心とは？(2) ～ソーシャル・サポートの社会心理学～
4	人が傷つけられるとは？ ～社会的孤立と排斥の社会心理学～
5	人を傷つけるとは？ ～怒りと攻撃の社会心理学～
6	集団の機能と影響過程の心理学(1) ～集団の生産性とリーダーシップ、集団意思決定～
7	集団の機能と影響過程の心理学(2) ～集団間関係における差別と偏見～
8	集団の機能と影響過程の心理学(3) ～服従実験と監獄実験の対比を題材として～
9	集団の機能と影響過程の心理学(4) ～集団行動の破壊力：オウム真理教とマインド・コントロール～
10	コミュニケーションの心理学(1) ～非言語コミュニケーション(NVC)を中心に～
11	コミュニケーションの心理学(2) ～広告・宣伝の社会心理学的分析～
12	コミュニケーションの心理学(3) ～口コミ、マーケティング、消費行動～
13	文化と人間心理・行動の関係とは？ ～個人主義と集団主義、文化と思考様式～
14	社会心理学の応用と展開 ～面接場面 or 犯罪捜査における社会心理学の適用～
15	全講義内容のまとめと試験案内
16	学期末試験（予定）

【履修上の注意事項】

- ・第1回目講義は出席が必須条件です。履修登録や講義内容に関する重要な説明を行うためです。欠席した場合、原則的に履修仮登録を取り消しますので、履修希望者は十分ご注意ください。
- ・学期末試験は、持ち込み不可で行う予定です。履修者数によってはレポート課題に変更することもあります。
- ・講義への積極的な参加（個人または全体に向けた質問や発言）を求めます。私語や途中入退室等は厳禁です。
- ・授業の展開計画は、講義内容も含め、受講生の希望等もふまえて一部変更する可能性があります。

【評価方法】

- ・成績評価は、授業への参加態度45%、学期末課題55%の内訳で、これらを総合評価して行います。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。
- ・授業への参加態度は主に、毎回提出させるリアクションペーパーの質と量により評価します。

【テキスト】

教科書は特に指定せず、毎回の配布資料を中心に講義を進める予定です。

【参考文献】

安藤清志・松井豊 編 1990～2012 セレクション社会心理学シリーズ サイエンス社
 遠藤由美 編著 2009 社会心理学-社会で生きる人のいとなみを探る- ミネルヴァ書房
 池田謙一・唐沢穰・工藤恵理子・村本由紀子 2010 社会心理学 有斐閣

社会調査の企画と設計

担当教員 崎濱 佳代

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会調査の基礎を学ぶ。「社会調査の基礎」では量的調査を中心に内容を展開したが、Ⅱではサンプリングの技法と質的調査（とりわけ参与観察法、生活史法、ドキュメント分析など）に力点をおいて講義を行なう。実践的な社会福祉（ソーシャルワーク）、保健福祉政策、まちづくり（地域計画）と質的調査の関連性、重要性を前提に内容を展開していきたい。また、学生各自による調査の企画と設計、および量的調査または質的調査のいずれかを使用した調査の実践を行い、その成果を発表してもらおう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会調査法Ⅱへの招待
2	標本抽出（サンプリング）の理論
3	サンプリングの種類
4	サンプリングの実際
5	質的調査の考え方
6	質的調査の種類
7	質的調査の諸注意
8	ドキュメント分析と観察法
9	生活史法とライフコース分析
10	面接とインタビューの技法
11	調査実施の際の諸注意
12	個別研究テーマの発表・提出
13	調査の企画と設計の提出
14	調査実施の効果とふりかえり
15	総括と課題発表
16	試験

【履修上の注意事項】

講義形式で進めるが、調査票作成及び調査プロトコール作成においてはグループごとに討論することもあるため、話し合い、及び活動には積極的に参加すること。

【評価方法】

出席状況、グループ参加状況、調査報告内容及び試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

大谷信介、他編著、『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法—』、ミネルヴァ書房、2010年

【参考文献】

特に指定はしないが、随時紹介する。

社会調査の基礎

担当教員 崎濱 佳代

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会調査の基礎を学習する。同講義は社会福祉、保健福祉政策、まちづくり（地域計画）に関わる領域を題材にしながら内容を展開する。また、社会調査の目的や意義、調査の事例の紹介、調査倫理などの初歩的学習に加え、主に量的調査を中心に、アンケート調査の実践を展開する講義とする。調査研究の企画設計、変数と仮説構成など、プロトコルの作成から調査実施まで総合的に講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会調査とは？—その意義、目的—
2	社会調査の歴史とソーシャルワーク
3	社会調査のための諸注意—社会調査の倫理と個人情報取り扱い—
4	事前の情報収集の方法 1
5	事前の情報収集の方法 2
6	社会調査の基本的な道具
7	研究テーマの設定法
8	調査の企画、設計
9	概念、変数、仮説の活用
10	量的調査—調査票作成の事前準備
11	質問文作成の基本ルール
12	選択肢作成の基本ルール
13	調査に関する様々な誤差 1
14	調査に関する様々な誤差 2
15	社会調査法 I の総括と課題発表
16	試験

【履修上の注意事項】

原則的に講義形式で行うが、後半ではコンピュータ室を使用しての講義を展開する。そのため、基本的なコンピュータ操作に慣れておくことが望ましい。

【評価方法】

レポート、試験、受講態度、出席状況等を総合的に評価する。

【テキスト】

大谷信介、他編著、『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』ミネルヴァ書房

【参考文献】

随時講義の中で紹介していく。

社会調査の基礎

担当教員 千住 直広

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会調査の基礎を学習する。同講義は社会福祉、保健福祉政策、まちづくり（地域計画）に関わる領域を題材にしながら内容を展開する。また、社会調査の目的や意義、調査の事例の紹介、調査倫理などの初歩的学習に加え、主に量的調査を中心に、アンケート調査の実践を展開する講義とする。調査研究の企画設計、変数と仮設構成など、プロトコルの作成から調査実施まで総合的に講義する。

【授業の展開計画】

- 1 社会調査とは？－その意義、目的－（本講義の目的・内容・スケジュールの紹介）
- 2 社会調査の歴史とソーシャルワーク
- 3 社会調査のための諸注意－社会調査の倫理と個人情報の取り扱い－
- 4 事前の情報収集の方法1
- 5 事前の情報収集の方法2
- 6 社会調査の種類（量的調査と質的調査）
- 7 研究テーマの設定法
- 8 調査の企画、設計
- 9 概念、変数、仮設の活用
- 10 量的調査－調査票作成の事前準備－
- 11 質問文作成の基本ルール
- 12 選択肢作成の基本ルール
- 13 調査に関する様々な誤差1
- 14 調査に関する様々な誤差2
- 15 社会調査法 I の総括と課題発表
- 16 学期末試験

【履修上の注意事項】

私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。病気等やむを得ない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。

【評価方法】

提出物（論文・レポートなど）、テスト、受講態度、出席状況等を総合的に評価する。

【テキスト】

大谷信介他編著、『社会調査へのアプローチ－理論と方法－』（第2版）、ミネルヴァ書房、2005年
根本博司他編著、『初めて学ぶ人のための社会福祉調査法』、中央法規、2001年。
天田城介他編著、『社会調査の基礎』、中央法規、2009年。講義では、その都度レジュメ・資料等を配布する。

【参考文献】

ダレル・ハフ、『統計でウソをつく方法－数式を使わない統計学入門－』、講談社、1979年。
谷岡一郎、『「社会調査」のウソーリサーチ・リテラシーのすすめ－』、文藝春秋、2000年。
好井裕明、『「あたりまえ」を疑う社会学－質的調査のセンス－』、光文社、2006年。

社会統計学 I

担当教員 宮平 隆央

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

統計は、私たちが生活している社会の有り様を示す、重要な情報の一つです。しかし、社会には、信頼のおけるものから不確かなものまで、様々な統計・数字があふれています。

この講義では、統計的データをまとめたり、分析したりするために必要な基礎的な統計学的知識について勉強し、統計リテラシー（統計を読み取る力・統計を作成する力など統計を活用する力）の基礎を身につけることを目指します。講義では、事例をできるだけ多く紹介して統計的な考え方のイメージや基礎的な考え方を学ぶとともに、パソコンを使用して実際に統計を作成・分析する作業を通じ、理解を深めていきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）
2	「統計」とは何か？（ものごとを数字で測るとは？ 統計学的な考え方）
3	「測る」とはどういうことか？（尺度と変数、度数分布とグラフ）
4	データの特徴をどう表すか？～基本統計量1（代表値とは何か）
5	データの特徴をどう表すか？～基本統計量2（散布度とは何か）
6	データの特徴をどう表すか？～基本統計量3（尖度・歪度、正規分布・標準偏差）
7	データからどこまで確かなことがいえるか？1（検定・推定の考え方、抽出法の理論）
8	収集したデータ間に関連性はあるか？ ～量的変数1～（相関係数）
9	収集したデータから予測はできるか？ ～量的変数2～（回帰分析の基礎1）
10	収集したデータによる予測をどう読み取るか？～量的変数3～（回帰分析の基礎2）
11	みせかけの関連性を見抜くにはどうするか？～量的変数4～（変数のコントロール、偏相関係数）
12	収集したデータ間に関連性はあるか？～質的変数1～（独立性の検定、属性相関係数）
13	データの関連性をどうやって示すか？～質的変数2～（カイ二乗検定など具体的な独立性検定の方法）
14	複数のデータをどうやって読み解くか？～質的変数3～（エラボレーション）
15	講義の振り返り・まとめ
16	（レポート提出）

【履修上の注意事項】

- ・希望者が定員を上回った場合、原則として人間福祉学科の学生を優先する。
- ・授業中の私語・携帯電話は厳禁。場合によっては退席を命じることもある。その場合、欠席したものとして取り扱う。
- ・欠席する場合、事前もしくは事後に、欠席届を必ず提出すること。理由によって適切に対応する。

【評価方法】

出席 : 45点=1回: 3点×15回（宿題提出をもって出席とする）
 レポート : 50点
 その他 : 5点（受講態度など）

【テキスト】

テキスト：廣瀬毅士 寺島拓幸『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010
 また、適宜講義中にプリント、学習用電子データを配布する。

【参考文献】

- ・ハンス・ザイゼル『数字で語る—社会統計学入門』新曜社、2005
- ・ロウントリー『新・涙なしの統計学』新世社、2001
- ・酒井隆『図解 アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター、2003 など

社会統計学Ⅱ

担当教員 一宮平 隆央

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会で起きている現象の多くは、1つの要因で起こることよりも、複数の要因が関係し合っている場合が多く見られます。逆に、1つの要因が複数の現象を生み出すこともあります。社会統計学における多変量解析は、社会現象に関わる様々な要因の関係を数字で表そうとするものです。

この講義では、「社会統計学Ⅰ」の内容を踏まえ、多変量解析の基本的な考え方と方法を学びます。それにより、統計リテラシー（統計を読み取る力・統計を作る力、など統計を活用する力）を高めることを目指します。

【授業の展開計画】

講義では、まず前期の社会統計学Ⅰの内容をおさらいした上で、多変量解析による分析手法の概要をお話します。その上で、代表的な分析手法について、事例やサンプルデータを用いて、実際に分析作業を練習しながら勉強していきます。それにより実践的な知識の習得を図ります。

なお、受講生の要望、講義の進み具合、講義実施上の都合などにより、講義の順序・内容を一部変更することもあります。

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）
2	「多変量解析」を学ぶ前に（社会統計学Ⅰの復習）
3	「多変量解析」とは何か？（多変量解析の種類と用途、その方法の概要）
4	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」1
5	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」2
6	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」3
7	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」4
8	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」1
9	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」2
10	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」3
11	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」4
12	似たものをまとめる「クラスター分析」1
13	似たものをまとめる「クラスター分析」2
14	似たものをまとめる「クラスター分析」3
15	講義のふりかえり・まとめ
16	（テスト・レポート提出）

【履修上の注意事項】

- ・希望者が定員を上回った場合、原則として人間福祉学科の学生を優先する。
- ・授業中の私語・携帯電話は厳禁。場合によっては、退席を命じることもある。その場合、欠席したものとして取り扱う。
- ・欠席する場合は、事前もしくは事後に、必ず欠席届を提出すること。理由に応じて適切に対応する

【評価方法】

- ・出席 : 45点 (講義1回3点×講義15回、宿題提出をもって出席とする)
- ・レポート : 50点
- ・その他 : 5点 (受講態度等)

【テキスト】

涌井良幸・涌井貞美『多変量解析がわかる（ファーストブック）』技術評論社、2011
このほか適宜講義中で指示する。また、プリント・講義用サンプルデータ等を配布する。

【参考文献】

講義中で適宜指示する。

社会福祉の基礎

担当教員 安次富 (2) クレイグ (2) 知名 (2) 小柳 (2) 保良 (2) 桃原 (2) 岩田 (2) 比嘉 (2)

対象学年 1年

開講時期 前期

単位区分 必

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目は一年生の必修科目であり、社会福祉専攻教員が2コマずつ担当し、社会福祉についてそれぞれの研究領域から教示する。

【授業の展開計画】

第1回目の講義オリエンテーション時に詳細を提示する。なお、第1回目の講義オリエンテーションは必ず出席するようにしてください。

【履修上の注意事項】

本講義は複数教員で行います。また、講義のねらいでも記述しましたが、各教員がそれぞれの専門領域の範囲内で社会福祉について教示します。将来の目標設定の参考にならうかと思しますので、真剣に取り組むようにしてください。

【評価方法】

講義への出席状況及び各教員の課題（レポート等）の提出をもって総合評価します。

【テキスト】

特に指定しません。各教員独自の資料を配付提供する予定です。

【参考文献】

担当教員が講義の中で随時紹介します。

社会保障

担当教員 安次富郁哉（18回） 青山喜佐子（7回）、比嘉邦子（7回）

対象学年 2年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義のねらいは、まず、社会保障とは何かを理解してもらい、次いで「①社会保障の概念や体系②少子高齢社会を背景とした、わが国における社会保障制度の課題③医療保険、年金保険、労働保険、介護保険について具体的な制度の内容を理解してもらう。」である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・社会保障とは 安次富	17	年金保険制度① 沿革 比嘉
2	社会保障制度の課題・概念・体系 安次富	18	年金保険制度② 概要 体系 比嘉
3	医療保険制度① 沿革及び体系 安次富	19	年金保険制度③ 国民年金 比嘉
4	医療保険制度② 安次富	20	年金保険制度④ 厚生年金 比嘉
5	医療保険制度③ 安次富	21	年金保険制度⑤ その他年金制度 比嘉
6	医療保険制度④ 安次富	22	年金制度の管理運営体制 今後の課題 比嘉
7	医療保険制度⑤ 安次富	23	年金制度振り返り 比嘉
8	医療保険制度⑥ 安次富	24	労働保険制度①労働者災害補償保険 青山
9	医療保険制度⑦ 安次富	25	労働保険制度②労働者災害補償保険 青山
10	医療保険制度⑧ 安次富	26	労働保険制度③雇用保険 青山
11	介護保険制度① 安次富	27	労働保険制度④雇用保険 青山
12	介護保険制度② 安次富	28	労働保険制度⑤雇用保険 青山
13	介護保険制度③ 安次富	29	労災保険・雇用保険の管理運営体制 青山
14	介護保険制度④ 安次富	30	労働保険制度 振り返り 青山
15	民間保険と社会保険 安次富	31	後期試験実施 安次富
16	前期試験 安次富		

【履修上の注意事項】

本科目は、複数の教員が担当するため、前期・後期の第一回目の講義オリエンテーションには必ず出席すること。特に、前期第一回目の講義オリエンテーションに出席しなかった学生は登録を取り消しますので、注意してください。

【評価方法】

講義への出席状況、前期・後期で実施する試験点数をもって総合的に評価する。客観試験が60点以上であっても、出席状況が悪い場合には不可とする。

【テキスト】

中央法規出版「社会保障」社会福祉士養成講座シリーズを指定テキストとする。なお、講義初回のオリエンテーション時の教科書紹介後に購入すること（改訂最新版を使用するため）

【参考文献】

参考書については、講義の中で随時紹介する。

社会理論と社会システム

担当教員 崎濱 佳代

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義の目的は、人と社会の関係をどうとらえるかを学び、家庭や地域といった身の回りの社会システムや社会問題を社会学の視点から捉えなおすことである。社会福祉士にとって社会の成り立つ仕組みを知り、人々の関係性や生活世界に対する理解を深め、現代社会の抱える社会問題がどのようなものなのかを知っておくことは業務を遂行するための基礎となるので、ぜひ社会生活のなかで感じる自分なりの疑問に答えを見つけるつもりで受講してほしい。

【授業の展開計画】

本講義では、関連する資料や参考文献の内容を盛り込みながらテキストの解説を行う。学期半ばに中間テスト（小論文）、期末に課題レポートを行って授業に対する理解を確認する。

週	授 業 の 内 容
1	社会学とはなにか：これから学ぶこと
2	生活の理解：生活のとらえ方
3	生活の理解：家族
4	生活の理解：地域
5	人と社会の関係：社会的役割
6	人と社会の関係：社会的行為
7	人と社会の関係：社会関係資本と社会的連帯
8	中間テスト（小論文）
9	社会問題の理解：社会問題のとらえ方
10	社会問題の理解：日本社会と社会問題
11	社会問題の理解：共生社会と権利
12	社会問題の理解：社会のグローバル化と社会問題
13	現代社会の理解：社会変動—近代化、産業化、グローバリゼーション（1）
14	現代社会の理解：社会変動—近代化、産業化、グローバリゼーション（2）、期末レポート提出
15	期末レポートの発表討論
16	期末レポート返却

【履修上の注意事項】

中間テスト、期末レポートとも授業で扱ったテーマに沿って論文作成を行うので、きちんとノートを取っておくこと。

高校社会科の復習をしておくことが望ましい。

【評価方法】

中間テストおよび期末レポートのほか、出席や授業への参加も加味して評価を行う。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『社会理論と社会システム』中央法規出版、2010年。

【参考文献】

講義の中で適宜、指示する。

障害学

担当教員 岩田 直子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

障害者に対する支援と障害者自立支援制度

担当教員 岩田 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

障害児・者心理学

担当教員 財部 盛久

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この授業は障害児(者)の心理学的な特徴について概説する。授業では単一の障害に限定せず、障害種別に心理学的特徴について講義を行う。

【授業の展開計画】

- 第 1回：オリエンテーション
- 第 2回：障害をどのように捉えるか
- 第 3回：障害の原因・病理
- 第 4回：視覚障害と心理的特徴
- 第 5回：聴覚障害と心理的特徴
- 第 6回：運動障害と心理的特徴
- 第 7回：言語障害と心理的特徴
- 第 8回：知的障害と心理的特徴
- 第 9回：学習障害と心理的特徴
- 第 10回：注意欠如／多動性障害と心理的特徴
- 第 11回：自閉症スペクトラム症と心理的特徴（1）
- 第 12回：自閉症スペクトラム症と心理的特徴（2）
- 第 13回：障害のある人と心理臨床的問題（1）
- 第 14回：障害のある人と心理臨床的問題（2）
- 第 15回：障害のある人と心理臨床的問題（3）

【履修上の注意事項】

この授業は受講生自身が積極的に考え、学ぶことを基本にしている。したがって、常に疑問をもち、それを解決しようとする姿勢をもって授業に参加のこ。また、授業に遅刻や欠席をせず、受講する自信のあることが前提条件である。

【評価方法】

授業への参加状況、課題に対する取り組みおよび発表や提出されたレポートにより評価する。授業中、ただ黙って座っているだけでは参加状況に関する評価は低いことを理解しておいて欲しい。また、予習課題を十分に理解した上で授業を受け、授業で実施する小テストは評価の際に大きなウェイトを占めることを了解して欲しい。なお、遅刻や欠席がないことを前提としているので、何らかの事情でやむを得ず欠席する場合は事前に届けること。

【テキスト】

以下のテキストの内容に沿って授業を展開する。

特別支援児の心理学 梅谷忠勇 生川善雄 堅田明義編著 北大路書房 ¥2,500+税

【参考文献】

1. 小林隆児 よくわかる自閉症「関係発達」からのアプローチ 法研 ¥1,700+税
2. 杉山登志郎 発達障害の子どもたち 講談社現代新書 ¥720+税
3. 伊澤信三/小島道生 障害児心理入門 ミネルヴァ書房 ¥2,500+税

心理学概論

担当教員 前堂 志乃 (16) 赤嶺遼太郎 (16)

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

本講は、心理学の歴史、研究法、各分野の重要研究と理論、などを概説する。講義はオムニバス形式で前期は前堂、後期は赤嶺が担当する。前期は、心理学の歴史、研究法、感覚・知覚・記憶・学習・思考・知能・動機づけ・情動・こころと脳、後期は、発達、人格（パーソナリティ）、社会、臨床などを取り上げる。前後期を通じ心理学全般についての基礎知識を身につけ、人間の心の諸問題を心理学的に捉える視点（心理学の知識を踏まえた自己理解・他者理解をし、こころと行動を科学的に分析的に見つめる態度）を身につける。普段は気づかない自分のこころの仕組みと行動の法則を理解し、心理学の幅広さ面白さ心理学で考える楽しみを知って欲しい。

【授業の展開計画】

クラスの状況、授業の進度によって授業の計画が変更になる場合がある。その際は、授業内で変更内容について説明を行う。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション	17	後期オリエンテーション
2	心理学の歴史と研究法①	18	発達心理学①
3	心理学の歴史と研究法②	19	発達心理学②
4	感覚・知覚①	20	パーソナリティ心理学①
5	感覚・知覚②	21	パーソナリティ心理学②
6	記憶①	22	パーソナリティ心理学③
7	記憶②	23	心理学の最近のトピック（中間テスト）
8	学習①	24	社会心理学①
9	学習②	25	社会心理学②
10	思考と創造性①	26	社会心理学③
11	思考と創造性・知能②	27	臨床心理学①
12	動機づけ・情動②	28	臨床心理学②
13	動機づけ・情動①	29	臨床心理学③
14	こころと脳①	30	基礎心理学と臨床心理学①
15	こころと脳②	31	基礎心理学と臨床心理学②
16			

【履修上の注意事項】

- 水曜4校時の「心理学概論」のクラスは人間福祉学科の専門科目として開講しています。特に、心理カウンセリング専攻の1年次にとっては重要な基礎科目であるため心理専攻の学生を優先的に登録します。
- 人間福祉学科以外の学生で、公民科の教科に関する科目として受講を希望する学生は、教職課程の時間割を確認し教職用クラスを受講してください（教職用クラスは隔年開講となり、H27年度は開講されません）。

【評価方法】

- 授業への参加態度、期末課題、期末試験などを総合し、さらに、前期と後期の成績を総合して評価する。
- 前期と後期それぞれにおいて、授業への参加態度、期末課題レポート、中間試験、期末試験などを課す。詳細については、前・後期の講義初めのオリエンテーションで各担当者の説明を聞いて確認すること。

【テキスト】

初回オリエンテーション時に紹介する

【参考文献】

授業時に適宜紹介する

心理学基礎演習A

担当教員 平山篤史、前堂志乃、上田幸彦、井村弘子、泊真児（5クラス）

対象学年 2年

開講時期 前期

単位区分 必

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講の目的は、実際に複数の心理学基礎実験・実習の体験を通して、心理学における実験的研究や実証的研究の基礎を修得することである。具体的には、実験的技法や実証的技法を基盤とした複数の基礎心理学的実験・実習において、実験者および研究対象者(実験参加者、調査協力者等)の体験をし、得られたデータを自ら分析し、毎回報告書を提出する。心理学の各分野から選んだ実験・実習の主題のもと、知覚実験、記憶実験、学習実験、社会心理学実験、行動観察、質問紙調査などの実験・実習を行う。

【授業の展開計画】

講義は、ゼミごとに行う個別ゼミと、合同ゼミの回がある。実習①および実習④は登録ゼミ担当者が行う。実習②、③、⑤、⑥はローテーションで各種の研究法を体験し、レポートを作成・提出する。レポートは実習①～⑥の合計6つ提出する。実習④はポスター発表会を行う。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	全体オリエンテーション/心理学研究法とは	17	3, 4年ゼミ配属合同説明会
2	実験法とは (合同ゼミ)	18	実習④-1 質問紙調査とは
3	実習①-1 実験テーマの説明	19	実習④-2 質問紙の内容の検討1
4	実習①-2 実験の手続き・実施	20	実習④-3 質問紙の内容の検討2
5	実習①-3 結果の解釈とまとめ	21	実習④-4 質問紙の作成
6	文献検索の仕方	22	実習④-5 質問紙法の実施と入力
7	実習①-4 レポートの書き方と考察	23	実習④-6 質問紙法のデータ分析
8	実習①-5 レポートの添削フィードバック	24	実習④-7 質問紙法の結果のまとめと考察
9	実習②-1	25	実習④-8 質問紙のポスター発表会
10	実習②-2	26	実習⑤-1
11	実習②-3	27	実習⑤-2
12	実習③-1	28	実習⑤-3
13	実習③-2	29	実習⑥-1
14	実習③-3	30	実習⑥-2
15	質問紙調査法オリエンテーション	31	実習⑥-3
16	卒論ゼミのオリエンテーション		

【履修上の注意事項】

- ・この演習は、さらに、5ゼミ全てが同じ内容の実習を行い、学生全員が、合同ゼミと、ローテーションで5名の担当教員の指導を受ける形式をとる。
- ・実習を伴うゼミなので、主体的に積極的な受講態度が重要である。
- ・実習を伴うため、受講環境を考慮し、各ゼミの定員はほぼ同数になるようにクラス編成をする予定である。

【評価方法】

- 1, 報告書の提出：実習①～⑥と質問紙調査の合計7つの実習報告書をレポートとして提出する。
- 2, ①のレポートの評価と、毎週の出席、基礎実習中の参加態度、個別ゼミへの参加態度などを総合して、評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文（2008）．心理学基礎演習Vol.2 質問紙調査の手順 ナカニシヤ出版

【参考文献】

参考図書等は、講義の中で適宜紹介する。

心理学基礎演習B

担当教員 平山篤史、前堂志乃、上田幸彦、井村弘子、泊真児（5クラス）

対象学年 2年

開講時期 後期

単位区分 必

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講の目的は、実際に複数の心理学基礎実験・実習の体験を通して、心理学における実験的研究や実証的研究の基礎を修得することである。具体的には、実験的技法や実証的技法を基盤とした複数の基礎心理学的実験・実習において、実験者および研究対象者(実験参加者、調査協力者等)の体験をし、得られたデータを自ら分析し、毎回報告書を提出する。心理学の各分野から選んだ実験・実習の主題のもと、知覚実験、記憶実験、学習実験、社会心理学実験、行動観察、質問紙調査などの実験・実習を行う。

【授業の展開計画】

講義は、ゼミごとに行う個別ゼミと、合同ゼミの回がある。実習①および実習④は登録ゼミ担当者が行う。実習②、③、⑤、⑥はローテーションで各種の研究法を体験し、レポートを作成・提出する。レポートは実習①～⑥の合計6つ提出する。実習④はポスター発表会を行う。

週	授業の内容	週	授業の内容
1	全体オリエンテーション/心理学研究法とは	17	3, 4年ゼミ配属合同説明会
2	実験法とは (合同ゼミ)	18	実習④-1 質問紙調査とは
3	実習①-1 実験テーマの説明	19	実習④-2 質問紙の内容の検討1
4	実習①-2 実験の手続き・実施	20	実習④-3 質問紙の内容の検討2
5	実習①-3 結果の解釈とまとめ	21	実習④-4 質問紙の作成
6	文献検索の仕方	22	実習④-5 質問紙法の実施と入力
7	実習①-4 レポートの書き方と考察	23	実習④-6 質問紙法のデータ分析
8	実習①-5 レポートの添削フィードバック	24	実習④-7 質問紙法の結果のまとめと考察
9	実習②-1	25	実習④-8 質問紙のポスター発表会
10	実習②-2	26	実習⑤-1
11	実習②-3	27	実習⑤-2
12	実習③-1	28	実習⑤-3
13	実習③-2	29	実習⑥-1
14	実習③-3	30	実習⑥-2
15	質問紙調査法オリエンテーション	31	実習⑥-3
16	卒論ゼミのオリエンテーション		

【履修上の注意事項】

- ・この演習は、さらに、5ゼミ全てが同じ内容の実習を行い、学生全員が、合同ゼミと、ローテーションで5名の担当教員の指導を受ける形式をとる。
- ・実習を伴うゼミなので、主体的に積極的な受講態度が重要である。
- ・実習を伴うため、受講環境を考慮し、各ゼミの定員はほぼ同数になるようにクラス編成をする予定である。

【評価方法】

- 1, 報告書の提出：実習①～⑥と質問紙調査の合計7つの実習報告書をレポートとして提出する。
- 2, ①のレポートの評価と、毎週の出席、基礎実習中の参加態度、個別ゼミへの参加態度などを総合して、評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文（2008）．心理学基礎演習Vol.2 質問紙調査の手順 ナカニシヤ出版

【参考文献】

参考図書等は、講義の中で適宜紹介する。

心理学研究法 I

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、心理学の研究をしていく手順や方法についての基礎的知識を理解することを目的とする。具体的には、心理学の歴史の過程で採用されてきた各種の研究法についての理論と技法について理解していく。さらに、各種の研究法を組み合わせた、実践的研究法、心理臨床的研究法についても理解していく。最後に、研究の展開の仕方、研究倫理についても理解していく。後期の心理学研究法Ⅱで研究の実際について学ぶために、その前提となる心理学研究法の各研究法の基礎知識を身につけることが目標となる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	心理学研究法とは何か
3	実験の倫理と方法①
4	実験の倫理と方法②
5	実験の倫理と方法③
6	質的調査－観察・面接・フィールドワーク①
7	質的調査－観察・面接・フィールドワーク②
8	準実験と単一事例実験①
9	準実験と単一事例実験②
10	量的調査－尺度の作成と相関分析①
11	量的調査－尺度の作成と相関分析①
12	量的調査－尺度の作成と相関分析①
13	教育・発達における実践研究
14	臨床における実践研究
15	研究の展開－研究計画から発表・論文執筆まで・研究倫理
16	

【履修上の注意事項】

- ・心理学の基礎科目（心理学概論、心理統計学基礎）を履修済みであることが望ましい。
- ・初回のオリエンテーション時に詳細なシラバスを配布し説明する。授業の進度に応じて授業計画が変更になる場合もある。その際は、新たなシラバスを配布し説明する。
- ・専門ゼミ（心理学基礎演習A・B、心理学専門演習Ⅰ・Ⅱ）に関連が深い科目である。各科目で学んだことを相互に関連づけて理解するようにしてほしい。

【評価方法】

出席確認：感想シート、クイズへの回答などをもって平常点とする（出席確認を兼ねる）。
 ワーク：毎回の講義のテーマに関連する課題をワークシートとして課す。
 期末課題：学期末にポートフォリオとレポート課題を課す。
 平常点、ワーク、期末課題を総合して評価する予定である。

【テキスト】

- ・テキストは、初回の講義時に紹介する予定である（テキストは毎回の講義に使用するため購入すること）
- ・その他、必要な資料を授業時に配布する予定である

【参考文献】

- ・講義の中で、適宜紹介する。
- ・必要に応じて資料を配付する。

心理学研究法Ⅱ

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講は、心理学研究法Ⅰで学んだ各種研究法に関する基礎知識をベースに、心理学の研究の方法、手続、技法、研究の進め方などについてさらに理解を深め、心理学の研究力を身につけることを目的とする。心理学にはいくつかの代表的な研究手法があるが、中でも研究の基礎となり卒論で最も多用される実験法と質問紙法を取り上げ、実習を交えながら体験的に理解を深めていく。典型的な事例を挙げながら、できるだけ具体的に、研究テーマの設定、研究デザインと研究計画の策定と吟味、研究の具体化、報告書の執筆、という研究の流れを辿りながら、研究をすることの意味と面白さについてともに考え理解を深めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・心理学研究法の基礎知識の再確認
2	リサーチクエスションの設定：研究する意味・研究テーマの選定・設定
3	文献レビュー
4	研究デザインと研究計画の策定（研究デザインと研究計画の吟味と具体化）
5	研究デザインに基づく研究の実施
6	研究成果の報告①
7	研究成果の報告②・研究のつながりと楽しみ
8	質的研究法：観察法①
9	質的研究法：観察法②
10	質的研究法：観察法③
11	質的研究法：調査的面接①
12	質的研究法：調査的面接②
13	質的研究法：調査的面接③
14	質的研究法：フィールドワーク
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

- ・心理学の基礎科目（心理学概論、心理統計学基礎）を履修済みであることが望ましい。
- ・初回のオリエンテーション時に詳細なシラバスを配布し説明する。授業の進度に応じて授業計画が変更になる場合もある。その際は、新たなシラバスを配布し説明する。
- ・専門ゼミ（心理学基礎演習A・B、心理学専門演習Ⅰ・Ⅱ）に関連が深い科目である。各科目で学んだことを相互に関連づけて理解するようにしてほしい。

【評価方法】

出席確認：感想シート、クイズへの回答などをもって平常点とする（出席確認を兼ねる）。
 ワーク：毎回の講義のテーマに関連する課題をワークシートとして課す。
 期末課題：学期末にポートフォリオとレポート課題を課す。
 出席、ワーク、期末課題を総合して評価する予定である。

【テキスト】

- ・テキストは、初回の講義時に紹介する予定である（テキストは毎回の講義に使用するため購入すること）
- ・その他、必要な資料を授業時に配布する予定である

【参考文献】

- ・授業時に適宜紹介する
- ・心理学基礎演習の講義で紹介された参考図書も活用する
- ・その他、初回の講義時に紹介する予定

心理学専門演習 I A

担当教員 平山 篤史

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

心理学の文献・先行研究を精読し、独自の研究計画を立てる。その計画に基づき、心理学研究の研究法の一つである質問紙調査法を用いて実際のデータを収集し、まとめ、発表をする。さらに、自らの研究を再検討しなおし、卒業論文のテーマを設定する。テーマとしては以下のものを取り上げる。

1、大学生の対人交流に関する研究 2、大学生の適応・不適応（切り口として、対人不安、シャイネス、自己注目、自己呈示、自己開示、自己意識を中心に）に関する研究 3、グループアプローチ・グループ活動に関する研究 4、動作法に関する研究

【授業の展開計画】

以下の内容で授業を展開する。

- 1、心理学研究を進めるための文献・資料の検索、収集
- 2、文献・論文の精読
- 3、研究計画の作成
- 4、質問紙調査表の作成
- 5、質問紙調査の実施とデータとまとめ
- 6、質問紙調査の結果のまとめと考察
- 7、プレゼンテーションの準備
- 8、研究の再検討
- 9、卒業論文のテーマ設定と研究計画

【履修上の注意事項】

受講生自身が積極的・主体的に考え、意見を述べることを求める。演習の時間だけでは研究を進めることはできない。普段から自分で積極的・自主的に研究を進めていかなければならない。

【評価方法】

出席状況、演習参加の態度、課題発表、レポートなどを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習vol. 2「質問紙調査の手順」ナカニシヤ出版
松井豊 心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために― 河出書房新社

【参考文献】

適宜紹介する。

心理学専門演習 I A

担当教員 井村 弘子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この演習は卒業論文の前段階として、心理学の各領域の研究方法を理解し、卒業論文のテーマを発見することを目的としている。そのために前期では文献の検索、読み込み、発表を行い、研究に必要な基礎知識を習得する。

【授業の展開計画】

心理学の領域や研究方法について、文献を通して理解を深める。そのために、各自が論文を読み、概要を報告すると同時に、論文の特徴や課題について発表する。その際、その論文のテーマと方法についても十分に理解して説明することが求められる。発表者だけでなく、全員の理解が深まることを目的としているので、受講者全員が主体的に討論に参加することが求められる。なお、取り上げる論文については講義時に紹介する予定である。

【履修上の注意事項】

この演習は、受講生自身が積極的に考え、行動することを基本にしている。したがって、常に疑問をもち、それを解決しようとする姿勢をもって参加すること。また、遅刻や欠席をせず、受講することが前提条件である。

【評価方法】

授業への参加状況、課題に対する取り組みの態度および発表や提出されたレポートにより評価する。

【テキスト】

杉本敏夫（著）「心理学のためのレポート・卒業論文の書き方」サイエンス社

【参考文献】

各自のテーマに沿って紹介する。

心理学専門演習 I A

担当教員 泊 真児

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習 I Aの目的は、卒業研究に向けての基礎作りを行うことです。卒業研究を念頭に、社会心理学ないし臨床社会心理学的なテーマで実証研究を行うための一連の科学的方法論の習得を目指します。前期の I Aでは、グループでの研究活動を通して、文献検索の仕方・読み方、レジュメのまとめ方、発表の仕方、質疑応答の仕方等を体験的に学んでいきます。前期は、研究活動を通して、実践的な「卒論作成基礎力」を身につけることを目標としています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション & ゼミメンバー紹介
2	グループ・ワーク
3	グループ研究のテーマの検討
4	研究テーマに関連する文献の検討(1)
5	研究テーマに関連する文献の検討(2)
6	研究テーマに関連する文献の検討(3)
7	研究デザインの検討(1)
8	研究デザインの検討(2)
9	研究デザインの検討(3)
10	データ収集(1)
11	データ収集(2)
12	データ入力とデータ解析(1)
13	データ入力とデータ解析(2)
14	データの読み取りと結果のまとめ
15	研究結果の考察と発表資料の作成
16	研究成果発表会

【履修上の注意事項】

- ・この授業は遅刻・欠席をせずに参加することが求められます。また、授業への参加態度（各回でのワークへの積極的な参加）を重視して評価を行います。
- ・グループでの研究活動は、全員参加型で積極的に関与することが求められます。「卒論作成基礎力」を身につけるためにも、人任せにせず、自分の役割と責任を果たすように取り組んでください。
- ・授業の展開計画は、受講者数などの状況に応じて変更となる可能性があります。

【評価方法】

授業への出席および参加態度により評価を行います。成績評価のウェイトは、出席状況が45%、授業への参加態度が55%で、これらを総合して評価を行います。授業内で頻繁に意見表明を求める機会がありますので、意見を表明しなかったり、消極的な態度を示したりする場合には評価が低くなります。

【テキスト】

テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。

【参考文献】

- 卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。
- ・白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房
 - ・都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ

心理学専門演習 I A

担当教員 上田 幸彦

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒論作成の前段階として、実際の臨床心理学論文を幅広く読み、理解できる力を身につける。同時に、これまで知らなかった幅広い対象者に心理学的アプローチが可能であり、さまざまな心理学的研究方法があることを知ることで、各自の卒論構想の幅を広げようとする。論文講読とディスカッションを通して、現在の臨床心理学の知見がどのようにして得られたのかを理解し、研究テーマ設定、文献検索、仮説構築、検証といった一連の研究手続きができるようになることをねらいとする。領域は、主に中途身体障害、慢性疾患、高次脳機能障害、リハビリテーション、認知行動療法の中から基礎的な論文を読む予定である。

【授業の展開計画】

前期においては、各自が興味あるテーマを発表したあと、中途身体障害、慢性疾患、高次脳機能障害、認知行動療法などの領域の基礎的な論文を輪読する。夏休み中には、上記の領域の中から指定された文献の一つを読み書評を書く。夏休み明けから、その概要を報告し、内容についてディスカッションを行う。後期においては、文献の輪読を続けながら、各自関心のある領域の一つを選び、その領域の論文を3つ以上読むことを課題とする。その中の1つについて概要を発表する。最終的には読んだ3つの論文の概要を提出する。適宜、各自の卒論研究についての構想を報告し、全体でディスカッションを行う。

【履修上の注意事項】

自分の発表以外の時に、積極的に疑問を持ち、質問し、考えを述べるのが求められる。授業中に積極的にディスカッションに参加するためには事前準備をしっかりと行うことが必要となる。行動療法、障害児・者心理学、神経心理学を受講していることが望ましい。

【評価方法】

授業への出席状況と、ディスカッションの積極性、前期、後期に提出されたレポートから総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

心理社会的リハビリテーションのキーワード
M.G. イーゼンバーク編 野中 猛・池淵恵美 監訳 岩崎学術出版社

心理学専門演習 I A

担当教員 前堂 志乃

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講では、卒業研究の前段階として、心理学の各研究法を理解しその手続きを身につけることを目的とする。具体的には、小グループに分かれてのグループ研究を行う。グループでの討議と協働を通して、自らの問題意識とリサーチクエスションの関係づけ、文献検索、文献の読み込み、研究テーマの発見、研究デザインの設定、研究計画の策定、実験、調査などの計画・実行、データの収集と分析、報告書の作成と発表という一連の研究活動について体験的に学んでいく。このグループ研究活動を通して卒業研究へと繋げていく。

【授業の展開計画】

- 1週目：オリエンテーション・グループ研究の流れについて
- 2週目：心理学の研究の流れと研究論文について
- 3週目：問題意識とリサーチクエスションについて
- 4週目：文献検索と文献レビューについて・研究グループの編成
- 5～6週目：グループ研究①文献の読み込みと文献レビュー発表
- 7～8週目：グループ研究②研究テーマの設定、研究デザインと研究計画について
- 9～10週目：グループ研究③研究デザインの検討と発表
- 11～12週目：グループ研究④研究計画の具体化（実験・調査などの準備）
- 13～14週目：グループ研究⑤研究の実施（データ収集と結果の分析）
- 15週目：グループ研究⑥考察および研究報告書・ポスターの作成・研究報告会

*前期は、関心のある領域でまとまったグループ研究での活動を実践しながら研究の過程を理解する

*前・後期ともに定期的なゼミでの発表と討議、個別指導を組み合わせる

【履修上の注意事項】

4年次での卒業研究につなげるため、グループでのゼミ研究を行う。グループ研究活動へ自発的・積極的に取り組むことを通して、さまざまな意見をもつメンバーと討議・協働しながら1つの研究を立ち上げて一定の結論を得るという達成感を味わって欲しい。心理学専門演習Ⅱ（4年ゼミ）との合同の勉強会や、合同ゼミも計画している。学年を超えての学習活動に主体的に参加することで、相互に刺激し、学び合える関係を体験して欲しい。

【評価方法】

ゼミへの参加度、課題発表、グループ研究発表（発表レジュメとポスターの作成・研究レポートの提出）、卒論デザイン発表（文献レビュー・卒論のデザインレジュメの提出）などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

初回の講義時に紹介する

【参考文献】

- ①都筑学（2008）．心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣
 - ②小塩真司・西口利文（2008）．心理学基礎演習Vol.2 質問紙調査の手順 ナカニシヤ出版
- その他の参考文献は、講義の中で適宜紹介する。

心理学専門演習 I B

担当教員 上田 幸彦

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒論作成の前段階として、実際の臨床心理学論文を幅広く読み、理解できる力を身につける。同時に、これまで知らなかった幅広い対象者に心理学的アプローチが可能であり、さまざまな心理学的研究方法があることを知ることで、各自の卒論構想の幅を広げることを狙いとする。論文講読とディスカッションを通して、現在の臨床心理学の知見がどのようにして得られたのかを理解し、研究テーマ設定、文献検索、仮説構築、検証といった一連の研究手続きができるようになることをねらいとする。領域は、主に中途身体障害、慢性疾患、高次脳機能障害、リハビリテーション、認知行動療法の中から基礎的な論文を読む予定である。

【授業の展開計画】

後期においては、文献の輪読を続けながら、各自関心のある領域の一つを選び、その領域の論文を3つ以上読むことを課題とする。その中の1つについて概要を発表する。最終的には読んだ3つの論文の概要を提出する。適宜、各自の卒論研究についての構想を報告し、全体でディスカッションを行う。

【履修上の注意事項】

自分の発表以外の時に、積極的に疑問を持ち、質問し、考えを述べることが求められる。授業中に積極的にディスカッションに参加するためには事前準備をしっかりと行うことが必要となる。行動療法、障害児・者心理学、神経心理学を受講していることが望ましい。

【評価方法】

授業への出席状況と、ディスカッションの積極性、前期、後期に提出されたレポートから総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

心理社会的リハビリテーションのキーワード
M.G. イーゼンバーク編 野中 猛・池淵恵美 監訳 岩崎学術出版社

心理学専門演習 I B

担当教員 井村 弘子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期で学んだ研究方法を基に、各自の関心あるテーマについてデータを収集し、レポートにまとめる。こうした一連の活動を通して、卒業論文のテーマを絞り込むことを最終目標としている。

【授業の展開計画】

前期で学んだことを基に、各自で関心のあるテーマを絞り、そのテーマについて予備的な実験、行動観察、調査等の手法を用いてデータを収集、整理して結果をレポートにまとめる。また、レポートを基に発表用の資料を作成し、口頭発表する。最後に、卒業論文のテーマを絞り込み、大まかな研究計画を立てる。

【履修上の注意事項】

前期と同様、主体的に学ぶこと。遅刻や欠席をせず受講することが前提である。

【評価方法】

演習への参加状況、課題に対する取り組みの態度および発表や提出されたレポートにより総合評価する。

【テキスト】

必要に応じて指定する。

【参考文献】

各自のテーマに沿って紹介する。

心理学専門演習 I B

担当教員 泊 真児

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

後期の I B は、前期に身につけた「卒論作成基礎力」を応用・発展させる段階と位置づけています。後期は、学生の基礎力の状態や要望等をふまえて、4年次の卒論作成にスムーズに移行できるようなゼミ活動をしていきたいと考えています。具体的には、各自の卒論テーマに関わる文献の発表・討議を行うか、あるいは、グループ研究の形で先行研究の追試を行う、新たなテーマで研究を行う、等が考えられます。到達目標としては、「卒論作成応用・実践力」の育成ということになります。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	夏休み課題に関する個人発表
2	後期のゼミ活動の進め方に関する話し合い
3	後期の活動テーマの決定とガイダンス
4	学術論文の個人発表 or グループ研究(1)
5	学術論文の個人発表 or グループ研究(2)
6	学術論文の個人発表 or グループ研究(3)
7	学術論文の個人発表 or グループ研究(4)
8	学術論文の個人発表 or グループ研究(5)
9	学術論文の個人発表 or グループ研究(6)
10	学術論文の個人発表 or グループ研究(7)
11	学術論文の個人発表 or グループ研究(8)
12	学術論文の個人発表 or グループ研究(9)
13	学術論文の個人発表 or グループ研究(10)
14	学術論文の個人発表 or グループ研究(11)
15	卒論構想予備検討会に向けてのガイダンス
16	予備日

【履修上の注意事項】

- ・この授業は遅刻・欠席をせずに参加することが求められます。また、授業への参加態度（各回での発表や質疑応答の仕方、ゼミ活動への積極性など）を重視して評価を行います。
- ・個人発表の場合、発表者以外の学生にも役割が割り当てられますので、やむを得ない事情がない限り、遅刻・欠席をしないでください。
- ・授業の展開計画は、受講者数などの状況に応じて変更となる可能性があります。

【評価方法】

授業への出席および参加態度により評価を行います。成績評価のウェイトは、出席状況が45%、授業への参加態度が55%で、これらを総合して評価します。授業内で頻繁に意見表明を求める機会がありますので、意見を表明しなかったり、消極的な態度を示したりする場合には評価が低くなります。

【テキスト】

テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。

【参考文献】

- 卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。
- ・白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房
 - ・都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ

心理学専門演習 I B

担当教員 平山 篤史

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

心理学専門演習 I A の続きである。心理学の文献・先行研究を精読し、独自の研究計画を立てる。その計画に基づき、心理学研究の研究法の一つである質問紙調査法を用いて実際のデータを収集し、まとめ、発表をする。さらに、自らの研究を再検討しなおし、卒業論文のテーマを設定する。テーマとしては以下のものを取り上げる。

- 1、大学生の対人交流に関する研究
- 2、大学生の適応・不適応（切り口として、対人不安、シャイネス、自己注目、自己呈示、自己開示、自己意識を中心に）に関する研究
- 3、グループアプローチ・グループ活動に関する研究
- 4、動作法に関する研究

【授業の展開計画】

以下の内容で授業を展開する。

- 1、心理学研究を進めるための文献・資料の検索、収集
- 2、文献・論文の精読
- 3、研究計画の作成
- 4、質問紙調査表の作成
- 5、質問紙調査の実施とデータとまとめ
- 6、質問紙調査の結果のまとめと考察
- 7、プレゼンテーションの準備
- 8、研究の再検討
- 9、卒業論文のテーマ設定と研究計画

【履修上の注意事項】

心理学専門演習 I A の続きであるため、原則として同じクラスの心理学専門演習 I A を履修していることが履修の条件である。

受講生自身が積極的・主体的に考え、意見を述べることを求める。演習の時間だけでは研究を進めることはできない。普段から自分で積極的・自主的に研究を進めていかなければならない。

【評価方法】

出席状況、演習参加の態度、課題発表、レポート、卒業論文テーマの発表会でのプレゼンテーション内容などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習 vol. 2 「質問紙調査の手順」ナカニシヤ出版
松井豊 心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために― 河出書房新社

【参考文献】

適宜紹介する。

心理学専門演習 I B

担当教員 前堂 志乃

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講では、卒業研究の前段階として、心理学の各研究法を理解しその手続きを身につけ自らの卒論のテーマを発見し研究計画を立てることを目的とする。心理学専門演習 I Aのグループ研究のゼミ活動を踏まえて、卒論に向けての研究活動を本格的に開始する。まずは、自らの問題意識を整理しながら文献検索、文献の読み込みと発表、問題意識とリサーチクエスションの関係づけ、研究テーマの発見、研究デザインの設定と研究計画の策定（デザイン発表）、実験、調査などの準備、予備実験、予備調査など研究の段階を進めていく。一連の研究活動を進めながら、4年次での研究実施に向けて学んでいく。

【授業の展開計画】

前期

1週目：オリエンテーション

2週目：問題意識とリサーチクエスション（卒論の研究テーマの確立に向けて）

3週目：文献検索と文献レビューについて

4週目～11週目：文献紹介とリサーチクエスションの発表（核となる論文の紹介）

12～14週目：卒論の研究テーマと研究デザインの検討

13～15週目：卒論に向けての研究デザイン発表

* 後期開始前の夏期休業期間に関心のある領域の文献を検索し読み始めておく

* 前・後期ともに定期的なゼミでの発表と討議、個別指導を組み合わせる

【履修上の注意事項】

4年次での卒業研究につなげるため、各自興味のある先行研究のレビューを行い、研究テーマを確立し研究デザイン発表の段階まで進める。ゼミでの発表と討議を通して、お互いのリサーチクエスションや研究デザインを洗練させていく。各自が自発的・積極的に取り組み、さまざまな意見をもつメンバーと討議することで、自分の研究テーマを確立していく達成感を味わって欲しい。心理学専門演習 II（4年ゼミ）との合同ゼミ・勉強会も予定しているので学年を超えた学習活動に主体的に参加し相互に刺激し学び合える関係を体験して欲しい。

【評価方法】

ゼミへの参加度、論文紹介発表、文献レビューの提出、卒論研究デザイン発表、各レジュメの提出などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

初回の講義時に紹介する

【参考文献】

- ① 都筑学（2008）．心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣
 - ② 小塩真司・西口利文（2008）．心理学基礎演習 Vol.2 質問紙調査の手順 ナカニシヤ出版
- その他の参考文献は、講義の中で適宜紹介する。

心理学専門演習ⅡA

担当教員 山入端 津由

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

心理学専門演習ⅡA

担当教員 前堂 志乃

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本講の目的は、4年間の専門領域の学習の集大成として、自らの問題意識を心理学の専門分野に位置づけた卒業研究を行い卒業論文をまとめることである。まず、心理学の各分野についての学習を通して培ってきた自分なりの問題意識をリサーチクエストとし、卒業論文のテーマを設定、関連文献の読み込み、研究デザインの組立と発表を行う。続いて、研究デザインにもとづき適正な研究手続きのもと実験・調査等を行い、データを収集・分析し、卒業論文にまとめ、卒論発表を行う。卒論研究を通して、心理学的なものごとを捉え、深く考察し、得られた結論を発信するという、心理学的思考力と研究力を身につけることを目標とする。

【授業の展開計画】

前期

1週目：オリエンテーション

2週目：卒業論文の研究デザインと研究計画について

3週目：卒業論文の研究デザインと研究計画の策定

4～7週目：デザイン発表

8～10週目：研究計画の具体化（実験・調査などの準備）

11～15週目：研究の実施（データ収集と分析）

後期

1～12週目：結果の分析と考察および卒業論文の執筆

13週～15週目：ポスター発表の準備と発表

*前・後期ともに定期的なゼミでの発表と討議、個別指導を組み合わせる

【履修上の注意事項】

4年間の心理学に関する学びの集大成となるゼミである。心理学的研究手法の実践を通して卒業論文の作成と発表を達成して欲しい。卒業論文への取り組みを通し、心理学的なものごとを捉え、深く考察し、何かを発見するという、研究する面白さや楽しみをぜひ感じて欲しい。特にグループ研究を推奨する。また、心理学専門演習Ⅰ(3年ゼミ)のゼミとの合同の勉強会や、合同ゼミも計画している。学年を超えての学習活動に主体的に参加することで、相互に刺激し、学び合える関係を体験して欲しい。

【評価方法】

ゼミへの参加度、デザイン発表や卒論発表、卒論の内容などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。

【参考文献】

- ①都筑学(2008)．心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣
- ②小塩真司・西口利文(2008)．心理学基礎演習Vol.2 質問紙調査の手順 ナカニシヤ出版
- ③その他の参考図書は、講義の中で適宜紹介する

心理学専門演習ⅡA

担当教員 平山 篤史

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまでに心理学を学んできた集大成として、興味・関心のあるテーマを設定し、研究目的を設定し、新しい知見・発見を得るために研究計画を立て、論文としてまとめ、発表する。心理学の視点から、人間のこころや行動について、科学的に、多面的に、深く、考察する力を養う。人のこころに関する現象を明らかにすることの奥の深さ、面白さを体験してほしい。取り上げるテーマは、以下のテーマを設定している。1、大学生の対人交流 2、大学生の適応・不適応（切り口として、対人不安、シャイネス、自己注目、自己呈示、自己開示、自己意識を中心に） 3、グループアプローチ・グループ活動に関する研究 4、動作法に関する研究

【授業の展開計画】

4月～6月中旬	先行研究・文献の精読と研究デザインの検討
6月末	研究デザイン発表会（問題と目的・方法の検討）
7月～11月上旬	予備調査とデータ収集
11月中旬	中間発表会（途中経過の報告、データ整理と統計的分析の検討）
11月下旬～12月上旬	まとめの作業
12月中旬	卒業論文提出
1月	発表準備（ポスター資料制作、発表練習）
2月中旬	卒業論文発表会

【履修上の注意事項】

積極的・主体的に研究に取り組む姿勢を求める。
心理学研究の基礎を大切にしつつ、オリジナリティーのある研究を行うことを期待する。
研究は一人で行うのは難しい。ゼミ受講生の相互の協力が必要とされる。互いに助け合い、切磋琢磨し研究を進めることを期待する。

【評価方法】

ゼミへの参加態度、研究態度、発表、論文の内容により評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習vol. 2「質問紙調査の手順」ナカニシヤ出版
松井豊 心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために― 河出書房新社

【参考文献】

適宜紹介する。

心理学専門演習ⅡA

担当教員 上田 幸彦

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文作成を通して、一連の心理学的研究法を修得することが狙いである。これまでに学習してきたことをもとに、各自が関心のある、かつ臨床心理学的にも意義のあるテーマを見だし、そのテーマに沿って文献検索、文献の読み込み、研究計画策定、データ収集、データ分析を行い、データに基づいた結論を導き出せるようにしていく。またテーマ設定、研究計画、データ収集後の中間発表を通して、他者に分かりやすい論理的な文章の書き方を身につけることも狙いとする。

【授業の展開計画】

前期においては3年次での準備に基づき、すぐに研究計画の発表、あるいは予備実験を開始する。その後、データ収集法、データ整理、統計的検定法について個別に具体的な指導を受けながら、夏休み前に、あるいは遅くとも夏休み中には本実験の開始、すなわちデータ収集に入れるようにする。

後期においては、すぐに夏休み中に収集したデータの統計的分析を終わらせ、結果について中間発表を行う。それに基づき、心理学研究論文としての結果の記述の仕方、考察の展開の仕方について個別に指導する。これらの指導を受けながら卒業論文を完成させる。最終的にはポスター発表の形式で成果を報告する。

【履修上の注意事項】

心理学の卒業論文作成は、そのデータ収集に醍醐味がある。最良の状態でこれに取り組めるように計画、準備し実行すること。最終目標は、心理学研究論文としての卒業論文を完成させることである。そのために研究計画、中間報告、最終報告を行うが、それぞれの報告を十分に行うためには、早くから準備すること、時間をかけること、そして主体的に研究を進めていく姿勢が必要とされる。こちらからの指示待ちではなく、積極的に個別指導を活用して欲しい。

【評価方法】

論文作成過程での取り組み方、積極性と提出された論文の内容から総合的に判断する。

【テキスト】

【参考文献】

APA論文作成マニュアル 江藤裕之他訳 医学書院

心理学専門演習ⅡA

担当教員 泊 真児

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまでに学習してきたことの集大成として、卒業研究を通して心理学的なものの見方や考え方、表現の仕方を身につけることを狙いとします。自らの興味や関心、問題意識を、心理学の専門分野の中に位置づけ、主として社会心理学的なアプローチにより研究を進めてもらいます。テーマ設定、先行研究のレビュー、研究デザインの策定、データの収集と分析、考察、そして論文執筆と発表まで、一連の心理学的研究方法を実践的に学んでいきます。この営みを通して、論理的な思考力・表現力を身につけ、生活や仕事にも役立つスキルを高めることを目指します。

【授業の展開計画】

※各自が定期的に、ゼミでの発表と討議を行うことを通して、卒業研究を進めていきます。必要があれば適宜、個別指導を入れながら研究を進めていく予定です。

- 1 週目：オリエンテーション
- 2～6 週目：卒業論文の研究デザイン確定に向けた個人発表(1)～(5)
- 7 週目：卒業論文のデザイン発表会(1)
- 8 週目：卒業論文のデザイン発表会(2)
- 9 週目：卒業論文のデザイン発表会(3)
- 10～12週目：研究計画の具体化（実験・調査等の準備）
- 13～15週目：研究の実施（データ収集・分析・まとめ）

【履修上の注意事項】

- ・卒業論文作成のためのゼミですから、出席状況を重視します。
- ・教員やゼミの仲間に相談したり、協力したりしながら、卒業研究を進めましょう。自分勝手な判断で動くことのないようにしてください。

【評価方法】

毎回のゼミへの出席状況、参加態度、発表や討議、卒業論文作成過程における取り組み方（積極性等）、提出された卒業論文のできばえ等を総合的に判断し、評価します。

【テキスト】

テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。

【参考文献】

さしあたり以下の2冊を紹介します。他の文献はゼミの中で適宜紹介します。

- (1) 松井豊 (2010) 改訂新版－心理学論文の書き方 河出書房新社
- (2) 都筑学 (2006) 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ

心理学専門演習ⅡA

担当教員 井村 弘子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまで履修した講義、演習等を通して興味を持った問題について関連する文献を読み、卒業論文のテーマを設定する。卒業論文の目的を明確にし、研究デザインの発表を行った後、データの収集を行う。受講学生が主体性を持って自分の研究課題に取り組むことを主なねらいとしている。

【授業の展開計画】

研究テーマを絞り、そのテーマに関連する論文を読み、論点を整理する。次に、各自の問題意識に基づき、各自のテーマと先行研究で得られた知見を基に研究の目的を明確にする。そして、研究目的を達成するための方法論を検討し、具体的な研究計画を作成する。6月上旬をめぐり、研究計画（デザイン）発表・検討する予定である。その後、研究を開始して、データ収集の準備をはじめめる。

【履修上の注意事項】

必要に応じて個別指導と一斉指導を併用しながら演習を展開する。また、卒業論文を作成することを目的としているので、デザイン、中間、最終と各段階での発表を行うことを前提としている。論文を作成するためには、毎日の地道な積み重ねが必要となるので、各自が卒業論文作成のための綿密な計画、時間管理、就職活動や大学院進学準備との両立など、十分な体制を作っておくことを望んでいる。

【評価方法】

提出された論文の内容と論文作成までのプロセスを総合的に評価する。

【テキスト】

個別に助言・提示する。

【参考文献】

松井豊（著）「心理学論文の書き方」河出書房新社
白井・高橋（著）「よくわかる卒論の書き方」ミネルヴァ書房

心理学専門演習ⅡB

担当教員 山入端 津由

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

心理学専門演習ⅡB

担当教員 前堂 志乃

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講の目的は、4年間の専門領域の学習の集大成として、自らの問題意識を心理学の専門分野に位置づけた卒業研究を行い卒業論文をまとめることである。前期の心理学専門演習ⅡAでの卒論研究活動を踏まえて、卒論研究デザインにもとづき適正な研究手続きのもと実験・調査等を行い、データを収集・分析し、卒業論文にまとめて提出する。卒業研究の成果報告として、卒論発表へ向けての準備を進め、発表会における成果報告を行う。前・後期のゼミにおける卒論研究を通して、心理学的にものごとを捉え、深く考察し、得られた結論を発信するという、心理学的思考力と研究力を身につけることを目標とする。

【授業の展開計画】

前期

1週目：オリエンテーション

2週目：卒業論文の研究デザインと研究計画について

3週目：卒業論文の研究デザインと研究計画の策定

4～7週目：デザイン発表

8～10週目：研究計画の具体化（実験・調査などの準備）

11～15週目：研究の実施（データ収集と分析）

後期

1～12週目：結果の分析と考察および卒業論文の執筆

13週～15週目：ポスター発表の準備と発表

*前・後期ともに定期的なゼミでの発表と討議、個別指導を組み合わせる

【履修上の注意事項】

4年間の心理学に関する学びの集大成となるゼミである。心理学的研究手法の実践を通して卒業論文の作成と発表を達成して欲しい。卒業論文への取り組みを通し、心理学的にものごとを捉え、深く考察し、何かを発見するという、研究する面白さや楽しみをぜひ感じて欲しい。また、心理学専門演習ⅠA・B(3年ゼミ)のゼミとの合同の勉強会や、合同ゼミも計画している。学年を超えての学習活動に主体的に参加することで、相互に刺激し、学び合える関係を体験して欲しい。

【評価方法】

ゼミへの参加度、デザイン発表や卒論発表、卒論の内容などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。

【参考文献】

- ①都筑学(2008)．心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣
- ②小塩真司・西口利文(2008)．心理学基礎演習Vol.2 質問紙調査の手順 ナカニシヤ出版
- ③その他の参考図書は、講義の中で適宜紹介する

心理学専門演習ⅡB

担当教員 井村 弘子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期で作成した卒業論文の研究デザインに沿って、データを収集し、得られたデータの分析と整理を行い、卒業論文を執筆する。その後、卒業論文発表会に向けて、ポスターや論文抄録を作成し、最終発表を行う。受講学生が主体性を持って、自分の研究課題に取り組むことを主なねらいとしている。

【授業の展開計画】

前期に作成した研究デザインに沿って収集したデータの分析・考察を行う。10月をめどに研究経過の中間発表を行い、12月上旬には、すべてのデータの分析と整理を終えて論文を作成させる。卒業論文を提出後、最終発表を行う。

【履修上の注意事項】

必要に応じて個別指導と一斉指導を併用しながら演習を展開する。また、卒業論文を作成することを目的としているので、デザイン、中間、最終と各段階での発表を行うことを前提としている。論文を作成するためには、毎日の地道な積み重ねが必要となるので、各自が卒業論文作成のための綿密な計画、時間管理、就職活動や大学院進学準備との両立など、十分な体制を作っておくことを望んでいる。

【評価方法】

提出された論文の内容と論文作成までのプロセスを総合的に評価する。

【テキスト】

個別に助言・提示する。

【参考文献】

松井豊（著）「心理学論文の書き方」河出書房新社
白井・高橋（著）「よくわかる卒論の書き方」ミネルヴァ書房

心理学専門演習ⅡB

担当教員 平山 篤史

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまでに心理学を学んできた集大成として、興味・関心のあるテーマを設定し、研究目的を設定し、新しい知見・発見を得るために研究計画を立て、論文としてまとめ、発表する。心理学の視点から、人間のこころや行動について、科学的に、多面的に、深く、考察する力を養う。人のこころに関する現象を明らかにすることの奥の深さ、面白さを体験してほしい。取り上げるテーマは、以下のテーマを設定している。1、大学生の対人交流 2、大学生の適応・不適応（切り口として、対人不安、シャイネス、自己注目、自己呈示、自己開示、自己意識を中心に） 3、グループアプローチ・グループ活動に関する研究 4、動作法に関する研究

【授業の展開計画】

4月～6月中旬	先行研究・文献の精読と研究デザインの検討
6月末	研究デザイン発表会（問題と目的・方法の検討）
7月～11月上旬	予備調査とデータ収集
11月中旬	中間発表会（途中経過の報告、データ整理と統計的分析の検討）
11月下旬～12月上旬	まとめの作業
12月中旬	卒業論文提出
1月	発表準備（ポスター資料制作、発表練習）
2月中旬	卒業論文発表会

【履修上の注意事項】

積極的・主体的に研究に取り組む姿勢を求める。
心理学研究の基礎を大切にしつつ、オリジナリティーのある研究を行うことを期待する。
研究は一人で行うのは難しい。ゼミ受講生の相互の協力が必要とされる。互いに助け合い、切磋琢磨し研究を進めることを期待する。

【評価方法】

ゼミへの参加態度、研究態度、発表、論文の内容により評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習vol. 2「質問紙調査の手順」ナカニシヤ出版
松井豊 心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために― 河出書房新社

【参考文献】

適宜紹介する。

心理学専門演習ⅡB

担当教員 泊 真児

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまでに学習してきたことの集大成として、卒業研究を通して心理学的なものの見方や考え方、表現の仕方を身につけることを狙いとします。自らの興味や関心、問題意識を、心理学の専門分野の中に位置づけ、主として社会心理学的なアプローチにより研究を進めてもらいます。テーマ設定、先行研究のレビュー、研究デザインの策定、データの収集と分析、考察、そして論文執筆と発表まで、一連の心理学的研究方法を実践的に学んでいきます。この営みを通して、論理的な思考力・表現力を身につけ、生活や仕事にも役立つスキルを高めることを目指します。

【授業の展開計画】

※後期は、各自の卒業研究の進捗状況に合わせて進めます。定期的にゼミでの報告を行うことを原則とし、必要に応じて適宜、個別指導を組み合わせながら進めていきます。

- 1～4週目：研究の実施（研究協力の依頼、データ収集）
- 5週目：データ入力・分析、図表等の作成
- 6週目：データ入力・分析、図表等の作成
- 7週目：卒業論文中間報告会(1)
- 8週目：卒業論文中間報告会(2)
- 9～13週目：データ分析と考察および卒業論文の執筆
- 14週目：ポスター発表の準備および抄録原稿の作成
- 15週目：卒業論文発表会に向けての予行演習
- 16週目：予備日

【履修上の注意事項】

- ・卒業論文作成のためのゼミですから、出席、参加状況を重視します。
- ・教員やゼミの仲間に相談したり、協力したりしながら、卒業研究を進めましょう。自分勝手な判断で動くことのないようにしてください。

【評価方法】

毎回のゼミへの出席状況、参加態度、発表や討議、卒業論文作成過程における取り組み方（積極性等）、提出された卒業論文のできばえ等を総合的に判断し、評価します。

【テキスト】

テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。

【参考文献】

さしあたり以下の2冊を紹介します。他の文献はゼミの中で適宜紹介します。

- (1) 松井豊 (2010) 改訂新版—心理学論文の書き方 河出書房新社
- (2) 都筑学 (2006) 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ

心理学専門演習ⅡB

担当教員 上田 幸彦

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文作成を通して、一連の心理学的研究法を修得することが狙いである。これまで学習してきたことをもとに、各自が関心のある心理学的テーマを見だし、そのテーマに沿って文献検索、文献の読み込み、研究計画策定、データ収集、データ分析を行い、データに基づいた結論を導き出せるようにしていく。またテーマ設定、研究計画、データ収集後の中間発表を通して、他者にわかりやすい論理的な文章の書き方を身につけることも狙いとする。

【授業の展開計画】

夏休み中に収集したデータ分析を終わらせ、結果について中間発表を行う。それに基づき、心理学研究論文としての結果の記述の仕方、考察の展開の仕方について個別に指導する。

これらの指導を受けながら卒業論文を完成させる。最終的にはポスター発表の形式で成果を報告する。

【履修上の注意事項】

心理学の卒業論文作成は、そのデータ収集に醍醐味がある。最良の状態でこれに取り組めるように計画、準備して実行すること。最終目標は、心理学研究論文としての卒業論文を完成させることである。そのために研究計画、中間報告、最終報告を行うが、それぞれの報告を十分に行うためには早くから準備すること、時間をかけること、そして主体的に研究を進めていく姿勢が必要とされる。こちらからの指示待ちではなく、積極的に個別指導を活用してほしい。

【評価方法】

論文作成過程での取り組み、積極性と提出された論文の内容から総合的に判断する。

【テキスト】

【参考文献】

APA論文作成マニュアル、医学書院

心理学と職業

担当教員 平山 篤史

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義は心理学を学ぶことで、社会とどのように関わるかについて、心理の専門職を中心に学ぶことを目的としています。調べ学習で様々な心理の専門職について学習した後、実際に、それらの施設を見学し、実際に現場で活躍している心理の専門職の先輩方の講話を聴きます。これらの知識の習得と体験を通して、学生個々人の将来設計や進路を明確にし、今後の大学生活の目標設定や学習へのモチベーションを高めることを目的としています。

【授業の展開計画】

- 1回：オリエンテーション
- 2回：矯正施設の見学①（少年院）
- 3回：少年院の心理職の講話
- 4回：矯正施設の見学②（少年鑑別所）
- 5回：少年鑑別所の心理職の講話
- 6回：福祉施設の見学（児童自立支援施設）
- 7回：児童自立支援施設の心理職の講話
- 8回：精神科病院の見学①
- 9回：精神科病院の見学②
- 10回：精神科病院の心理職の講話
- 11回：教育施設の見学
- 12回：適応指導教室の心理職の講話
- 13回：病院で働く臨床心理士の講話①
- 14回：病院で働く臨床心理士の講話②
- 15回：教育機関で働く臨床心理士の講話③
- 16回：レポート提出

【履修上の注意事項】

受講態度についてはルールの厳守を徹底します。見学する各施設は、実際に支援を必要とする方々が、生活・利用をしています。受講学生は、それにふさわしい服装、態度で見学に臨んでもらいます。また、団体行動を行います。時間厳守をお願いします。また、施設見学では、個人情報に関する守秘義務も課せられます。詳細については、講義の中で説明します。

【評価方法】

受講態度、出席状況が評価に大きく影響します。さらに、振り返りの時間でのコメント、各プログラム終了後の感想・レポートを総合的に判断し、評価します。

【テキスト】

基礎演習Aで扱った、心理関連の職業調べ学習の内容を復習しておくこと

【参考文献】

心理学特講 A

担当教員 大淵 憲一

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

心理学特講 C

担当教員 新里 健

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

心理学特講D

担当教員 玉城 弘美

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近年、落ち着きがない、指示にのらない、癇癪を起しやすい等、「気になる子」が増えている。その中には発達障がいを抱えているにもかかわらず、周囲に理解されないまま叱責や避難を受け、不適応に陥ってしまうことがある。このような弊害を防ごうと乳幼児期の早期発見・早期対応が叫ばれているところである。この授業では、発達障がいの理解と対応について考えていきたい。特に乳幼児期の早期発見と支援、親支援のあり方について、これまで行ってきた支援をもとに進めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
2	発達障がいについて・自伝を通して学ぶ
3	発達障がい支援法と特別支援教育について
4	発達障がい―（注意欠陥多動性障がい、 学習障がい）
5	発達障がい―（自閉症スペクトラム）
6	ビデオ学習
7	発達―乳児期
8	発達―幼児期
9	発達―児童期・思春期の発達
10	発達の気になるこの早期発見・早期対応・・・健診業務の中から
11	発達障がい―（親教室・療育）
12	親支援について（1）
13	親支援について（2）
14	支援者研修
15	TEACCHについて
16	テスト（期末試験）

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席、レポート、期末試験（1回）を基に総合的に評価する予定である。

【テキスト】

特にテキストは使用しない。講義の單元ごとに資料を配布する予定である。

【参考文献】

講義中に適宜紹介する。

心理学理論と心理的支援

担当教員 一金武 育子

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する
2. 人の成長・発達と心理との関係について理解する
3. 日常的支援の方法と実際について理解する
4. 心理的支援の方法と実際について理解する

この授業では、以上を目的に、心理学の理論と心理的支援について考えて生きます。積極的な参加と「感じる心」、個々人の意見の表明に基づく相互理解を通して、ともに作り上げて生きたいと思っています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などについて説明する
2	人の心理学的理解：認知・思考
3	人の心理学的理解：感情・情緒
4	人の心理学的理解：自己理解・他者理解
5	人の成長・発達と心理：人間発達について
6	人の成長・発達と心理：主要な発達理論について①
7	人の成長・発達と心理：主要な発達理論について②
8	日常生活と心の健康：心の健康とは？
9	日常生活と心の健康：ストレス社会の実際
10	日常生活と心の健康：ストレスマネジメント
11	心理的支援の方法と実際：援助するということ
12	心理的支援の方法と実際：カウンセリング・マインド
13	心理的支援の方法と実際：交流のワーク
14	心理的支援の方法と実際：傾聴のワーク
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・自主的に考え、行動し、人間理解（発達心理学）・心理的支援（臨床心理学）の視点を身につけてください。
- ・講義中の私語、携帯電話の使用は禁止
- ・講義開始20分以上を経過しての入室、及び講義中の退席を基本的に禁止
- ・必要な質問は適宜受け付けますので、意思表示してください。

【評価方法】

毎回、所定のワークシートを課す。
レポート（期末考査）を1タイトル以上課し、総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定せず、適宜資料配布とするが、参考文献（図書）を購入することが望ましい。

【参考文献】

前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版
石田 潤 他共著 「ダイアグラム心理学」 北王子書房 その他、講義中に適宜紹介する。

心理検査法 I

担当教員 井村 弘子

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

心理臨床学的アセスメントを行う際の手法のひとつである心理検査について概説を行い、代表的な心理検査について理解を深める。また、心理検査の実習を通して、心理学的人間理解の意義や方法、専門的手法を用いて人を理解しようとするときの心構えや倫理的問題についても体験的に学ぶ。前期はパーソナリティの特徴を把握するための心理検査を実際に試行し、結果を分析した上で、検査所見をまとめる実習を行う。

【授業の展開計画】

1. パーソナリティ理解のための心理検査
2. パーソナリティの構造とテスト・バッテリー
3. 心理検査と倫理問題
4. 心理検査①-1 (質問紙法・実施法と実習)
5. 心理検査①-2 (質問紙法・理論的背景)
6. 心理検査①-3 (質問紙法・所見のまとめ方)
7. 心理検査②-1 (作業検査法・実施法と実習)
8. 心理検査②-2 (作業検査法・理論的背景)
9. 心理検査②-3 (作業検査法・所見のまとめ方)
10. 心理検査③-1 (投映法その1・実施法と実習)
11. 心理検査③-2 (投映法その1・理論的背景)
12. 心理検査③-3 (投映法その1・所見のまとめ方)
13. 心理検査④-1 (投映法その2・実施法と実習)
14. 心理検査④-2 (投映法その2・理論的背景)
15. 心理検査④-3 (投映法その2・所見のまとめ方)
16. 最終レポート作成・提出

【履修上の注意事項】

使用する検査器具や図版、用紙などの数に限りがあるため、受講者数を限定する。受講者は実習する心理検査についての講義を受け、検査の実施方法・手順等を十分に身につけた上で実習を行う必要がある。また、検査結果は実習した検査ごとにレポート提出してもらう。心理検査を実施する過程での倫理上の問題等から、心理検査についての知識が重要であるため、欠席・遅刻の多い学生は受講できなくなることもある。十分に留意して受講してほしい。

【評価方法】

出席状況、提出されたレポート等により総合的に評価する。評価方法については、講義初日に詳細に説明する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献】

上里一郎監修 「心理アセスメントハンドブック」第2版 西村出版
 氏原寛 他編 「心理査定実践ハンドブック」 創元社

心理検査法Ⅱ

担当教員 平山 篤史

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

心理臨床学的アセスメントを行う際の手法のひとつである心理検査について概説を行い、代表的な心理検査を実習する。心理検査の実習を通して、心理学の人間理解の意義と方法や、専門的手法を用いて人を理解する上の心構えや倫理的問題を体験的に学ぶ。

特に心理検査法Ⅱでは知能検査を用いて、人間の認知的な特徴を理解する検査の実習を実際に施行し、結果を分析、検査所見をまとめる。実際に学齢期のお子さんに検査の協力をお願いし、実習を進めるため、検査に際しての心構え、倫理的な配慮について学ぶことがこの講義で一番重要となる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション / 心理アセスメントとは
2	心理アセスメントと心理検査
3	心理検査と倫理問題①
4	心理検査と倫理問題②
5	知能とは
6	田中ビネー式知能検査とウェクスラー式知能検査の特徴 ・ 実習前試験
7	検査器具の取り扱いと実施
8	ウェクスラー式知能検査の実施方法
9	田中ビネー式知能検査の実施方法
10	知能検査の実際と結果のフィードバック
11	ウェクスラー式知能検査の結果の整理
12	ウェクスラー式知能検査結果の解釈と所見のまとめ方①
13	ウェクスラー式知能検査結果の解釈と所見のまとめ方②
14	田中ビネー式知能検査の解釈と所見のまとめ方①
15	まとめ 人を理解すること
16	

【履修上の注意事項】

使用する検査器具などの数に限りがあるため、受講者数を限定する。受講者は講義、自習を通し、検査の実施方法・手順等を十分に身につけた上で検査実習を行う必要がある。また、検査結果をレポートにまとめ提出してもらう。心理検査を実施する上での倫理上の重要な注意点、心理検査についての知識が不可欠であるため、遅刻・欠席の多い者は受講を認めない。*初日のオリエンテーションに重要な説明をする。参加できない者は受講を認めることができない。何らかの事情で初日のオリエンテーションに参加できない者は、事前に相談に来ること。

【評価方法】

出席状況、検査所見レポート2つ、試験（1回）、実習前課題、振り返りのレポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

日本版WISC-Ⅲ知能検査 日本文化科学社 / WISC-Ⅲアセスメント事例集 藤田和弘他（編著）日本文化科学社
軽度発達障害児の心理アセスメント 上野一彦他（編）日本文化科学社 / 田中ビネー知能検査Ⅴ 田研出版

心理統計学基礎

担当教員 泊 真児

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義は、「心理統計学」「心理学研究法」という心理学研究にとって重要な柱となる専門科目の基礎づくりをする科目です。また、心理学基礎演習A・Bで取り組む基礎実験実習、心理学専門演習I AB、心理学専門演習II ABで取り組むゼミ研究、卒業研究(論文)につながる学習スキルの基礎を身につける科目でもあります。講義、演習、課題などを通して、心理学研究の中での心理統計学の位置づけや役割を理解し、今後の心理学専門科目の学習に必要な学習スキルと心理データを統計学的に解析する際の基礎知識を身につけることを目指します。

【授業の展開計画】

下記の授業内容を予定していますが、受講者の状況を考慮して、講義内容を変更する場合があります。

週	授 業 の 内 容
1	授業契約・オリエンテーション・統計学初歩：本講義の進め方・注意事項等の説明（※出席必須）
2	変数とデータ～心理学における測定と尺度水準～
3	心理測定の信頼性・妥当性とΣ記号の意味
4	Σ記号を用いた計算&度数分布
5	度数分布とヒストグラム
6	量的データの数値要約：代表値とは何か？
7	量的データの数値要約：散布度とは何か？
8	量的データの数値要約：正規分布・偏差値とは何か？
9	量的データの数値要約：標準正規分布と標準得点
10	2変数間の関係の分析1：相関（散布）図の作成
11	2変数間の関係の分析2：相関係数による数値要約
12	2変数間の関係の分析3：質的変数のクロス集計表の作成
13	2変数間の関係の分析4：連関係数による数値要約
14	統計的検定の基礎：推測統計・標本抽出・統計的検定の原理
15	全講義内容のまとめ・振り返り・試験案内
16	学期末試験（予定） ※期末レポート課題に変更する可能性もあります。

【履修上の注意事項】

- ・本講義は、原則的に履修登録を心理カウンセリング専攻学生に限定します。学生にとって難易度が高く、理解度の個人差が大きいため、演習課題に個別に対応する必要があるからです。
- ・初回講義欠席者は、原則的に履修仮登録を削除しますのでご注意ください。
- ・本講義では、まず自力で考え、課題に取り組んでみるという姿勢が大切です。単位取得のためには、数字アレルギーを乗り越え、講義、課題、予習と復習にしっかり取り組むことが必要です。

【評価方法】

- ・成績評価は、出席状況15%、参加態度30～45%、学期末課題40～55%の内訳で、これらを総合評価して行います。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。
- ・授業への参加態度は主に、授業内での課題への取り組み、ホームワーク等により評価します。
- ・学期末課題については、試験を実施する場合、「参考書や資料等の持ち込みを全て可」として行う予定です。レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示します。

【テキスト】

教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に講義を進める予定です。

【参考文献】

講義の中で、適宜紹介していきます。

心理統計学 I

担当教員 大城 亘武

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

心理学はヒトの心や行動を研究対象とする。観察や実験、各種心理検査等で心理的特性を測定し、分析する。その際に有効な手段の一つが統計的方法である。本講義では統計リタラシーの養成を目標としています。すなわち、調査・測定データを統計的分析ソフト（PASW）を用いてコンピューターによる演算を行います。分析手法の使い分け、演算結果の読み取り、解釈の仕方についても取り扱います。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	統計処理パッケージPASWを使ってみる
2	測定のレベル:尺度について
3	基本統計量とは
4	分散と標準偏差 (1)
5	分散と標準偏差 (2)
6	分散と標準偏差 (3)
7	正規分布とデータの標準化
8	中間的まとめ
9	データの散布と相関係数
10	直線回帰分析
11	仮説検定 (1)
12	仮説検定 (2)
13	2つの平均値の差の検定 (1)
14	2つの平均値の差の検定 (2)
15	2つの平均値の差の検定 (3)
16	期末考査

【履修上の注意事項】

WORDやExcelを操作できることが望ましい。
できるだけ、遅刻、欠席、中座等をしないこと。

【評価方法】

期末考査（振りかえりテスト（中間的まとめ）を含む）50%、授業中の課題や宿題等の実績40%、講義への興味・関心・態度の状況10%として評価します。テストは知識・理解に関する内容をパート1、PASWを用いたデータ処理（演算）を中心としたパート2に分けます。それぞれ50点とします。なお、パート2についてはテキスト、ノートの持ちこみ可能です。また受講生のどなたかと相談してもよいものとします。

【テキスト】

山内光哉 2012 『心理・教育のための統計法<第3版> サイエンス社 ￥2550+税
(このテキストは心理統計学Ⅱでも使用します)

【参考文献】

小塩真司 2011 『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析（第2版）』 東京図書 ￥2800+税
小塩真司のホームページ http://www.f.waseda.jp/oshio.at/edu/data_b/top.html

心理統計学Ⅱ

担当教員 大城 亘武

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」では、現在の児童の置かれている社会環境はもちろんのこと、児童福祉の理念、発展、制度・サービス、児童が抱える諸問題、児童家庭福祉分野の専門職及び援助活動の実践等について学ぶ。その中で、父母の第一義的養育責任とともに、社会の子育て家庭へのさまざまな支援が児童家庭福祉の重要な課題となっていることを理解する。

【授業の展開計画】

- ①オリエンテーション
- ②現代社会と子ども家庭 その1
- ③現代社会と子ども家庭 その2
- ④子どもと家庭福祉とは何か その1
- ⑤子どもと家庭福祉とは何か その2
- ⑥子どもと家庭福祉とは何か その3
- ⑦子ども家庭福祉にかかわる法制度 その1
- ⑧子ども家庭福祉にかかわる法制度 その2
- ⑨子ども家庭福祉にかかわる法制度 その3
- ⑩子ども家庭にかかわる福祉・保健 その1
- ⑪子ども家庭にかかわる福祉・保健 その2
- ⑫子ども家庭にかかわる福祉・保健 その3
- ⑬子ども家庭にかかわる福祉・保健 その4
- ⑭子ども家庭への援助活動
- ⑮振り返り
- ⑯テスト

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。また、子どもを取り巻く環境(学校・教育・福祉・地域)に関心を持ち、可能ならば新聞等のマスコミで取り上げられる記事をスクラップすることを望む。さらに、児童家庭福祉に関する法改正等には注目・関心をもつこと。
なお、本科目は社会福祉士国家試験の必修科目となっているため、注意すること。

【評価方法】

授業態度、出欠状況、レポート及びテストを総合して評価する。なお、開講時間数の3分の1以上欠席(公欠除く)をすると試験が受けられないので、注意すること。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会 編集(最新年)：『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度(最新版)』、中央法規。

【参考文献】

ミネルヴァ書房編集部(最新年)：『社会福祉小六法 最新年版』、ミネルヴァ書房。

人格心理学

担当教員 榎木 宏之

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

人体の構造と機能及び疾病

担当教員 安次富 (2) -石川 清司 (14)

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会福祉士国家資格を目指す、特に医療現場において相談業務等を希望する者が、「人体の構造と機能および疾病」について学習することによって、医療全般の基本的知識を習得することを目的とします。医学用語に慣れ、人体や病気に関する知識を得ることは、社会福祉士が多職種とのチームで行動する際に、肉体的課題（病気・障がい）、精神的課題（こころ）、社会的課題（くらし）の全体を視野に入れて個々の問題の解決・調整・支援するために必要な基本的姿勢を培うこととなります。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス・はじめに
2	身体の成長・発達と老化（医学概論）
3	身体構造と心身の機能
4	「生活習慣病」
5	「悪性新生物」
6	「脳血管疾患・心疾患・高血圧」
7	「糖尿病・内分泌・呼吸器・消化器疾患」
8	「血液・腎・泌尿器疾患・膠原病」
9	「骨・関節・目・耳の病気・感染症・神経疾患と難病」
10	「先天性疾患・高齢者の病気」
11	「終末期医療」（終末期医療をめぐって・死をみつめる）
12	「視覚・聴覚・平衡機能・内部障害と肢体不自由」
13	「知的・発達・高次機能・精神障害と認知症」
14	リハビリテーションの概要
15	健康のとらえ方（がん・神経難病の患者さんから学んだこと） まとめ
16	期末試験実施（予定）

【履修上の注意事項】

- ・教科書を中心とした講義となりますので、何回も読み返して下さい。
- ・医学用語に慣れることが基本です。

【評価方法】

レポート作成 他

【テキスト】

新・社会福祉士養成講座「人体の構造と機能および疾病」中央法規 *朝野書房で購入できます。

【参考文献】

随時紹介します。

スクールソーシャルワーク論

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目では、今日の学校現場になぜスクールソーシャルワーカーが必要なのか、またその歴史・動向について理解を深める。そして、学校教育の特徴や教育(学校)が連携する機関とその機能について学ぶとともにスクールソーシャルワーク(以下、SSW)の基礎理論等に関し理解する。さらに、SSWの展開過程や実践について考える。それらを通して、SSWの課題と展望について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の目的、沖縄県のSSWr配置事業の現状等
2	学校における現代的課題 その1
3	学校における現代的課題 その2
4	SSWとは？ その1
5	SSWとは？ その2
6	SSWとは？ その3
7	SSWの歴史と動向
8	学校教育の特徴
9	教育(学校)が連携する機関とその機能
10	SSWの基礎理論
11	SSWの展開過程 その1
12	SSWの展開過程 その2
13	SSW実践 その1
14	SSW実践 その2
15	SSWの課題と展望
16	テスト

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。また、SSWに限らず、子どもを取り巻く環境(学校・地域)に関心をもち、可能ならば新聞等マスコミで取りあげられる記事をスクラップすること。

【評価方法】

授業態度、出欠状況、レポート及び学期末試験を総合して評価を行う。

【テキスト】

山野・野田・半羽編著(2012)：『よくわかる スクールソーシャルワーク』、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

山下ほか編著(2012)：『新スクールソーシャルワーク論』学苑社。門田・奥村監修(2014)：『スクールソーシャルワーカー実践事例集』中央法規。米川編著(2015)：『スクールソーシャルワーク実習・演習テキスト』北大路書房。

ストレス・マネジメント

担当教員 上田 幸彦(4) 神谷勝也 (3) 滝友秀 (2) 石田知士 (2) 赤嶺遼太郎 (2) 内藤直子 (2) 宮良尚子 (1)

対象学年 2年

開講時期 後期

単位区分 選択

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

心身の健康の維持・増進・回復への支援を考えると、ストレスについての諸理論と実践的支援法を学ぶことは重要である。この講義では、ストレスについての基本的理論を学習し、実際に臨床現場で用いられているストレス支援の心理学的な支援技法について学ぶ。心理学的な支援技法については、実技も取り入れ、受講学生が、日常生活でのストレスへ適切に対応し、自らの心身の健康の維持増進に資することもねらう。本講義は、専任教員と臨床現場で活躍する臨床心理士がオムニバスで担当し、地域での心理学専門家の役割についてもふれる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション/ストレスとは何か
2	ストレスと身体・ストレス関連疾患
3	心理学的ストレスモデルの概要とその構成要因
4	ストレス援助要因①パーソナリティとその研究
5	ストレス援助要因②対人関係とその研究
6	ストレスの測定と評価
7	対処法/リラクゼーション総論
8	理論：自律訓練法
9	実技：自律訓練法
10	理論と実技：呼吸法
11	理論と実技：マインドフルネス瞑想
12	理論：動作法
13	実技：動作法
14	理論と実技：認知行動療法①
15	理論と実技：認知行動療法②
16	試験

【履修上の注意事項】

実技も行うので、真剣に、積極的に取り組んでほしい。

【評価方法】

出席状況・受講態度・授業中に行うミニレポート・試験結果を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献】

適宜紹介する。

精神疾患とその治療

担当教員 知名 孝 他

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

精神障害者の生活支援システム

担当教員 一兼浜 克弥

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

障害の概念をICFの視点から理解すると同時に、精神障害者の生活実態やニーズを把握し、精神障害者の地域での自立と社会参加を促進するための生活支援システムを精神障害当事者と同じ視点に立ちながら、共に生き方を模索するという『精神保健福祉士』としての具体的な活動のポイントをマスターする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	この講義の目的について
2	精神障害者の概念①
3	精神障害者の概念②
4	精神障害者の生活の実際①
5	精神障害者の生活の実際②
6	精神障害者の生活と人権
7	精神障害者の地域生活支援システム①
8	精神障害者の地域生活支援システム②
9	精神障害当事者との語らい
10	精神障害者の居住支援①
11	精神障害者の居住支援②
12	精神障害の雇用・就業支援①
13	精神障害者の雇用・就業支援②
14	行政における相談援助
15	精神障害者支援関係者との語らい
16	まとめ 試験（レポート提出）

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席、課題、講義中の参加態度、試験（レポート）によって評価する

【テキスト】

【参考文献】

- ①統合失調症を持つ人への援助論～人とのつながりを取り戻すために 向谷地 生良 金剛出版
 ②精神障害者の生活支援システム 日本精神保健福祉養成校協会 編集

精神保健の課題と支援

担当教員 渡邊 浩樹

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

精神保健福祉相談援助の基盤（専門）

担当教員 -高橋 忍(8回)、真栄平 努(8回)

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

精神保健福祉に関する制度とサービス

担当教員 -熊谷 晋 (15)、比嘉 (10)、真栄城 (6)

対象学年 2年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

精神保健福祉の理論と相談援助の展開

担当教員 知名 (20)、山城 (16)、安村 (8)、諸留 (8)、その他6名 (10)

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 8

【授業のねらい】

精神保健福祉の領域は、かつてのような精神科病院における長期入院者の問題だけではなく、うつ病をはじめとするメンタルヘルスの問題や児童思春期の発達の問題あるいは不登校・引きこもりなど多岐にわたるものとなっている。この講義では、従来の精神保健福祉領域の内容をふまえつつ、今後の社会のニーズに応えるために何をすべきかを考えながらすすめていきたいと考えている。

【授業の展開計画】

この講義は火曜日6限と木曜日5限の週2回通年の講義を、4名の主たる講師と他複数の社会人特別講師によって担当する。ことなる「精神保健福祉領域」における実践家の講義とともにさまざまな現状を俎上にのせることを目的とする。

火曜日講義第1回～16回（前期）は山城涼子担当精神保健福祉の歴史・現状から精神科リハビリテーションの実際を、病院における精神保健福祉実践という視点から講義を行う。

木曜日講義第1回～16回（前期）は知名孝により、精神科リハビリテーションの展開と具体的な支援技法（面接技術含む）を事例を含めて講義（演習交え）行う。

火曜日講義17回～24回（後期前半）は、安村勤によるケアマネジメント手法含む地域相談支援の実際と手法についての講義を行う。

火曜日講義25回～31回（後期後半）は諸留将人により、地域における精神保健福祉実践のニーズ、その実践方法について講義を行う。

木曜日講義第1回の導入のあと、複数の講師により病院支援職（相談室・デイケアPSW、看護師、OT）による講義、事業所を立ち上げたPSWから「地域のサービスの開発と展開」、ひきこもり支援センターによる引きこもり当事者支援・保護者支援、触法者への支援を行う地域生活定着支援センター相談員による触法者特に累犯者の現状と課題についてそれぞれ講義ないしワークショップを行っていく。

”

【履修上の注意事項】

“精神保健福祉士養成課程の科目ではあるが、それ以外の学生の受講を歓迎する。この講義受講の前提条件ではないが、この講義と同時履修ないし受講前に『精神疾患とその治療』（精神医学基礎）を受講しているとその講義の内容理解に幅が出てくると思われる。”

【評価方法】

“講義への出席ならび受講態度、課題の提出、それぞれの講師から課された課題の提出・評価により評価を決定する。複数の講師で担当するため、それぞれの講師からの評価を合わせて評価することになる。”

【テキスト】

テキストおよび参考文献は講義前半で指定する。

【参考文献】

テキストおよび参考文献は講義前半で指定する。

生命哲学

担当教員 大城 信哉

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態

単位数 2

【授業のねらい】

本講座は福祉もしくはその関連領域を志す人を主たる対象として、生命ということについてやや立ち入って考えてみることで、人間について理解を深めることを目的とする。

主として前半では「生命」という事態について哲学的な角度から原理的な考察をし、後半では生命倫理学において問題となっていることについて考えてみるつもりである。本講座が受講者諸君にとって有意義なものとなることを祈っている。

【授業の展開計画】

予定は以下のとおりだが、第1回の合意作りのときに、受講者諸君がどのような問題を取り上げてほしいと思っているか聞いたら、ある程度聞く用意がある。希望があればぜひ教えてほしい。

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション 開講にあたって講義方式など受講者諸君との合意を作る。
2	生命という事態 (1) 生きているとはどういうことか。
3	生命という事態 (2) 自分であることと生命。
4	生物の世界 (1) 生物は何のために生きているのか。
5	生物の世界 (2) 生物はどのように生きてるのか。
6	生の哲学 我々にとって生存とはどのような事態か。
7	以下、生命倫理学の主題から：考えるものだけが人間か（パーソン論）。
8	脳死と臓器移植について (1) 脳死とは何か。
9	脳死と臓器移植について (2) 脳死は人の死か。
10	生命の質 「生きていても仕方がない」場合はあるか。
11	生活の質と生命の質 人間の生き方ということ。
12	死について考える (1) 死とはどういう事態か。
13	死について考える (2) 死と生とはどういう関係か。
14	あらためて生命とはどういうことかを考える。
15	まとめ：生命について何が理解されただろうか。
16	テスト：楽しめるように祈っている。

【履修上の注意事項】

受講者の人数にもよるが、こちらからも諸君に質問する。活発な議論となることを望む。

なお、下記の評価方法については厳正であるよう努めるが（試験やレポートで規定を守らない者は認めない）、講義の時間は諸君と楽しく共有したいとも願っている。そのためにもぜひ講義には積極的に参加してほしい。

【評価方法】

最終回到試験をするつもりだが、これも第1回で別の希望が出たら考慮する。

出席も取るがこれは単位取得の最低条件で、ただ教室にいたら良いわけではない。

【テキスト】

使用しない。資料は講義中に適宜配布する。

【参考文献】

必要に応じて教室で指示する

生理心理学 I

担当教員 遠藤 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

生理心理学には、心理的事象の生理的基礎の解明を目指す狭義の生理心理学と、心身の相互関係や心理的状态に対応する生理反応の測定解析を行う心理生理学が含まれている。本講義では、広義の生理心理学とその関連領域に関する基本的知識に最新の知見を交えながら解説することを試みる。生理心理学の研究方法のなかでも脳や神経系の活動を測定する方法は、最近の脳科学の目覚ましい発展を反映して、より重要性を増している。生理心理学 I では、こういった現状を鑑み、脳神経系の基礎を重点的に学習する。

【授業の展開計画】

- | | | |
|----|---------------|--------------|
| 1 | 生理心理学とは | |
| 2 | 脳の構造 | |
| 3 | 〃 | |
| 4 | ニューロンとシナプス | |
| 5 | 〃 | |
| 6 | 感覚・知覚と脳 | |
| 7 | 〃 | |
| 8 | 運動と脳 | |
| 9 | 〃 | |
| 10 | 本能と脳 | |
| 11 | 〃 | |
| 12 | 情動と脳 | |
| 13 | 〃 | |
| 14 | 自律神経系及び内分泌系と脳 | |
| 15 | 〃 | 16回目にテストを行う。 |

【履修上の注意事項】

I、IIの順で続けて履修することが望ましい。

【評価方法】

期末試験（1回）及びレポート（1本）の結果により評価する（試験8割、レポート2割）。試験は持ち込み不可。レポートの詳細は講義で説明する。なお、出席日数が2/3に満たない場合、単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

生理心理学Ⅱ

担当教員 遠藤 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

生理心理学には、心理的事象の生理的基礎の解明を目指す狭義の生理心理学と、心身の相互関係や心理的状态に対応する生理反応の測定解析を行う心理生理学が含まれている。本講義では、広義の生理心理学とその関連領域に関する基本的知識に最新の知見を交えながら解説することを試みる。生理心理学Ⅱでは、認知過程に関する神経心理学的研究及び、脳波に基づく心身の相互関係等について概説する。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション及び脳神経系に関する基本事項の復習
- 2 薬物と脳（オピオイド、覚醒剤、アルコール等の作用と依存）
- 3 〃
- 4 〃
- 5 言語とラテラルティ （ラテラルティのテスト法）
- 6 〃 （言語野と失語症）
- 7 〃 （言語機能と性差）
- 8 〃 （右半球症状から見た半球機能差）
- 9 脳波の基礎 （測定法・分析法）
- 10 〃 （基本の脳波と異常脳波）
- 11 〃 （睡眠時の脳波及び脳波の利用）
- 12 事象関連電位、特にP3の特徴と利用
- 13 筋電図 （測定法）
- 14 〃 （バイオフィードバック）
- 15 〃 （表情の分析） 16回目にテストを行う。

【履修上の注意事項】

生理心理学Ⅰを先に履修しておくことが望ましい。

【評価方法】

期末試験（1回）及びレポート（1本）の結果により評価する（試験8割、レポート2割）。試験は持ち込み不可。レポートの詳細は講義時に説明する。なお、出席日数が2/3に満たない場合、単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

専門演習 I

担当教員 保良 昌徳

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習 I

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

広くは「児童家庭福祉」をテーマとするが、全体を通してグループディスカッションや論文講読を行い、プレゼン能力やレポート・論文作成能力を培う。フィールドワークとしては、児童福祉施設等の福祉現場や教育現場に足を運び、自ら見聞し、学びを深める。

また、授業のねらいとして、ソーシャルワーカーとしての知識・技術・倫理観の確立も掲げる。

【授業の展開計画】

子どもの抱える問題の背景には、保護者を含む家庭の問題がある。つまり、子どもを支援する際には家庭で起こる問題を避けて通ることができない。そのため、子どもを取りまく環境(家庭・地域等)を理解しなければならない。

ゼミでは特に「スクールソーシャルワーク」と「ソーシャルワークスキル」に焦点をあてて展開する。そのポイントを下記に示す。

「スクールソーシャルワーク」

- ・その現状及び課題
- ・諸外国の現状(英書購読含む)
- ・学校等関係機関訪問 等

「ソーシャルワークスキル」

- ・社会福祉専門職(社会福祉士)として現場で求められるスキル(対個人・グループ)の修得
- ・各機関・施設の社会福祉士らとの交流 等

なお、現場理解のためにボランティア活動及びゼミ単位での施設・機関への訪問も計画する。ゼミ生からの積極的な提案を望む。

【履修上の注意事項】

本科目の主旨を理解し、積極的に授業に参加すること。

【評価方法】

本科目の主旨を鑑み、授業態度(積極的な参加等)、出欠状況、レポート等を総合して判断する。

【テキスト】

必要に応じ開講時に提示する。

【参考文献】

必要に応じ開講時に提示する。

専門演習 I

担当教員 知名 孝

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習では、1) 発達障害児への支援、2) インタビュー調査の実際について学びます。専門演習 I では、月2回のソーシャルスキル・トレーニングやリトミックへの参加を通じて、発達障害児への支援について学びます。後期の取り組みとして保護者インタビューなど、ライフストーリーインタビューの導入を行います。3年次での専門演習 II では、当事者・家族へのインタビュースキルをテーマにゼミをすすめます。ライフストーリーインタビューやエスノメソドロジーなど、卒論に向けてのインタビュースキル、そしてグランデッドセオリーなどの質的データ分析についてもふれていきます。

【授業の展開計画】

1. 発達障害児への支援について：

(1) 基礎知識の習得：発達障害の医学的知識（診断基準、二次障害、周辺症状や問題）についての学習、発達についての概念、社会環境・子どもの生活の子どもの発達・発育への影響などについて学んでいく。

(2) 地域の児童デイサービスと親の会と実施するソーシャルスキルトレーニング、リトミックなどのグループワークを通じて、「実践」を学んでいく。

2. 発達障害児をもつ親の語りからの学び：

(1) 基礎知識と実践を積み上げた上で、発達に偏りを持つ子どもの現状、そういう子どもを持つという経験について親のインタビューを行い、語りのなかから学びを深める。

(2) インタビューを通して、インタビューの方法、得られたデータの解釈の方法、まとめ方を学ぶ。

【履修上の注意事項】

ゼミ以外の時間に行われる実践を題材に学んでいくゼミです。

【評価方法】

出席、ゼミ活動（ゼミ中のディスカッション、活動、ボランティア実習など）、課題提出などにもとづき評価していく。

【テキスト】

ゼミのなかで指定していく

【参考文献】

ゼミのなかで指定していく

専門演習 I

担当教員 桃原 一彦

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

当演習セミナーは「遊び」と「余暇」をキーワードとして都市コミュニティの諸相をテーマ化し、調査研究を実践する。現代社会は「遊び」や「余暇」の様相を大きく変動させてきた。ショッピングモールなど「時間消費型行動」の都市空間が増殖し、人々の「遊び」や「余暇」はそこに回収されつつある。それは、公共圏の機能を衰退させ、界索性やコミュニティ意識にも影響を与えている。そこで「遊び」「余暇」の行動様式を通じたコミュニティや公共圏の問題をテーマとし、社会調査の技法に関する実習を取り入れ、上記諸問題の洞察力をより深めていくための共同研究・相互学習の場にしていく。

【授業の展開計画】

当演習セミナーは2年次と3年次を通して一貫したテーマを追求するものである。そのテーマとは「遊び」と「余暇」の変化から沖縄における都市コミュニティと公共圏のありようを把握するものである。2年次(専門演習I)では、前期に社会学(とりわけ都市社会学)の基本的な概念や分析視覚の学習を行なう。夏期休暇期間中は、先行的な研究の文献・資料等の収集と、社会調査の予備訓練を行う。後期は、沖縄の都市社会およびその文化、政治に関する文献を通読し、先行研究等を介して調査テーマの具体的な絞り込みを行う。この作業で導き出された下位テーマをもとに、春季休暇期間中に追加の資料収集等を行なう。3年次(専門演習II)セミナーでは、調査方法、調査項目立てや質問紙づくり、および調査実習に関する企画設計を行い、夏期休暇期間中の社会調査実習に備える。社会調査の実施は8月下旬か9月上旬を予定している。後期は調査実習で得られたデータを整理し、報告書の執筆と作成を行なう。なお、調査予定地は沖縄島の中南部都市圏の中から取り上げていく。

【履修上の注意事項】

1～2年次で「社会調査の基礎」「社会調査の企画と設計」および「社会学概論Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。また、自分自身の関心や研究テーマに応じて「都市社会学Ⅰ・Ⅱ」ならびに「家族社会学Ⅰ・Ⅱ」を履修すること。

【評価方法】

専門演習Ⅰは、3年次「専門演習Ⅱ」の調査実習に向けての準備期間、予備的調査(資料収集、共同学習、成果発表)を主たる内容とするため、その共同学習の場における課題の成果内容や発表の工夫などを評価の基準とする。もちろん、受講中の態度、共同学習に対する取り組み姿勢も評価の必須項目とする。

【テキスト】

とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

【参考文献】

とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

専門演習 I

担当教員 岩田 直子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習 I

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

国際福祉の現状や動向をグループ発表形式を行いながらゼミ全体で理解を深めて行く。また、大学内だけのゼミだけではなく、施設訪問などを取り入れた授業を行う。

【授業の展開計画】

授業は議論形式で、国際社会における福祉問題の論点を学んでいく。各回の授業ごとにグループ発表をもとに授業をすすめる。本講義に関連する国際フィールドワークへ参加をすすめ、夏休みにハワイ州のソーシャルワークについて現地で体験学習を実施する。後期には国外、国内および沖縄にある国際社会福祉組織について学ぶ。その中で沖縄県内にある国際機関・組織への訪問学習を実施し現場学習をする

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	Orientation	17	Orientation
2	グローバリゼーション時代の意義	18	発表グループ決め、テーマ決め
3	国際社会福祉の意義と展望 I	19	国際フィールドワーク報告
4	国際社会福祉の意義と展望 II	20	Student Presentation ①
5	国際社会福祉の課題	21	Student Presentation ②
6	「拡大する格差」を引き継ぐ未来世代	22	Guest Lecture
7	アジアの貧困と環境問題	23	Student Presentation ③
8	国際社会システムの形成とその視点 I	24	Student Presentation ④
9	国際社会システムの形成とその視点 II	25	Student Presentation ⑤
10	Guest Lecture	26	JICA国際協力フェスティバル参加
11	国際社会福祉の領域における日本の役割	27	Student Presentation ⑥
12	JICA見学ツアー	28	Student Presentation ⑦
13	社会福祉のグローバル化と国際協力	29	Guest Lecture
14	国際社会福祉の新たな方向	30	Student Presentation ⑧
15	沖縄県国際人材育成財団の活動について	31	Family Support Center Visit
16	まとめ		

【履修上の注意事項】

- ・講義は主に英語で行い英語の文献を併用するため、福祉英語基礎、福祉英語 I・IIを履修することや各自で英語の学習をすることが望ましい。
- ・「社会調査士」の資格取得を希望する学生は、履修ガイドを参照し、既定の講義を履修すること。

【評価方法】

出席状況、ゼミ内での授業態度、課題研究の内容等総合的に判断する。

【テキスト】

- ・仲村優一、他『グローバリゼーションと国際社会福祉』2002年

【参考文献】

- ・ジェームス ミッジリイ (1999) 『国際社会福祉論』中央法規
- ・M. C. Hokenstad, James Midgley (1997) Issues in International Social Work, NASW Press.
- ・その他、適宜資料を配布または紹介する。

専門演習 I

担当教員 小柳 正弘

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

理論的には、書いたり話したりすることで自分の問題意識や立ち位置を探り、対話を通して様々な問題を多面的に(ときに根底的に)検討/基本的なアカデミックスキルの修得/卒業論文作成にむけて研究の目的と方法を決定、先行研究を探索し調査計画を立案、実践的には、芸術療育/動物介在療育/障害者法制による人権擁護活動/特別支援教育・療育教材教具開発・製作/園芸福祉のための農園芸/社会事業への参加/学校行事のファシリテートなど、「頭を働かせて身体を動かすこと」をゼミの柱とする。いずれについても主体的にとりくみスキルをきちんと身につけることを強く要求する(オープンキャンパス等での活動や学外でのゼミへの参加は必須)。

【授業の展開計画】

実践的学習

- 社会人特別講師の招聘や学外ゼミ・文化活動等の諸制度を利用して以下のような各種ワークショップを実施＝
- ・わらべうたや布遊びを使った芸術療育実践[お手玉製作や絹布の染色など用具の準備も含む]
 - ・与那国馬による動物介在療育の体験
 - ・障害者人権擁護活動や県条例等障害者法制の学習
 - ・特別支援教育・療育のための教材教具開発・製作[学校との連携]
 - ・園芸福祉の基礎としての農園芸[花卉・作物]
 - ・各種社会事業(当事者運動・学会活動)の運営の一部に参加[7/25-26, 11/-8]
 - ・オープンキャンパス・新入生一日合同研修のファシリテートなど

理論的学習

- 以下をめぐって、発表・特定質問・質疑応答・議論・コメント作成により内容を吟味するかたちで理論的検討＝
- ・卒業論文作成にむけてテーマとする問題関心を探索、研究の目的と方法を決定、先行研究を探索し調査計画立案
 - ・文献探索、議論、テキストの読解、ライティング、調査の初歩などのアカデミックスキル
 - ・社会福祉の諸問題
 - ・障害学・社会哲学・倫理学などのテキスト読解

年度当初＝

- ・オリエンテーション、自己紹介の方法、履修状況セルフ/ピア・チェック、上級生との合同ゼミ
- ・新入生一日合同研修ファシリテート
- ・1年次の回顧[基礎演習を中心に]と各人の問題関心の確認
- ・アカデミック・スキルの確認[文献探索して発表してみる:人間の尊厳・自己決定・隣人愛を素材に]

以降＝

アカデミック・スキルの学習/各人の問題関心に沿って発表・議論/ワークショップ等

【履修上の注意事項】

評価S, A, B, C, Dの説明①S:形式も内容も特に優秀で独創的、A:形式も内容も特に優秀、B:形式又は内容は特に優秀、C:形式又は内容は優秀、D:遅刻/早退/形式・内容不十分②S:成果・貢献も主体性・積極性も特に優秀、A:成果・貢献又は主体性・積極性が特に優秀、B:成果・貢献も主体性・積極性も優秀、C:成果・貢献又は主体性・積極性は優秀、D:遅刻/早退/成果・貢献も主体性・積極性も不十分③S:形式も内容も特に優秀で独創的、A:形式も内容も特に優秀、B:形式又は内容は特に優秀、C:形式又は内容は優秀、D:形式・内容不十分(締切遅れ/分量不足/剽窃)

【評価方法】

【授業のねらい】にそって授業への関わりと卒業論文作成の進行状況を総合評価。以下の①～③は授業毎に評価し年度末に総合(評価基準S, A, B, C, Dの趣旨は【履修上の注意事項】に記載)。①授業中の発表・議論・質疑を内容と形式(積極性も含む)から毎回評価、②ワークショップでの活動を成果・貢献と主体性・積極性からその都度評価、③レポートなど提出物を形式と内容から評価。*遅刻・早退は二回で欠席一回と見なす。*時間外のワークショップ等も正規の授業と同様に評価の対象とする。*年度末の卒論・ゼミ論発表会への参加は必須。

【テキスト】

白井利明/高橋一郎著『よくわかる卒論の書き方[第2版]』ミネルヴァ書房(ISBN9784623065721)

【参考文献】

- ・高橋源一郎『一〇一年目の孤独ー希望の場所を求めて』岩波書店
- ・山田富秋(編著)『ライフストーリーの社会学』北樹出版
- ・桜井厚『ライフストーリー論』(現代社会学ライブラリー7)弘文堂

専門演習 I

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本専門演習のねらいは、高齢社会を迎え、多様化する保健・医療・福祉の諸問題に対応できる人材を育成することである。特に、高齢社会を背景として、医療（病院）から福祉（在宅・高齢者福祉施設）への連携を担う人材が強く求められていることから、包括的ケア概念に基づいたゼミ演習を展開する。なお、本演習では医療・福祉現場を知るという視点から、有料老人ホームの見学を実施する。また、患者を理解することからアルコール依存症患者及びその家族で構成される「断酒会」への参加も行う。年2回社会人講師を招聘し、実際の現場を知ってもらう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	専門演習ガイダンス	17	グループ課題の報告1、2グループ
2	グループエンカウンター①仲良くなるろう	18	グループ課題の報告1、2グループ
3	グループエンカウンター②仲良くなるろう	19	医療施設見学グループ編成
4	断酒会参加グループ編成	20	医療ソーシャルワーカーの役割
5	断酒会について学ぶ	21	患者様・・・・・・・・
6	断酒会について学ぶ	22	学外講師招聘（医療ソーシャルワーカー）
7	学外講師招聘（患者会会長招聘）	23	医療に関わる社会的課題①
8	話題提供 認知症	24	医療に関わる社会的課題②
9	話題提供 医療保険	25	医療に関わる社会的 課題個人報告①
10	話題提供 介護保険	26	医療に関わる社会的 課題個人報告②
11	話題提供 医療施設の種類	27	医療に関わる社会的 課題個人報告③
12	話題提供 介護保険施設の種類	28	医療に関わる社会的 課題個人報告④
13	生活習慣病を知ろう①	29	医療に関わる社会的 課題個人報告⑤
14	生活習慣病を知ろう②	30	後期振り返り
15	生活習慣病を知ろう③	31	1年間を振り返って
16	前期振り返り		

【履修上の注意事項】

本専門演習を履修する学生は、医療福祉論、社会保障、保健医療サービス、高齢者に対する支援と介護保険制度の科目を同時履修することが望ましい。

【評価方法】

演習への出席回数、演習への個人のとりくみ、グループでの取り組み状況、意見発表の積極性、課題提出状況などに基づき総合的に評価する。なお、前期・後期それぞれの欠席数が3分の1以上あった場合には単位を与えないものとする（不可とする）。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて関連資料を提示する。

【参考文献】

演習時に随時紹介する。

専門演習Ⅱ

担当教員 岩田 直子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 知名 孝

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習では、1) 発達障害児への支援、2) インタビュー調査の実際について学びます。専門演習Ⅰでは、月2回のソーシャルスキル・トレーニングやリトミックへの参加を通じて、発達障害児への支援について学びます。後期の取り組みとして保護者インタビューなど、ライフストーリーインタビューの導入を行います。3年次での専門演習Ⅱでは、当事者・家族へのインタビュースキルをテーマにゼミをすすめます。ライフストーリーインタビューやエスノメソドロジーなど、卒論に向けてのインタビュースキル、そしてグランデッドセオリーなどの質的データ分析についてもふれていきます。

【授業の展開計画】

専門演習Ⅱでは、主にインタビュー調査によって自分のテーマを深めていきます。そのテーマが卒論のテーマとなり、そこで行われたインタビュー調査が卒論調査の方法論として発展していくことを目指していきます。

前半は、ライフストーリーインタビューを行って行きます。ライフストーリーインタビューを何本か経験しながら、そのデータ分析を試みていきます。夏休みから後期にかけては、1) 自分のテーマを掘り下げる、2) テーマについての文献研究を掘り下げる、3) より大きなインタビュー調査とデータ分析を行うを行って行きます。

【履修上の注意事項】

インタビュー調査と分析を行います。人を相手にする調査を行います。

【評価方法】

出席、課題提出、ゼミ活動への参加態度・状況などを総合的に評価する。

【テキスト】

テキストおよび参考文献についてはゼミの中で連絡する。

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

「課題研究」を書くことを目標に重点を置いた内容を行って行く。前期は課題研究の準備として、必要な知識などを確認する。後期は社会福祉や、国際福祉に関連したテーマについて各自が自身で文献を調べ課題研究を作成する事になる。作成期間中は、ゼミにおいて進行状況の発表を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	17	オリエンテーション
2	課題研究について I	18	課題研究指導・作成
3	課題研究設定・グループ分け	19	課題研究指導・作成
4	テーマ・サブテーマの決定	20	課題研究指導・作成
5	課題研究準備	21	課題研究指導・作成
6	課題研究準備	22	課題研究指導・作成
7	課題研究について II	23	課題研究指導・作成
8	課題研究の経過発表準備	24	課題研究発表
9	課題研究の経過発表準備	25	課題研究発表
10	課題研究の経過発表準備	26	課題研究提出
11	グループ発表 I	27	課題研究修正
12	グループ発表 II	28	課題研究修正
13	グループ発表 III	29	課題研究最終提出
14	グループ発表 IV	30	文集作成開始
15	前期まとめ	31	文集作成・まとめ
16			

【履修上の注意事項】

- ・演習は英語と日本語で行い、英語の文献も使用するため、「福祉英語基礎」「福祉英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を履修することや、各自で英語の学習をすることが望ましい。
- ・「社会調査士」の資格取得を希望する学生は、履修ガイドを参照し既定の講義を履修すること。

【評価方法】

出席状況、ゼミ内での授業態度、課題研究の内容等総合的に判断する。

【テキスト】

よくわかる卒論の書き方（ミネルヴァ書房）白井利明・高橋一郎著 2010年
演習時に適宜紹介する。

【参考文献】

講義内で、適宜紹介していく。

専門演習Ⅱ

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本専門演習Ⅱの目的は3点ある。①我が国の医療構造を理解する。特に、病院完結型医療から地域完結型医療への推進による「地域連携」のあり方について理解を深める。②「医療資源」「医療用語」「医療保険制度」「介護保険制度」について、演習を通して理解する。③医療・保健・福祉の領域から、課題を見いだし論究する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション（計画・調整）	17	後期オリエンテーション（計画・調整）
2	我が国の医療資源①人・物・財	18	課題研究テーマ決定のための面談
3	我が国の医療資源②病院・診療所	19	課題研究テーマ決定のための面談
4	沖縄県における医療資源①医療施設	20	課題研究テーマ決定のための面談
5	沖縄県における医療資源②医療施設	21	患者を理解する④社会人招聘（患者会）
6	演習：医療を理解する①	22	課題研究テーマ決定のための面談
7	演習：病院を理解する②	23	課題研究テーマ・研究計画報告
8	医療資源①医療従事者（MSWを中心に）	24	課題研究テーマ・研究計画報告
9	医療資源①医療従事者（MSWを中心に）	25	課題研究テーマ・研究計画報告
10	演習：MSWを理解する①社会人招聘（MSW）	26	課題研究取り組み中間報告
11	演習：MSWを理解する②面接調査（グループ）	27	課題研究取り組み中間報告
12	演習：MSWを理解する③面接調査（グループ）	28	報告会：演習成果を全員で共有する。
13	演習：MSWを理解する④面接調査（グループ）	29	報告会：演習成果を全員で共有する。
14	報告会①：演習成果を全員で共有する。	30	報告会：演習成果を全員で共有する。
15	報告会②：演習成果を全員で共有する。	31	振り返り
16	前期振り返り		

【履修上の注意事項】

専門演習については、課題研究のとりくみを中心としたゼミを展開する。各人の研究内容を共有するために毎回進捗状況を報告させる。そのため、ゼミへの出席は必須であるため欠席しないように努めること。

【評価方法】

ゼミ出席状況を主として評価対象とする。また、同演習には課題研究報告書の提出が必須であるため、課題研究の最終報告書未提出の場合には不可とする。あるいは、前期・後期いずれかにおいて演習への欠席数が3分の1以上であった場合には不可とする。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。資料についてはその都度配布する。

【参考文献】

①改訂医療ソーシャルワーク実践50例：川島書店、大谷昭他 ②ソーシャルワーカーのための病院実習ガイドブック：勁草書房、村上須賀子他 ③医療に従事する人のための患者接遇マナー基本テキスト：日本能率協会マネジメントセンター、田中千恵子 ④イラスト図解医療費のしくみ、日本実業出版社、木村憲洋他

専門演習Ⅱ

担当教員 小柳 正弘

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

理論的には、書いたり話したりすることで自分の問題意識や立ち位置を探り、対話を通して様々な問題を多面的に(ときに根底的に)検討/いくつかの「現場」に関して理論的な考察を深める/先行研究を整理し調査を実施して卒業論文の骨格を固める、実践的には、芸術療育/動物介在療育/障害者法制による人権擁護活動/特別支援教育・療育教材教具開発・製作/園芸福祉の基礎としての農園芸/社会事業への参加/学校行事のファシリテートなど、「頭を働かせて身体を動かすこと」をゼミの柱とする。いずれについても主体的にとりくみスキルをきちんと身につけることを要求する(オープンキャンパスなどでの活動や学外でのゼミへの参加は必須)。

【授業の展開計画】

実践的学習

社会人特別講師の招聘や学外ゼミ・文化活動等の諸制度を利用して以下のような各種ワークショップを実施＝

- ・わらべうたや布遊びを使った芸術療育実践[お手玉製作や絹布の染色など用具の準備も含む]
- ・与那国馬による動物介在療育の体験
- ・障害者人権擁護活動や県条例等障害者法制の学習
- ・特別支援教育・療育のための教材教具開発・製作[学校との連携]
- ・園芸福祉の基礎としての農園芸[花卉・作物]
- ・各種社会事業(当事者運動・学会活動)の運営の一部に参加[7/25-26, 11/-8]
- ・オープンキャンパス・新入生一日合同研修のファシリテートなど

理論的学習

以下をめぐって、発表・特定質問・質疑応答・議論・コメント作成により内容を吟味するかたちで理論的検討＝

- ・卒業論文作成にむけて先行研究を整理し調査を実施して卒業論文の骨格をかためる
- ・『一〇一年目の孤独－希望の場所を求めて』で取り上げられた「現場」に関して分担して理論的に考察して[たとえば、そこには、どのような「私たち」や「私」のありよう(現状や可能性)が示唆されているか、どのような「希望」があるか、どのような課題があるか、を検討して]発表する
- ・論文作成のためのアカデミックスキルの確認
- ・社会福祉の諸問題
- ・障害学・社会哲学・倫理学などのテキスト読解

年度当初＝

- ・オリエンテーション、自己紹介の方法、履修状況セルフ/ピア・チェック、下級生との合同ゼミで卒論の計画を発表
- ・新入生1日合同研修ファシリテート
- ・各人の問題関心の確認。

以降＝

『一〇一年目の孤独－希望の場所を求めて』の理論的考察・発表・議論/各人の問題関心に沿って発表・議論/ワークショップ等

【履修上の注意事項】

評価S, A, B, C, Dの説明①S:形式も内容も特に優秀で独創的、A:形式も内容も特に優秀、B:形式又は内容は特に優秀、C:形式又は内容は優秀、D:遅刻/早退/形式・内容不十分②S:成果・貢献も主体性・積極性も特に優秀、A:成果・貢献又は主体性・積極性が特に優秀、B:成果・貢献も主体性・積極性も優秀、C:成果・貢献又は主体性・積極性は優秀、D:遅刻/早退/成果・貢献も主体性・積極性も不十分③S:形式も内容も特に優秀で独創的、A:形式も内容も特に優秀、B:形式又は内容は特に優秀、C:形式又は内容は優秀、D:形式・内容不十分(締切遅れ/分量不足/剽窃)

【評価方法】

【授業のねらい】にそって授業への関わりと卒業論文作成の進行状況を総合評価。以下の①～③は授業毎に評価し年度末に総合(評価基準S, A, B, C, Dの趣旨は【履修上の注意事項】に記載)。①授業中の発表・議論・質疑を内容と形式(積極性も含む)から毎回評価、②ワークショップでの活動を成果・貢献と主体性・積極性からその都度評価、③レポートなど提出物を形式と内容から評価。*遅刻・早退は二回で欠席一回と見なす。*時間外のワークショップ等も正規の授業と同様に評価の対象とする。*年度末の卒論・ゼミ論発表会への参加は必須。

【テキスト】

高橋源一郎『一〇一年目の孤独－希望の場所を求めて』岩波書店、1800円＋税

【参考文献】

- ・谷富夫・芦田徹郎(編著)『よくわかる質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房
- ・桜井厚・小林多寿子『ライフストーリー・インタビュー—質的研究入門』せりか書房
- ・御厨 貴(編)『オーラル・ヒストリー入門』岩波書店

専門演習Ⅱ

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

「専門演習Ⅰ」で学んだ内容を踏まえ、「専門演習Ⅱ」では、各学生の関心のある児童家庭福祉をテーマに深めていく。全体を通してグループディスカッションや論文講読を行い、プレゼン能力やレポート・論文作成能力を培う。フィールドワークとしては、児童福祉施設等を中心に福祉現場や教育現場に足を運び、自ら見聞し、学びを深める。また、ゼミのねらいとして、ソーシャルワーカーとしての知識・技術・倫理観の確立も掲げる。後期には、次年度の卒業論文を見据えて「課題研究」に取り組む。

【授業の展開計画】

子どもを取り巻く環境を総合的に理解する。特に、子どもの貧困や児童虐待、社会的養護などに焦点をあてその背景等を理解する。併せて、学校現場における支援方法の一つであるスクールソーシャルワークについて理解を深めていく。

以下に「子どもの貧困」「児童虐待」「社会的養護（施設養護・家庭養護）」及び「スクールソーシャルワーク」に関する学びの柱を示す。

- ①「子どもの貧困」
 - ・その現状及び課題
 - ・諸外国の現状 等
- ②「児童虐待」
 - ・その現状及び課題
 - ・諸外国の現状 等
- ③「社会的養護」
 - ・施設養護（本体施設・グループホーム）及び家庭養護（里親・ファミリーホーム）それぞれの現状及び課題
 - ・諸外国の現状
 - ・児童福祉施設・機関訪問 等
- ④「スクールソーシャルワーク」
 - ・その役割・機能
 - ・その現状と課題
 - ・学校等関係機関訪問 等

なお、学生それぞれの関心をもとに個人・グループ単位での調べ学習・プレゼンも行う。

また、後期には「課題研究」に取り組む。

「課題研究」では前期の学びを活かして個人の関心のあるテーマを選定し進めていく。

【履修上の注意事項】

本科目の主旨を理解し、積極的に授業に参加すること。

【評価方法】

本科目の主旨を鑑み、授業態度（積極的な参加等）、出欠状況、レポート等を総合して判断する。

【テキスト】

必要に応じ開講時に提示する。

【参考文献】

子どもの貧困白書編集委員会編(2009)：『子どもの貧困白書』、明石書店。日本子ども家庭総合研究所編(2014)：『子ども虐待対応の手引き』、有斐閣。藤岡孝志(2008)：『愛着臨床と子ども虐待』、ミネルヴァ書房。山野・野田・半羽編(2012)：『よくわかるスクールソーシャルワーク』、ミネルヴァ書房。

専門演習Ⅱ

担当教員 桃原 一彦

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

当演習ゼミは「遊び」と「余暇」をキーワードとして都市コミュニティの諸相をテーマ化し、調査研究を実践する。現代社会は「遊び」や「余暇」の様相を大きく変動させてきた。ショッピングモールなど「時間消費型行動」の都市空間が増殖し、人々の「遊び」や「余暇」はそこに回収されつつある。それは、公共圏の機能を衰退させ、界索性やコミュニティ意識にも影響を与えている。そこで「遊び」「余暇」の行動様式を通じたコミュニティや公共圏の問題をテーマとし、社会調査の技法に関する実習を取り入れ、上記諸問題の洞察力をより深めていくための共同研究・相互学習の場にしていく。

【授業の展開計画】

当演習ゼミは2年次と3年次を通して一貫したテーマを追求するものである。そのテーマとは「遊び」と「余暇」の変化から沖縄における都市コミュニティと公共圏のありようを把握するものである。2年次(専門演習I)では、前期に社会学(とりわけ都市社会学)の基本的な概念や分析視覚の学習を行なう。夏期休暇期間中は、先行的な研究の文献・資料等の収集と、社会調査の予備訓練を行う。後期は、沖縄の都市社会およびその文化、政治に関する文献を通読し、先行研究等を介して調査テーマの具体的な絞り込みを行う。この作業で導き出された下位テーマをもとに、春季休暇期間中に追加の資料収集等を行なう。3年次(専門演習II)ゼミでは、調査方法、調査項目立てや質問紙づくり、および調査実習に関する企画設計を行い、夏期休暇期間中の社会調査実習に備える。社会調査の実施は8月下旬か9月上旬を予定している。後期は調査実習で得られたデータを整理し、報告書の執筆と作成を行なう。なお、調査予定地は沖縄島の中南部都市圏の中から取り上げていく。

【履修上の注意事項】

1～2年次で「社会調査の基礎」「社会調査の企画と設計」および「社会学概論Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。また、自分自身の関心や研究テーマに応じて「都市社会学Ⅰ・Ⅱ」ならびに「家族社会学Ⅰ・Ⅱ」を受講すること。

【評価方法】

専門演習Ⅱは、社会調査の実践を主たる内容とするため、その課題の成果内容や発表の工夫などを評価の基準とする。もちろん、受講中の態度や社会調査に対する取り組み姿勢、調査報告書の内容は評価の必須項目とする。

【テキスト】

とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

【参考文献】

予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

相談援助の基盤と専門職

担当教員 -宮城 美智子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

相談援助の理論と方法

担当教員 比嘉（11）、知名（16）、石川和徳（12）、その他は社会人特別講師が担当

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 8

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目では、相談援助における人と環境との交互作用に関する理論や相談援助の対象、さまざまな実践モデルについて理解する。さらに、相談援助の過程とそれに係る知識と技術、相談援助の実際について学ぶ。

【授業の展開計画】

前期

1. 前期オリエンテーション：授業の目的等
2. 社会福祉実践と日常生活①～③
3. ソーシャルワーク理解の視点等①～⑨
4. 面接技術①～④
5. 社会福祉各分野における実践
6. 前期まとめ

後期

1. 後期オリエンテーション
2. ケアマネジメントの流れ①～④
3. 相談援助の過程①～②
4. グループワーク、ネットワーキング①～③
5. 社会資源の活用・調整・開発①～②
6. 実践モデルとアプローチ①～⑦
7. 記録、事例研究、アウトリーチ等①～⑦
8. 社会福祉各分野における実践
9. まとめ

【履修上の注意事項】

本科目は「相談援助演習」や「相談援助実習指導」「相談援助実習」と連結する重要な科目であるということ意識して受講すること。社会福祉士であるソーシャルワーカーが行う業務内容について理論的に理解するとともに事例を通して具体的に学んでほしい。専任教員を中心に非常勤講師等複数の教員で担当するので各教員の注意事項等をきちんと確認して受講すること。

【評価方法】

出欠、ワークへの参加状況及び各教員の与える諸課題等の評価を元に総合的に評価する。

【テキスト】

- ①社会福祉士養成講座編集委（最新年）：『相談援助の理論と方法Ⅰ（最新版）』、中央法規。
- ②社会福祉士養成講座編集委（最新年）：『相談援助の理論と方法Ⅱ（最新版）』、中央法規。

【参考文献】

授業時に適宜示します。

卒業演習

担当教員 岩田 直子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業演習

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

「卒業演習」では、4年間の集大成として卒業論文に取り組む。これまでの講義・演習・実習等で得た知識・経験に基づいて各自のテーマを設定する。それぞれのテーマに基づいて、文献検索、資料収集、調査等を行い、夏季の中間発表を経て、最終的に卒業論文をまとめる。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション：年間のスケジュールを確認
 - ①「卒論の書き方」・各自テーマ決定(～5月中旬)
 - ②個別指導(6月～)
 - ③中間報告会(8月中旬)
 - ④仮提出【ゼミ】(10月下旬)
 - ⑤本提出【社会福祉専攻全体】(12月中旬)
 - ⑥最終報告会(2月初旬)
2. 各自のテーマ決定・報告
3. 各自のテーマに関する先行研究等の文献・資料収集
4. 個別指導：各自の進捗状況を報告
5. 中間報告会
6. 最終報告会

【履修上の注意事項】

個別指導が主になるが、必要に応じて全体指導を行う。卒業論文は一朝一夕にできあがるものではなく、これまでの学びの積み重ねで作られるものである。そのため、普段から自身のテーマに関心を持ち資料収集を行うなど、より積極的・主体的に取り組むことが望まれる。

【評価方法】

ゼミへの出席状況および最終的に提出された論文と論文作成への取り組み(そのプロセス)を総合的に判断して評価する。一方、「卒業研究発表」(卒業論文：4単位)は、ゼミ担当教員が主査、他専攻教員が副査となって論文審査を行い、最終評価を与える。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

白井利明・高橋一郎(2008)：『よくわかる 卒論の書き方』、ミネルヴァ書房。
その他は、必要に応じて適宜紹介する。

卒業演習

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

4年間の集大成として、これまでに履修してきた講義・演習・実習にて学んだ知識と経験を生かして研究テーマを設定する。1年を通して、各自の設定したテーマに基づき研究調査の企画と設計、論文・参考文献等の検索の方法と収集、データ分析に関する指導等を行う。受講生には自主性を持って取り組むことを強く求める。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	オリエンテーション	17	データ入力、分析と集計
2	各自の研究テーマ候補報告	18	データ入力、分析と集計
3	各自の研究テーマ決定	19	データ入力、分析と集計
4	卒業論文研究計画書の作成	20	データ入力、分析と集計
5	論文・参考文献等の検索方法	21	データ入力、分析と集計
6	先行研究等の資料収集	22	データ入力、分析と集計
7	個別指導	23	個別報告と指導
8	個別指導	24	個別報告と指導
9	個別指導	25	個別報告と指導
10	個別指導	26	卒業論文発表会
11	中間発表	27	卒業論文発表会
12	調査票作成	28	卒業論文発表会
13	調査票作成	29	卒業論文集製作
14	個別報告と指導	30	卒業論文集製作
15	個別報告と指導	31	まとめ
16	個別報告と指導		

【履修上の注意事項】

個別指導中心となるが、必要に応じて演習を行う。演習時には活発な議論を求める。

【評価方法】

論文作成の過程と最終的に提出された論文を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

よくわかる卒論の書き方（ミネルヴァ書房）白井利明・高橋一郎著 2010年
社会福祉の研究入門-計画立案から論文執筆まで-（中央法規）久田則夫：編 2003年

【参考文献】

よくわかる学びの技法第2版（ミネルヴァ書房）田中共子編 2009年

卒業演習

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本ゼミのねらいには二つある。一つは、4年間培ってきた専門・基礎知識の集大成、もう一つは、「批判的検討能力」「問題発見・解決能力」を身につけることである。後者については「自ら考え、解決する」能力にほかならない。卒業論文を作成する過程において、まず、問題・課題を含むテーマを決定し（問題発見）、それについて資料収集・社会調査を実施して論理的・実証的に論述（批判的検討）していく。最終的には、テーマに含まれる問題・課題について結論が導き出される（問題解決）ことになる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	オリエンテーション	17	データ入力・集計方法2
2	卒論作成に向けて概説	18	データ入力・集計方法3
3	卒論研究プロトコル作成法	19	データ集計・分析・執筆1
4	論文の書き方①	20	データ集計・分析・執筆2
5	論文の書き方② 文献、論文検索	21	データ集計・分析・執筆3
6	卒論テーマ作成のための個人面談1	22	データ集計・分析・執筆4
7	卒論テーマ作成のための個人面談2	23	データ集計・分析・執筆5
8	卒論テーマ作成のための個人面談3	24	データ集計・分析・執筆6
9	卒論テーマ作成のための個人面談4	25	卒論発表会1
10	卒論テーマの決定とプロトコル作成	26	卒論発表会2
11	卒論プロトコル提出	27	卒論発表会3
12	調査票作成1	28	卒論・ゼミ論集制作1
13	調査票作成2	29	卒論・ゼミ論集制作2
14	調査依頼	30	卒論・ゼミ論集制作3
15	データ入力方法講義（CPU室にて）	31	振り返り
16	データ入力・集計方法1		

【履修上の注意事項】

初回のゼミ時間に研究テーマにしたい内容を口頭発表できるように整理しておくこと。前期で卒論テーマを確定し、実証研究（量的調査を含む）を行う学生は、夏休み前に基礎調査等（アンケート調査を含むその他情報収集）を終了する。したがって、アンケート等の調査は前期終了までに実施するとし、夏休み中に調査結果を集計分析し、粗原稿でよいので文章を完了させることが望ましい。後期には随時個人毎に執筆指導を行う。

【評価方法】

卒業演習の評価は演習への出席回数と卒業論文あるいは卒業演習論文（ゼミ論）の提出有無とその内容によって評価する。また、演習の中間（夏季休業明け）期に開催する、中間口頭発表会を参考にする。なお、卒業論文については、主査：指導教員 副査：他教員1名の計2名により評価される。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

随時紹介する。

卒業演習

担当教員 桃原 一彦

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

各自で設定した卒業研究テーマに沿って、企画・設計、先行研究等の情報収集、データや素材等の収集と整理・分析、卒業論文の執筆や研究成果物の作成をおこなう。前期は、6月まで企画・設計、情報や素材の収集に関するレクチャーをゼミ全体に対して行うが、7月以降は方法論の検討やデータ・素材の収集に関する手順を個別面談方式で議論していく。夏期休暇中～10月上旬までにデータや素材の収集を完了し、後期はデータや素材の整理と論文または成果物の作成に集中してもらう。なお、後期も個別面談方式を中心とし、集中的に指導する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	年間のスケジュールと諸注意	17	データ、素材収集の実施（適宜個別指導）
2	各自卒業研究テーマ候補の報告	18	同上
3	各自卒業研究テーマの確定と発表	19	同上
4	同上	20	補足的な収集に関する指導
5	同上	21	データおよび素材の整理方法の指導
6	同上	22	論文または成果物の内容構成の再検討
7	卒業研究の企画・設計に関する指導	23	個別の進捗報告と指導
8	先行研究の収集に関する指導	24	同上
9	研究の方法論に関する指導	25	同上
10	構成内容などに関する指導	26	同上
11	データおよび素材の収集に関する指導	27	ゼミ全体での中間発表
12	同上	28	卒論および成果物の仮提出と修正指導
13	個別の進捗報告と指導	29	卒論および成果物の本提出
14	同上	30	卒業論文および卒業研究集の作成
15	同上	31	補講および補足的指導
16	データ、素材収集の実施（適宜個別指導）		

【履修上の注意事項】

「卒業演習」（4単位・専門基礎必修）と「卒業研究発表」（4単位・専門選択）は異なるので注意する。演習は通年の4年次ゼミのことを意味し、「卒業研究発表」は教員指導のもと卒業論文または卒業研究成果物を作成し、指定期日に所定の場所に提出し「可」以上の評価を与えられた者にだけ単位が認められる。また、卒業論文または卒業研究成果物の作成要領、提出期日および提出場所等は前期に掲示板に掲示されるので、ちゃんと確認すること。

【評価方法】

「卒業演習」は、各演習ゼミ担当教員によって評価が与えられる。「卒業研究発表」は、担当教員が主査、他の教員が副査となって審査を行い、評価が与えられる。評価は、形式的なルール、研究上の意義（先行研究等との関係）、全体構成（研究の計画からまとめ方までの手順）、データおよび素材の収集方法（計画、実行内容、妥当性）、整理・分析の方法（適切な手順・方法等）、考察等（論理的、実証的な論述）、引用・資料等（引用の仕方や表記方法、参考文献の扱い方、資料の使い方や表記）、その他（誤字脱字など）をもって評価する。

【テキスト】

テキストの指定はとくにないので、適宜参考文献を紹介していく。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介していく。

卒業演習

担当教員 小柳 正弘

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

理論的には、書いたり話したりすることで自分の問題意識や立ち位置を探り、対話を通して様々な問題を多面的に(ときに根底的に)検討/いくつかの「現場」に関して理論的な考察を深める/卒業論文を完成する、実践的には、芸術療育/動物介在療育/障害者法制による人権擁護活動/特別支援教育・療育教材教具開発・製作/園芸福祉の基礎としての農園芸/社会事業への参加/学校行事のファシリテートなど、「頭を働かせて身体を動かすこと」をゼミの柱とする。いずれについても主体的にとりくみスキルをきちんと身につけることを強く要求する(オープンキャンパスなどでの活動や学外でのゼミへの参加は必須)。

【授業の展開計画】

実践的学習

- 社会人特別講師の招聘や学外ゼミ・文化活動等の諸制度を利用して以下のような各種ワークショップを実施＝
- ・わらべうたや布遊びを使った芸術療育実践[お手玉製作や絹布の染色など用具の準備も含む]
 - ・与那国馬による動物介在療育の体験
 - ・障害者人権擁護活動や県条例等障害者法制の学習
 - ・特別支援教育・療育のための教材教具開発・製作[学校との連携]
 - ・園芸福祉の基礎としての農園芸[花卉・作物]
 - ・各種社会事業(当事者運動・学会活動)の運営の一部に参加[7/25-26, 11/-8]
 - ・オープンキャンパス・新入生一日合同研修のファシリテートなど

理論的学習

- 以下をめぐって、発表・特定質問・質疑応答・議論・コメント作成により内容を吟味するかたちで理論的検討＝
- ・卒業論文作成にむけて先行研究の整理や調査の結果を確認し、必要な手直しを行って、卒業論文を完成する
 - ・『一〇一年目の孤独－希望の場所を求めて』で取り上げられた「現場」に関して分担して理論的に考察して[たとえば、そこには、どのような「私たち」や「私」のありよう(現状や可能性)が示唆されているか、どのような「希望」があるか、どのような課題があるか、を検討して]発表・コメント
 - ・論文作成のためのアカデミックスキルの確認
 - ・社会福祉の諸問題
 - ・障害学・社会哲学・倫理学などのテキスト読解

年度当初＝

- ・オリエンテーション、自己紹介の方法、履修状況セルフ/ピア・チェック、下級生との合同ゼミで卒論の概要を発表
- ・新入生1日合同研修ファシリテート
- ・各人の問題関心の確認。

以降＝

『一〇一年目の孤独－希望の場所を求めて』の理論的考察・発表・議論/各人の問題関心に沿って発表・議論/ワークショップ等

【履修上の注意事項】

評価S, A, B, C, Dの説明①S:形式も内容も特に優秀で独創的、A:形式も内容も特に優秀、B:形式又は内容は特に優秀、C:形式又は内容は優秀、D:遅刻/早退/形式・内容不十分②S:成果・貢献も主体性・積極性も特に優秀、A:成果・貢献又は主体性・積極性が特に優秀、B:成果・貢献も主体性・積極性も優秀、C:成果・貢献又は主体性・積極性は優秀、D:遅刻/早退/成果・貢献も主体性・積極性も不十分③S:形式も内容も特に優秀で独創的、A:形式も内容も特に優秀、B:形式又は内容は特に優秀、C:形式又は内容は優秀、D:形式・内容不十分(締切遅れ/分量不足/剽窃)

【評価方法】

【授業のねらい】にそって授業への関わりと卒業論文作成の進行状況を総合評価。以下の①～③は授業毎に評価し年度末に総合(評価基準S, A, B, C, Dの趣旨は【履修上の注意事項】に記載)。①授業中の発表・議論・質疑を内容と形式(積極性も含む)から毎回評価、②ワークショップでの活動を成果・貢献と主体性・積極性からその都度評価、③レポートなど提出物を形式と内容から評価。*遅刻・早退は二回で欠席一回と見なす。*時間外のワークショップ等も正規の授業と同様に評価の対象とする。*年度末の卒論・ゼミ論発表会への参加は必須。

【テキスト】

高橋源一郎『一〇一年目の孤独－希望の場所を求めて』岩波書店、1800円＋税

【参考文献】

- ・谷富夫・山本努(編著)『よくわかる質的社会調査 プロセス編』ミネルヴァ書房
- ・大久保孝治『ライフストーリー分析－質的調査入門』学文社
- ・荒井浩道『ナラティブ・ソーシャルワーク － 〈支援〉しない支援の方法』新泉社

卒業演習

担当教員 知名 孝

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学4年間の学びにひとつのパンクチュエーションを与えるものとして卒業論文執筆がある。論文執筆作成にかかる作業を行っていきなかに、自らの大学での学びを振り返り、論文という形で作りあげる作業をすすしていく

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

自らの学習を振り返り、自分が論文としてとりあげたいテーマについて決めておくこと。ある程度の論文についての構想を持っておくこと。

【評価方法】

中間報告、定期的な課題・執筆状況、最終的な論文などを総合的に評価を行う。

【テキスト】

ゼミのなかで指定する。

【参考文献】

地域福祉の理論と方法

担当教員 保良 昌徳・オムニバス講義

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

知覚心理学

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

知覚心理学では、実際に自分の感覚や知覚を通して「世界」を感じて理解する過程を意識的に体験しながら「自分の知覚の仕組み」について理解することが重要である。そのため本講は、さまざまな感覚・知覚刺激の観察や簡単な実験などの体験を行いながら進める。さまざまな知覚体験をきっかけに、人間が外界（身の周りの環境）を理解する基本的な心理的能力である”知覚;Perception”の仕組みについて興味・関心を持ち、心理学では知覚についてどのように捉え研究しているのか理解して欲しい。日頃は意識しない”知覚というこころの働き”について目覚めてほしい。

【授業の展開計画】

この講義は、感覚・知覚実験および認知的実験を体験し、その結果について実験グループやクラス全体でディスカッションを行い、知覚の働きについて考えるという形式で進める予定である。実験の材料によって1～2週かけて行うものや、3～4週に渡る場合もある。とり上げる実験と詳細な講義計画については、初回の講義時に説明する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・実験グループづくり
2	知覚とはなにか・五感のメカニズム①
3	実験①盲点の測定・視野測定
4	実験②五感を意識するワーク
5	実験③残像と恒常性
6	実験④色覚①
7	実験⑤色覚②
8	実験⑥視野融合
9	実験⑦注意①
10	実験⑧注意②
11	実験⑨重量弁別①
12	実験⑩重量弁別②
13	実験⑪視覚と聴覚の関連性
14	実験⑫味覚と嗅覚の関連性
15	もういちど知覚とは何か・まとめ
16	

【履修上の注意事項】

- ・心理学概論もしくは共通科目の心理学 I を履修済みであると理解しやすい。様々な実験器具や材料を使用した小グループでの実験を行うため、希望者が多い場合、心理カウンセリング専攻学生を優先して登録を行う。
- ・知覚心理学では、「自分で体験すること」「自分で気づいて・発見すること」が大切なので、授業や実験に自ら積極的に取り組もうとする好奇心と意欲のある学生の受講を希望します。

【評価方法】

出席、小実験への参加、課題レポートの提出などを総合して評価する予定

【テキスト】

特に指定しない。授業ごとに必要な資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する

低所得者に対する支援と生活保護制度

担当教員 一金城 鍛

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

哲学的人間論

担当教員 武田 一博

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、人間とは何か、何のために生きるのかなどを、哲学の側から考えていくことが中心テーマです。哲学の問題として考えるということは、単なる知識を詰め込むことではなく、自分自身の頭で考えられるようにならなければなりません。そして、どんな問題も、それに対する答え方は無数にある、というのが哲学の立場なのです。しかし、哲学的な考え方と言えらるためには、徹底的に論理的に、概念に即して厳密に、整合的に、体系的に、明晰判明に、考えられていなければなりません。本講義を通じて受講生の皆さんには、こうした哲学的なものの考え方を身に付けてください。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講師の自己紹介。哲学とは何か
2	レポートの書き方、諸注意点の説明
3	人間とは何かー自然性・社会性・理性性のトリレンマ
4	人間の自然性とは何か
5	「利己的遺伝子の乗り物」
6	本能の暴力性＝悪について
7	無意識・超自我とは
8	人間の社会性とは何か
9	感情・情動は何のためにあるか
10	道徳・規則・法の存在
11	社会契約説について
12	人間の理性性とは何か
13	自己意識・自我は何のためにあるか
14	人間が自由であるとはどういうことか
15	人間が理性的存在者であるということの意味
16	まとめと参加者の感想・評価、そしてレポート提出

【履修上の注意事項】

居眠りと私語は、教室の外で行なってもらいます。

出席は取りません（出席点はありません）。

授業に参加の意思がある人のみ、出席してください。

授業に参加するということは、ノートを取るだけでなく、積極的に質問し意見を述べることです。

質問・意見は、いつでも自由に出してもらってかまいません。

【評価方法】

成績は、レポートのみによって評価します。

レポートの注意点は、2回目の講義時に行ないます。

注意を守っていないレポートは、提出しても不可をつけます。

【テキスト】

テキストは指定しません。講義で紹介する本を、できるだけたくさん読んでください。たくさんの本を読んで、自分の頭で考えて、文章で表現する、これができなければ、哲学的に考えることはできません。

【参考文献】

都市社会学

担当教員 桃原 一彦

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

都市社会学は「都市（化）」という現象を社会的に解説する学問である。つまり、都市空間のありようが私たちの生活、社会関係、行為や心的性向にどのような影響を与えているのかについて理解するものである。本講義では、日本における近代化と都市化の諸相と都市社会学の展開、さらに集会的消費の問題について考える。古典的な都市社会学を批判的に展開し、戦後日本の都市空間と都市生活の特性と諸問題について考える。そのうえで「無印都市」をキーワードとし、＜テーマ化する都市＞の問題と可能性を探索するような講義内容となる。

【授業の展開計画】

講義は基本的に教員からの「発話」で進行するが、毎回リアクション・ペーパーを配布し、その内容に関する応答も講義の冒頭で行う。また、講義内で「都市社会を考える学習課題」（計3回）を課す。

週	授 業 の 内 容
1	都市社会学への招待
2	日本における近代的都市化—1920年代を中心に
3	日本と沖縄の都市化—高度経済成長と米軍統治、「バブル」と振興策
4	都市社会を考える学習課題①
5	日本における都市社会学の展開①—結節機関、正常人口の正常生活
6	日本における都市社会学の展開②—第三の空間とコミュニティ研究
7	日本における都市社会学の展開③—エスニシティ研究と世界都市論
8	日本における都市社会学の展開④—新都市社会学と資本・国家・空間、集会的消費
9	都市社会学を考える学習課題②
10	テーマ化する都市①—博覧会からテーマパークへ
11	テーマ化する都市②—都市空間「テーマ化」とその諸問題
12	テーマ化する都市③—ショッピングモールの増殖とコミュニティ、公共圏
13	「無印都市」の特徴と問題①—「気散じ」と「身散じ」
14	「無印都市」の特徴と問題②—「密猟」という視点
15	都市社会を考える学習課題③
16	予備日

【履修上の注意事項】

本講義は毎回出席確認を行う。またリアクション・ペーパーへの記入内容や「都市社会を考える学習課題」（計3回）への取り組み内容などを中心に評価を行うので、提出課題は漏らさず注意すること。

【評価方法】

受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「都市社会を考える学習課題」①～③の提出と内容評価が各10点（計30点）、期末レポート課題の提出と内容評価が50点という構成で総合評価する。

【テキスト】

テキストはとくにないので、適宜参考文献を紹介する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介していく。

都市社会学Ⅱ

担当教員 桃原 一彦

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

都市社会学は「都市（化）」という現象を社会的に解説する学問である。つまり、都市空間のありようが私たちの生活、社会関係、行為や心的性向にどのような影響を与えているのかについて理解するものである。Ⅱでは、日本における近代化と都市化の諸相と都市社会学の展開、さらに集会的消費の問題について考える。古典的な都市社会学を批判的に展開し、戦後日本の都市空間と都市生活の特性と諸問題について考える。そのうえで「無印都市」をキーワードとし、〈テーマ化する都市〉の問題と可能性を探索するような講義内容となる。

【授業の展開計画】

講義は基本的に教員からの「発話」で進行するが、毎回リアクション・ペーパーを配布し、その内容に関する応答も講義の冒頭で行う。また、講義内で「都市社会を考える学習課題」（計3回）を課す。

週	授 業 の 内 容
1	都市社会学Ⅱへの招待
2	日本における近代的都市化—1920年代を中心に
3	日本と沖縄の都市化—高度経済成長と米軍統治、「バブル」と振興策
4	都市社会を考える学習課題①
5	日本における都市社会学の展開①—結節機関、正常人口の正常生活
6	日本における都市社会学の展開②—第三の空間とコミュニティ研究
7	日本における都市社会学の展開③—エスニシティ研究と世界都市論
8	日本における都市社会学の展開④—新都市社会学と資本・国家・空間、集会的消費
9	都市社会学を考える学習課題②
10	テーマ化する都市①—博覧会からテーマパークへ
11	テーマ化する都市②—都市空間「テーマ化」とその諸問題
12	テーマ化する都市③—ショッピングモールの増殖とコミュニティ、公共圏
13	「無印都市」の特徴と問題①—「気散じ」と「身散じ」
14	「無印都市」の特徴と問題②—「密猟」という視点
15	都市社会を考える学習課題③
16	予備日

【履修上の注意事項】

本講義は毎回出席確認を行う。またリアクション・ペーパーへの記入内容や「都市社会を考える学習課題」（計3回）への取り組み内容などを中心に評価を行うので、提出課題は漏らさず注意すること。

【評価方法】

受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「都市社会を考える学習課題」①～③の提出と内容評価が各10点（計30点）、期末レポート課題の提出と内容評価が50点という構成で総合評価する。

【テキスト】

テキストはとくにないので、適宜参考文献を紹介する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介していく。

動作法

担当教員 平山 篤史

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

動作法は心理療法の一つである。自分自身の姿勢や動きをコントロールし、「動作課題」の達成に向けて、主体的に取り組む過程で、当人が実感する心身の感じ方や取り組み方を変化させるものである。姿勢や動作の改善や、ストレスマネジメントなど様々な対象者への心身の援助に効果を発揮している。この授業では動作法の理論の学習と実技を行い、動作法を日々の生活に生かすことや、援助技法として活用することを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション —ところとからだのつながりと実習に関する諸注意—
2	動作法の歴史と理論～催眠から動作へ～
3	動作法による援助の基礎
4	動作法の援助の考え方と基本
5	リラクセーションの見方、考え方
6	リラクセーションの実技 軀幹 1
7	リラクセーションの実技 軀幹 2
8	リラクセーションの実技 肩を中心としたリラクセーション
9	リラクセーションの実技 股関節を中心としたリラクセーション
10	リラクセーションの実技 総合
11	動作法の臨床事例
12	タテ系動作課題について
13	座位姿勢の実技①
14	座位姿勢の実技②
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

本授業では催眠や動作法について、実習を通して、受講者が互いに援助者体験・被援助者体験をする。相手のところに深く関わる技法であるため、実技では相手を思いやり、相手のところを踏みにじらないことが絶対の条件である。そのため、実技の際にこれらを犯す者は動作法を行う資格に欠けると判断し、受講を取り消すことがある。実技の際には、床に座ることや横になることが多いので、動きやすい服装で受講すること。

【評価方法】

出席、受講中の態度や実技実習への取り組み、毎回のミニレポートなどを総合的に判断して評価する。

【テキスト】

適宜、資料を配布する。

【参考文献】

「動作法ハンドブック 基礎編」 慶応大学出版

認知心理学

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、認知心理学の主要なテーマである、知覚、記憶、思考、言語、情動、注意と意識などについて、認知心理学の研究の知見について、文献を読みワークを行うことで理解していく。ワークでは、「日常生活における認知活動」について観察し、考え、ディスカッションをしていく。認知心理学の知見を日常生活と結びつけながら、ひとの認知過程について具体的に理解していくことを目指す。

【授業の展開計画】

講義の初回には、より詳細なシラバスを配布し説明する。クラスの状況によっては講義の計画が変更になる場合もある。その際は、新たなシラバスを再配布し説明する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	認知とは・認知心理学とは
3	日常における認知過程
4	知覚①
5	知覚②
6	記憶①
7	記憶②
8	注意と意識①
9	注意と意識②
10	認知と情動
11	言語
12	思考・創造性
13	問題解決・考える技術①
14	問題解決・考える技術②
15	認知とは・まとめ
16	

【履修上の注意事項】

- ・授業では、「ものごと認識すること、理解すること、考えること」というこころの働きと日常における「認知と感情と行動の関係」について、考えたり、話し合ったりする機会をできるだけ持ちたい。主体的に、「考えること」を楽しんでみたい学生の参加を希望する。
- ・他学科・他専攻学生の受講に際しては、心理学概論または共通科目の心理学Ⅰ・Ⅱなどの心理学入門科目を履修済みであることが望ましい。

【評価方法】

出席確認：ワークシートに講義に関するコメント・感想の記入を課し平常点とする（出席確認も兼ねる）。
 予習・復習ワーク：毎回の講義のテーマに関連する課題を予習・復習ワークとして課す。
 期末課題：学期末にポートフォリオとレポート課題を課す。
 平常点、予習・復習ワーク、期末課題を総合して評価する予定である。

【テキスト】

- ・テキストは、初回の講義時に紹介する予定である（テキストは毎回の講義に使用するため購入すること）
- ・その他、必要な資料を授業時に配布する予定である

【参考文献】

授業時に適宜配布する。

発達心理学 I

担当教員 金武 育子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、人間の生涯に渡る発達について、発達心理学の歴史、主要な研究・研究者、重要な理論等を幅広く取り上げ、概説することを目的とします。発達心理学への理解を深め、人間理解の手がかりとして発達領域の知見を活用する手立てを身につけていただきたいと思います。発達心理学 I（前期）では、発達心理学の変遷、理論、研究法を概説し、誕生～青年期までについて取り上げる予定です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
2	発達心理学の変遷と研究法①：発達心理学の歴史概説する
3	発達心理学の変遷と研究法②：発達心理学の研究法を概説する
4	発達理論①：主要な理論について紹介する（フロイト）
5	発達理論②：主要な理論について紹介する（ピアジェ）
6	発達理論③：主要な理論について紹介する（エリクソン）
7	発達理論④：主要な理論について紹介する
8	胎児期：胎児期の発達の様子
9	乳幼児期：乳幼児期の発達の様子
10	幼児前期：幼児期の発達の様子①
11	幼児後期：幼児期の発達の様子②
12	児童期：児童期の発達の様子
13	青年期①：青年期の課題①
14	青年期②： 〃 ②
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・自分自身で自主的に考え、行動し、発達心理学の視点を身に付けてください。
- ・講義中の私語、携帯電話の使用を禁止。
- ・講義開始20分以上を経過しての入室、講義中の途中退席を基本的に禁止。
- ・自己管理を適切に行ってください。
- ・質問や、申し出は適宜受け付けますので、先延ばしにせず意思表示を。

【評価方法】

毎回、所定のワークシートを課す。
レポート（期末考査）を1タイトル以上課し、総合的に評価する。

【テキスト】

前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版

【参考文献】

講義中に適宜紹介する

発達心理学Ⅱ

担当教員 金武 育子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、人間の生涯に渡る発達について、発達心理学の歴史、主要な研究・研究者、重要な理論等を幅広く取り上げ、概説することを目的とします。発達心理学への理解を深め、人間理解の手がかりとして発達領域の知見を活用する手立てを身につけていただきたいと思います。発達心理学Ⅱ（後期）では、青年期から老年期までを取り上げ、発達臨床の視点も紹介する予定です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
2	発達理論①：主要な理論について紹介する
3	発達理論②：主要な理論について紹介する
4	発達理論③：主要な理論について紹介する
5	胎児期から青年期①：概観①
6	胎児期から青年期②：概観②
7	青年期：青年期の課題
8	成人前期：成人前期の発達の様子①発達課題
9	成人前期：成人前期の発達の様子②適応
10	成人中期：成人中期の発達の様子①発達課題
11	成人中期：成人中期の発達の様子②適応
12	成人後期：成人後期の発達の様子①発達課題
13	発達課題について：まとめ
14	発達研究：展望と課題
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・自分自身で自主的に考え、行動し、発達心理学の視点を身に付けてください。
- ・講義中の私語、携帯電話の使用を禁止。
- ・講義開始20分以上を経過しての入室、講義中の途中退席を基本的に禁止。
- ・自己管理を適切に行ってください。
- ・質問や、申し出は適宜受け付けますので、先延ばしにせず意思表示を。

【評価方法】

毎回、所定のワークシートを課す。
レポート（期末考査）を1タイトル以上課し、総合的に評価する。

【テキスト】

前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版

【参考文献】

講義中に適宜紹介する

発達臨床心理学

担当教員 島袋 静香

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、様々な子どもの神経発達障害や精神病性障害を取り上げ、発達の適応性と不適応性を左右する発達プロセスの役割、環境の重要性、多様な出来事の影響について理解を深める。発達を踏まえた臨床的見地から個々の事例を観察する能力を養い、発達臨床の現場における支援についての視野を広げることをねらいとする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 発達臨床心理学とは？
2	乳幼児期の発達と心理臨床
3	児童期・青年期の発達と心理臨床
4	青年期・中高齢期の心理臨床
5	家族システム理論
6	DSM-5と子どもの精神病理
7	神経発達障害I 知的障害、学習障害
8	神経発達障害II 自閉症
9	神経発達障害III 注意欠如・多動性障害、行為障害
10	愛着障害、情緒障害
11	摂食障害と気分障害
12	不登校、いじめ
13	子どもの貧困、ネグレクト、虐待
14	発達臨床の現場
15	発達臨床の現場
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- ・15分以上の遅刻は欠席と見なします。
- ・講義中の飲食は控えて下さい。

【評価方法】

- ・論述式学期末試験（40%）、レポート課題（25%）、グループワーク（25%）、出席状況（10%）を総合して評価する。

【テキスト】

講義では使用せず、適宜プリント資料を配布する。

【参考文献】

- ・発達臨床心理学ハンドブック 大石史博 他、ナカニシヤ出版
- ・その他の参考文献については、講義の進行に合わせて適宜紹介する。

犯罪心理学

担当教員 山入端 津由(8回)、金城 正典(8回)

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

犯罪や非行を定義した上で、犯罪や非行を理解する理論（モデル）、特に犯・非行の心理学的メカニズムについて学ぶ。これらを踏まえて、わが国の公的統計資料に現れた犯罪・非行事情の理解や、人々から関心が持たれた重大な非行や犯罪事例についても理解を深める。さらに、犯罪や非行のある人の処遇（教育）は、どのように行われているか。また、犯罪や非行のある人々の立ち直り（更生）については、どのような現状にあるのか。以上の課題について討議し、理解を深める。

【授業の展開計画】

1	オリエンテーション	山入端（専任教員）・金城（非常勤教員）
2	わが国の犯罪動向	金 城
3	非行・犯罪の諸理論	金 城
4	非行・犯罪の原因	金 城
5	重大少年犯罪	金 城
6	沖縄の少年非行	金 城
7	非行・犯罪からの立ち直り	金 城
8	社会・文化差と犯罪	山入端
9	ビデオ「少年院」（NHK）	山入端
10	犯罪の個人及び環境要因論	山入端
11	暴力犯罪	山入端
12	ホワイトカラー犯罪	山入端
13	凶悪犯罪1（永山則夫）	山入端
14	凶悪犯罪2（宅間守）	山入端
15	犯罪被害は修復できるか	山入端
16	期末試験	山入端

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席，リアクションペーパーのコメントや質問，ミニレポート，期末試験等を総合的に評価する。

【テキスト】

指定しない。

【参考文献】

- 1 犯罪心理学 犯罪の原因をどこに求めるのか 大淵憲一 倍風館 2006
- 2 最新 犯罪心理学 細江達郎 ナツメ社 2012

福祉英語Ⅱ

担当教員 ーロビンソン サイモン

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

Students will learn how to introduce themselves, giving details about their personality, life situation and interests, and they will also learn how to ask questions to generate conversation.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	First meetings
2	How are you?
3	Free time 1
4	Free time 2
5	Occupation and part-time jobs 1
6	Occupation and part-time jobs 2
7	Past 1
8	Past 2
9	Past 3
10	Past 4
11	Future 1
12	Future 2
13	Future 3
14	Future 4
15	Exam preparation
16	Exam

【履修上の注意事項】

【評価方法】

Students will be assessed on their attendance, participation in class activities, and on a final exam where they have a short self-introduction conversation with me.

【テキスト】

There is no textbook for this class - we will use photocopied materials prepared by the teacher.

【参考文献】

福祉行財政と福祉計画

担当教員 一金城 鍛

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

福祉サービス組織と経営

担当教員 神谷 牧人

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

福祉レクリエーション技術 I

担当教員 保良 昌徳・他

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

福祉レクリエーション技術Ⅱ

担当教員 保良 昌徳・他

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

フレッシュマンセミナー

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

フレッシュマンセミナーは、初年次学生（新入学生）が大学環境やキャンパスライフにスムーズに馴染んでもらうことを主たる目的として様々なプログラムを用意している。とくにゼミ学生相互の共同学習や共同作業を通して、大学における仲間づくりがスムーズにいくように働きかける内容となっている。

【授業の展開計画】

まず、大学での「学び」とは何かについてレクチャーする。高校と大学では学びの方法が異なるため、初年次学生には戸惑う者も多くいる。よって、手はじめに「大学での学び入門」について教員と学生相互に考える。

また、講義に対する取り組み方、レポートを書く技術、グループディスカッションとプレゼンテーションの技法などに取り組んでいく。

【履修上の注意事項】

学年全体での合同ゼミも含め、毎回出席確認を行う。また、5月に行われる新入生一日合同研修には必ず出席すること。

【評価方法】

全体を100点満点とした場合、そのうち平常点（受講姿勢等）が20点、提出物の提出状況が20点、グループでのディスカッションやプレゼンテーションへの取り組み姿勢が60点という配点で評価する。

【テキスト】

テキストは特にないが、参考文献等があれば適宜紹介する。

【参考文献】

適宜紹介する。

フレッシュマンセミナー

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態

単位数 2

【授業のねらい】

この科目は新入生を対象とした大学教育へのオリエンテーション的な内容を持つゼミナールで、入学年度（編入生は初年次）前期で履修するものである。合同研修や大学における学習のための研修を学年合同で行なっていく。同時に専攻教員による個別ゼミも行い、ゼミ担当教員がアカデミックアドバイザーとして指導を行う。クラス編制は専攻会議において行う。なお、後期開講の「基礎演習」は「フレッシュマンセミナー」と同じアカデミックアドバイザーのクラスに登録すること。

【授業の展開計画】

本科目は初年次学生向けのオリエンテーション的な内容であるため、大学生活や大学環境・サービス・仕組み等について理解していくことを内容に盛り込んでいく（図書館オリエンテーションも含む）。

また、人間福祉学科全体（心理カウンセリング専攻学生と）の合同プログラムも予定している。つまり、5月には福祉・心理専攻新入生合同の“一日研修”を本学体育館で開催し、福祉レクや心理学的ゲーム、障害者スポーツなど専攻の枠を越えて全体で体験し“仲間づくり”を目的としたプログラムを予定している。

さらに、専攻各教員をアカデミックアドバイザーとしたクラス別の個別ゼミにおいては、ゼミ担当教員の個性や専門領域に合わせた内容で大学生活の基礎作りを目指してプログラムを行う。その中では、アカデミックアドバイザーによる個別の履修指導やその他学生生活の相談等も行う。

【履修上の注意事項】

成績評価と関連するが、出席状況とプログラムへの取り組みが大きな目安となる。よって、出席と積極的な姿勢を心がけること。

【評価方法】

全体ゼミや個別クラスにおける出席状況を重視するが、個々のプログラムに取り組む姿勢等も考慮する。なお、最終評価は各アカデミックアドバイザーからの報告をもって行う。

【テキスト】

とくにない、適宜プリント等を配布する。

【参考文献】

とくにない、適宜プリント等を配布する。

フレッシュマンセミナー

担当教員 岩田 直子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

フレッシュマンセミナー

担当教員 知名 孝

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人間福祉学科社会福祉専攻1年生を対象としたこの科目は、これから福祉を学んでいくための基礎的な学力、大学で学ぶこととこれまでの学び方（文化）のちがいを習得することを目的とする。義務教育とはことなるゼミ活動を経験することで、今後の福祉の学びの基盤を築いていく。

【授業の展開計画】

専攻主任を中心に専攻教員が作成した合同ゼミ、全体企画と個別の担当教員の作成するもので授業が展開される。全体ゼミ確定次第、個別ゼミにおいて具体的なスケジュールを報告していく。

【履修上の注意事項】

調べ学習、発表、グループワーク、ボランティア実習などさまざまなゼミ活動を行っていく。

【評価方法】

ゼミ活動への参加、出席、課題の提出状況などを総合的に評価する。

【テキスト】

それぞれの授業のなかで紹介していく。

【参考文献】

保健医療サービス

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

わが国における保健医療サービスの現状を知り、また、今後の動向について学ぶ。また、高齢社会を背景として、今後さらに進展する保健・医療・福祉の連携のもとで展開される地域包括ケアシステムについて修得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス・保健医療サービスとは
2	保健医療サービスとその構成要素
3	医療資源①
4	医療資源②
5	医療資源③
6	医療資源④
7	保健医療サービスの専門職とその役割① 医療ソーシャルワーカー
8	保健医療サービスの専門職とその役割② 医療ソーシャルワーカー
9	病病・病診・病福連携の手段としてのクリティカルパス①
10	病病・病診・病福連携の手段としてのクリティカルパス②
11	緩和ケア①
12	緩和ケア②
13	保健・医療・福祉の連携
14	医療の出口に福祉有り
15	講義の振り返り
16	試験

【履修上の注意事項】

講義初日の講義ガイダンスには必ず出席するようにしてください。欠席の場合には登録を取り消します。試験は、期末試験を実施しますが、中間試験の実施を予定しています。

【評価方法】

評価については、まず出席回数が16回の3分の2以上であること、また、客観試験点数が中間試験及び期末試験のいずれかが60点以上であった場合を評価の対象とする。講義への出席を重視するため、客観試験が60点以上であったとしても、出席数が3分の2以上なかった場合には「不可」とするので気をつけてください。

【テキスト】

新・社会福祉養成講座17「保健医療サービス」（中央法規）

【参考文献】

「国民衛生の動向」「厚生労働白書」を参照することが望ましい。図書館及び厚生労働省ホームページから参照することができます。

ボランティア・NPO論

担当教員 一住 直広

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

ボランティア演習

担当教員 一砂川 亜紀美

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は、①実践を通して体験的にボランティア活動の意義について理解するとともに、②実際にボランティア活動を実施するために必要なスキル（企画・設計・実践）を習得し、③将来ボランティアの活動を支援するリーダーとして活動できる人材を育成することを目的とする。取り組み方法としては、ボランティアに関する情報収集・企画・設計を行い、ボランティア活動の実践へ繋げ、特に大学と地域が連携する事業に協力し積極的に取り組む。また、実践したことから得られた成果や課題等を明確にするために活動報告会及び報告書作成を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション	17	地域連携活動の実践／フィールドワーク①
2	ボランティア活動とは	18	地域連携活動の実践／フィールドワーク②
3	地域のニーズ発掘・調査①	19	地域連携活動の実践／フィールドワーク③
4	地域のニーズ発掘・調査②	20	地域連携活動の実践／フィールドワーク④
5	地域のニーズ発掘・調査③	21	活動の振り返り①
6	地域のニーズ発掘・調査④	22	地域連携活動の実践／フィールドワーク⑤
7	調査のまとめ・報告①	23	地域連携活動の実践／フィールドワーク⑥
8	調査のまとめ・報告②	24	地域連携活動の実践／フィールドワーク⑦
9	調査のまとめ・報告③	25	地域連携活動の実践／フィールドワーク⑧
10	調査のまとめ・報告④	26	活動の振り返り②
11	地域連携活動企画・設計①	27	地域連携活動の実践／フィールドワーク⑨
12	地域連携活動企画・設計②	28	地域連携活動の実践／フィールドワーク⑩
13	地域連携活動企画・設計③	29	地域連携活動の実践／フィールドワーク⑪
14	地域連携活動企画・設計④	30	地域連携活動の実践／フィールドワーク⑫
15	前期まとめ	31	全体のまとめ
16	後期オリエンテーション		

【履修上の注意事項】

- ①知識や経験を共有しあう場となるよう主体的に取り組み、自己アピールができる者を優先する。
- ②土曜日2限目にボランティア活動ができる者を優先する。
- ③時間を守り、責任を持ってボランティア活動ができる者を優先する。
- ④人間福祉学科以外の学生も履修可能とする。

【評価方法】

授業への出席状況、小レポート提出状況、活動への参加態度（積極性、リーダー性など）、活動報告書提出状況、レポート提出等により総合的に評価する。

【テキスト】

講義の中で適宜紹介していく。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介していく。

臨床心理学 I

担当教員 牛田 洋一

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「臨床心理学 I」においては、臨床心理学という学問の学問的位置づけと、その対象、基礎的理論、基礎的方法について、できるだけ幅広く具体的に解説する。講義をとおして、総合的な学問としての臨床心理学の幅広さを感じ取り、学生諸君が今後の研究対象を選択していく上での指標となることを目指す。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 臨床心理学とは：歴史的背景・援助の対象・臨床心理学の領域
3. 臨床心理学的諸問題：問題の分類とその基準
4. 臨床心理学的諸問題：小児の問題（発達障害、不登校など）
5. 臨床心理学的諸問題：思春期以降の問題（パーソナリティー障害など）
6. 臨床心理学的諸問題：老年期の問題、その他（認知症など）
7. 臨床心理学の基礎理論：人格理論（フロイト、ロジャーズなど）
8. 臨床心理学の基礎理論：発達理論（マラー、ウィニコットなど）
9. 臨床心理学的方法：心理アセスメント（知能の評価）
10. 臨床心理学的方法：心理アセスメント（パーソナリティーの評価）
11. 臨床心理学的方法：心理療法 1（来談者中心療法・認知療法など）
12. 臨床心理学的方法：心理療法 2（箱庭療法・芸術療法など）
13. 臨床心理学的方法：心理療法 3（家族療法・短期療法）
14. 臨床心理学的方法：心理療法 4（家族療法・短期療法）
15. 臨床心理学的方法：まとめ
16. 試験

【履修上の注意事項】

講義には学生として、また社会人としての常識ある態度で臨むこと。
自ら積極的に考えていくような受講態度を求める。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

各講義時に適宜ハンドアウト資料を作成し配布する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

臨床心理学Ⅰ

担当教員 大嶺 歩

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

臨床心理学の学問的な位置づけと諸理論、技法について幅広く学ぶ。さまざまな心の問題について考え、臨床心理学としてどうとらえ、関わっていくのかについて紹介する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	臨床心理学とは
3	臨床心理学の実践
4	臨床心理学の理論と技法(1)
5	臨床心理学の理論と技法(2)
6	臨床心理学の理論と技法(3)
7	アセスメント(1)
8	アセスメント(2)
9	発達障がいについて(1)
10	発達障がいについて(2)
11	臨床心理学の対象となる心の問題(1)
12	臨床心理学の対象となる心の問題(2)
13	臨床心理学の対象となる心の問題(3)
14	臨床心理学の研究活動
15	臨床心理学の社会的専門性
16	試験

【履修上の注意事項】

「学部履修規定」に沿って、試験、成績評価を行う。

【評価方法】

出席状況、試験、毎回のコメントシートを総合的に評価する。

【テキスト】

指定しない。

【参考文献】

講義の中で、適宜紹介する。

臨床心理学Ⅱ

担当教員 牛田 洋一

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「臨床心理学Ⅱ」においては、「臨床心理学Ⅰ」において解説した臨床心理学が扱う諸問題、基礎的な治療理論、臨床心理学的方法について特に重要だと思われるものをより深めて解説する。講義をとおして、総合的な学問としての臨床心理学の幅広さを感じ取り、学生諸君が今後の研究対象を選択していく上での指標となることを目指す。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 臨床心理学的諸問題：パーソナリティ障害1：特徴について
3. 臨床心理学的諸問題：パーソナリティ障害2：対応について
4. 臨床心理学的諸問題：被災者支援における臨床心理学の役割
5. 臨床心理学の基礎理論：フロイトの理論と精神分析
6. 臨床心理学的方法：投影法1 P-Fスタディー
7. 臨床心理学的方法：投影法2 ロールシャッハ・テスト
8. 臨床心理学的方法：認知行動療法（特にエリスの論理療法を中心に）
9. 臨床心理学的トピック1：治療的コミュニケーションの語用論
10. 臨床心理学的トピック2：短期療法と治療言語
11. 臨床心理学的方法：短期療法1（MRIアプローチ）
12. 臨床心理学的方法：短期療法2（BFTCアプローチ）
13. 臨床心理学的トピック3：青少年の薬物依存
14. 臨床心理学的トピック4：心と現代の脳科学
15. 全体のまとめ
16. 試験

【履修上の注意事項】

「臨床心理学Ⅰ」を受講していることが望ましい。
講義には学生として、また社会人としての常識ある態度で臨むこと。
自ら積極的に考えていくような受講態度を求める。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

講義のなかで適宜資料を配布する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

臨床心理学Ⅱ

担当教員 大嶺 歩

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

臨床心理学Ⅱでは、臨床心理学Ⅰで紹介した理論や技法、心の問題についての理解をより深めるため、架空事例を取り上げて解説する。また、予防的観点からの取り組みについても紹介する。この講義を通して、対人援助の基礎や柔軟な視点を持つということについて学んでほしい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	青年期の課題について
3	自我の発達論について
4	検査法(1)質問紙法
5	検査法(2)投影法
6	発達障がい(大人の事例)
7	強迫性障害について
8	統合失調症について
9	気分障害について
10	人格障害について
11	自殺予防の取り組み
12	依存症について
13	社交不安障害について
14	解決志向アプローチについて
15	まとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

どのテーマについても自主的に学び、深めようという積極的な態度を求める。

【評価方法】

出席状況、試験、コメントシートを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

臨床面接法 I

担当教員 平山 篤史

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

乳幼児期から老年期までの各発達段階における心理臨床的援助の特徴、基本的な留意点を解説する。また、その発達段階における事例を紹介し、それに関するディスカッションも行う。講義を通して、受講者が心理臨床の支援の大枠を理解し、その奥深さを感じ取る。講義とディスカッションを通し、自分の考えを述べ、他者の意見を聴くことで、人間について多角的な視点で見る力、考える力を伸ばすことをねらう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	心理臨床的援助のモデル、心理臨床的援助の過程
3	正常と異常、自我の機能と病態水準
4	心理臨床的援助の基本的留意点（乳幼児期）
5	心理臨床的援助の基本的留意点（児童期）
6	心理臨床的援助の基本的留意点（児童期・事例）
7	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～思春期）
8	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～思春期・事例）
9	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～後期）
10	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～後期・事例）
11	心理臨床的援助の基本的留意点（成人期）
12	心理臨床的援助の基本的留意点（成人期・事例）
13	心理臨床的援助の基本的留意点（老年期）
14	心理臨床的援助の基本的留意点（老年期・事例）
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

「臨床心理学Ⅰ・Ⅱ」を履修済みのこと。（同時履修は可能）

講義中の私語や携帯電話は厳禁。受講者参加型の講義形式をとるため、受講者には自ら積極的に考える態度を求める。毎回の講義の後に講義・ディスカッションでの感想を提出する。抽選となった場合は、4年次より優先し抽選する予定である。

【評価方法】

出席状況・毎回の授業の感想、及び期末のレポートにより評価する。

【テキスト】

講義のなかで適宜紹介する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

臨床面接法Ⅱ

担当教員 井村 弘子

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義では、臨床面接法に関する基礎的な理論を学ぶとともに、自分の内面を見つめたり、相手の気持ちを理解したりするためのワークやロールプレイなどを通して、臨床面接技法を体験的に学習することを目的とする。

【授業の展開計画】

1. はじめに（臨床面接の技法）
2. クライエントの話
3. 感情の反射
4. 焦点づけ
5. クライエントの質問
6. カウンセラーの質問（1）
7. 話し手と聞き手
8. 対話分析
9. クライエントへの応答
10. カウンセラーの質問（2）
11. カウンセラーの質問（3）
12. ケース理解
13. カウンセリングの実際
14. 援助的応答（1）
15. 援助的応答（2）
16. 学期末試験

【履修上の注意事項】

授業では、ペアや小グループでのワークが中心になる。段階を踏みながら臨床面接技法を身につけていくので、遅刻や欠席は厳禁。最後まで主体的な態度・姿勢で出席できる学生のみ受講してほしい。

【評価方法】

毎回ワークシートを配布し、授業の最後に提出してもらう。出席状況（ワークシートの提出状況）、学期末試験を総合的に判断して評価する。評価方法については、講義初日に詳細に説明する。

【テキスト】

毎回、資料とワークシートを配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

レクリエーション理論

担当教員 保良 昌徳、細田 奈々

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近年、レクリエーションは健康づくりや社会福祉（高齢者・障害者福祉）、子育て支援、保育、教育、地域づくりなど、幅広い領域で用いられています。この講義では、「楽しさ」や「心地よさ」を活用して人々の成長や生きがい、人と人のつながりを支えていくための基礎的な考え方を学びます。そのため、講義型学習にとどまらず、コミュニケーションワーク、グループワーク、プレゼンテーションといった参加型学習です。人々の豊かなライフスタイル実現を支援するために、魅力的なレクリエーションを計画・実践する力を身につけます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・福祉レクリエーションを学ぶ意義
2	これからの社会とレジャー・レクリエーション
3	レクリエーションの意義1（レクリエーションとは何か）
4	レクリエーションの意義2（レクリエーション運動の歴史とその背景）
5	レクリエーションの意義3（レクリエーションの担う役割／レクリエーション支援の考え方）
6	ライフスタイルとレクリエーション（ライフステージごとの課題とレクリエーション）
7	高齢社会とレクリエーション
8	福祉レクリエーションの内容
9	コミュニケーションの基本1（バーバルコミュニケーション／ノンバーバルコミュニケーション）
10	コミュニケーションの基本2（ホスピタリティの捉え方／ホスピタリティマインドについて）
11	アイスブレイキングの意義及びプログラミング
12	レクリエーション事業論
13	レクリエーション活動におけるリスクマネジメント
14	レクリエーション事業計画・グループワーク
15	福祉職とレクリエーション技術・まとめ
16	レポート発表と評価

【履修上の注意事項】

本講義は「レクリエーション・インストラクター」資格取得を目指しています。したがって、「福祉レクリエーション技術」とセットで履修することが望まれます。

さらに、本講義は社会で生きる「人」をテーマにしているため、受講学生同士が互いに交流し意見交換しながら多様な価値観を認め合う過程を踏んでいきます。レクリエーションの資格取得を目的とする学生はもちろんのこと、関心の高い学生の受講も歓迎します。

【評価方法】

授業への取り組み（課題）及びプレゼンテーション（40%）、レポート提出及び発表（60%）とし、出席状況も考慮しながら評価する。

【テキスト】

「レクリエーション支援の基礎」 財団法人 日本レクリエーション協会 編

【参考文献】

「福祉レクリエーション援助の方法」 財団法人 日本レクリエーション協会 編

「福祉レクリエーション援助の実際」 財団法人 日本レクリエーション協会 編

「レクリエーション活動援助法」 中央法規

老年学概論Ⅱ

担当教員 白井 ころろ

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

老年学とは、加齢に伴う心身の変化を研究し、高齢社会に起こるさまざまな問題を解決するための学問である。心身の加齢変化を追うには成長期から見ていく必要があり、社会的な側面では、高齢者と高齢者を取り巻く家族や若い世代との関係、さらには環境に至るまで視野に入る。老年医学、老年心理学、老年社会学などにまたがる学際的な研究と、ヘルスプロモーションなどを含む公衆衛生学・予防医学的な視点を学び、批判的思考と問題解決のためのスキルを身につけることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Orientation (オリエンテーション)
2	Ageing individuals and Ageing society (個人の老いと社会の老い)
3	Social Aspects of Individual Aging (個々の加齢に伴う社会的側面)
4	Longevity Research in Okinawa, Japan and Around the World (沖縄、日本、世界の長寿研究)
5	Activities and Lifestyles of Older Americans (米国の高齢者の活動とライフスタイル)
6	Health Care and Long Term Care Issues I (International Context) (医療・福祉と介護I)
7	Health Care and Long Term Care Issues II (International Context) (医療・福祉と介護II)
8	Psychology and Aging: Stress, Coping, Adaptation and Suicide (高齢者の心理と加齢、スト)
9	Successful Aging in Social and Cultural Context (社会的、文化的文脈におけるサクセスフル)
10	Spirituality, Aging and Health (スピリチュアリティ、エイジング、健康)
11	Death, Dying and Hospice (死と死ぬこと、ホスピス)
12	Social Inequality and Health I (社会的不平等と健康 I)
13	Social Inequality and Health II (社会的不平等と健康 II)
14	Family, Friends and Social Support (家族、友人とソーシャルサポート)
15	Community Social Services / Health promotion (地域サービス・健康増進・介護予防)
16	Final Exam (期末試験)

【履修上の注意事項】

上記の問題においてクラス討論が重要になるので、学生は文献等をクラスの前に読むこと。文献やクラス討論は、英語や日本語を併用する。

【評価方法】

出席状況・レポートの内容・期末試験の内容・講義中の議論など授業への参加意欲

【テキスト】

Robert C. Atchley, Amanda S. Barusch, 宮内康二 編訳 (2005)
『ジェロントロジー ―加齢の価値と社会の力学―』 きんざい。

【参考文献】

沖縄タイムス『長寿』取材班 (2004)『沖縄が長寿でなくなる日―“食” “健康” “生き方” を見つめなおす』岩波書店。
柴田 博・長田 久雄・芳賀 博・古谷野 亘 編著 (1993)『老年学入門―学際的アプローチ』川島書店。